



YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY
COLLEGE OF BUSINESS ADMINISTRATION

2017

2017

履修案内

2017
履修案内

横浜国立大学経営学部

横浜国立大学
経営学部

目 次

平成29（2017）年度学事暦

1	履修登録	
(1)	概要	1
(2)	履修登録手順	2
(3)	履修登録単位数の上限について	2
(4)	履修登録に関する注意事項	3
(5)	再履修登録に関する注意事項	5
(6)	授業時間	5
(7)	成績評価	5
2	平成29（2017）年度入学生（一般プログラム学生）	
(1)	卒業要件	9
①	卒業資格基準	
②	1単位当たりの授業時間	
③	9月卒業について	
(2)	全学教育科目	10
①	履修方法	
②	基礎科目の必修科目について	
③	全学教育科目一覧表	
④	外国語科目	
⑤	外国人留学生のための授業科目	
⑥	3～4年次に履修することにより、高度全学教育科目に認められる科目一覧	
(3)	学部教育科目	22
①	履修方法	
②	履修条件のある科目について	
③	学部教育科目一覧表	
(4)	経営学部以外の授業科目の履修	27
	経済学部開講科目	
	教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目	
	地域交流科目	
	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	
	横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）	
	国際交流科目	
	留学による単位認定	
(5)	ゼミナール	29
(6)	卒業論文試験	29
	履修モデル	31
	2017年度入学生用（一般プログラム学生） 修得単位確認表	
3	平成29（2017）年度入学生（GBEEP学生）	
(1)	卒業要件	35
①	卒業資格基準	
②	1単位当たりの授業時間	
③	9月卒業について	
(2)	全学教育科目	36
①	履修方法	
②	基礎科目の必修科目について	
③	全学教育科目一覧表	
④	外国語科目	
⑤	外国人留学生のための授業科目	
⑥	3～4年次に履修することにより、高度全学教育科目に認められる科目一覧	

(3) 学部教育科目	48
① 履修方法	
② 履修条件のある科目について	
③ 学部教育科目一覧表	
(4) 経営学部以外の授業科目の履修	55
経済学部開講科目	
教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目	
地域交流科目	
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	
横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）	
国際交流科目	
留学による単位認定	
(5) ゼミナール	56
(6) 卒業論文試験	56
履修モデル	57
2017年度入学生用（GBEEP学生） 修得単位確認表	
4 平成28（2016）年度以前入学生（昼間主コース）	
(1) 卒業要件	59
① 卒業資格基準	
② 1単位当たりの授業時間	
③ 9月卒業について	
(2) 教養（全学）教育科目	60
① 履修方法	
② 教養コア科目必修科目表	
③ 教養コア科目一覧表	
④ 基礎演習科目	
⑤ 外国語科目	
⑥ 健康スポーツ科目	
⑦ 外国人留学生のための授業科目	
(3) 専門（学部）教育科目	74
① 履修方法	
② 専門（学部）教育科目一覧表	
③ 専門（学部）教育科目新旧対照表	
④ 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
⑤ 夜間主コースとの相互履修	
(4) 経営学部以外の授業科目の履修	83
経済学部開講科目	
教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目	
地域交流科目	
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	
横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）	
国際交流科目	
留学による単位認定	
(5) ゼミナール	85
(6) 卒業論文	86
2011～2016年度入学生用（昼間主コース） 修得単位確認表	
5 平成28（2016）年度以前入学生（夜間主コース）	
(1) 卒業要件	89
① 卒業資格基準	
② 1単位当たりの授業時間	
③ 9月卒業について	
(2) 教養教育科目	90
① 必修科目	
② 夜間主教養教育科目一覧表	

③ 外国語科目	
(3) 専門教育科目	92
① 履修方法	
② 専門教育科目一覧表	
③ 専門教育科目新旧対照表	
④ 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
⑤ 昼間主コースとの相互履修	
(4) 経営学部以外の授業科目の履修	96
経済学部開講科目	
教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目	
地域交流科目	
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	
横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）	
国際交流科目	
留学による単位認定	
(5) ゼミナール	98
(6) 卒業論文試験	98
2011～2016年度入学生用（夜間主コース）修得単位確認表	
6 YCCS特別プログラムによる開講科目	99
7 キャリア教育	
(1) インターンシップ	100
(2) 海外インターンシップ	101
(3) 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス	102
8 海外での学修	103
(1) 交換留学（派遣）、私費留学（大学、短期大学）	
(2) 海外学修科目について（2017年度以降入学者適用）	
9 教育職員免許状（2016年度以前入学者のみ）	
(1) 必要な資格と単位	105
(2) 履修方法	105
(3) 教育実習	106
(4) 免許状授与申請	106
10 学務関係諸手続き	
(1) 休学、退学、除籍	107
(2) 住所変更等の届け出	108
(3) 学生証の携帯	108
(4) 在学中の証明書の発行	108
(5) 卒業後の証明書の発行	109
(6) 社会科学系経営学務係窓口受付時間帯	110
(7) ゼミ室の使用	110
(8) 進路調査票の提出	110
(9) 住所・勤務等届の提出	110
(10) 駐車許可証交付	110
(11) 経営学部コンタクト教員制度	111
(12) 留学生支援制度	111
(13) その他	112
11 横浜国立大学経営学部規則	113
12 教員一覧	116
13 経営学部建物及び教室配置図	118

平成29 (2017.4~2018.3) 年度学事暦

(春 学 期)

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
4 月							1	春学期 4/1 (土) ~ 9/30 (土) 新生・各学年オリエンテーション等 4/3 (月) ~ 4 (火)、6 (木) 入学式 4/4 (火) 英語プレースメントテスト (統一テスト) 試験日 (1年のみ) 4/5 (水) 春学期開講 4/7 (金) 春学期前半 (第1ターム) 4/7 (金) ~ 6/8 (木)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
5 月		1	2	3	4	5	6	5/1 (月) ~ 2 (火) は授業を行わない 清陵祭 5/20 (土) ~ 21 (日) < 5/20 (土) は準備を含む >
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
6 月					1	2	3	開学記念日 6/1 (木) 春学期 (前半) 試験期間 6/2 (金) ~ 6/8 (木) < 試験予備日は5時限又は別に定める日 > ※学期制授業 = 通常授業 ターム授業 = 授業45分相当含む試験期間 春学期後半 (第2ターム) 6/9 (金) ~ 8/4 (金)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
7 月							1	7/17 (月) は祝休日開講日とする 春学期 (後半) 試験期間 7/28 (金) ~ 8/4 (金) < 8/4 (金) 試験予備日 > ※ターム授業 = 授業45分相当含む試験期間
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
30	31							
8 月			1	2	3	4	5	夏季休業期間 (第3ターム) 8/5 (土) ~ 9/30 (土)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
9 月						1	2	秋季卒業式・修了式 9/15 (金) (予定) 春学期終講 9/30 (土)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	

【凡例】

-  祝休日開講日
-  試験期間
-  試験日の予備日
-  英語統一テスト

(秋 学 期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘 要
10 月	1	2	3	4	5	6	7	秋学期 10/1 (日) ~ 3/31 (土) 秋季入学式 10/4 (水) (予定) 秋学期開講 10/5 (木) 秋学期前半 (第4ターム) 10/5 (木) ~ 12/1 (金) 10/9 (月) は祝休日開講日とする
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
11 月				1	2	3	4	常盤祭 11/3 (金) ~ 5 (日) <11/3 (金) は準備日> 秋学期 (前半) 試験期間 11/27 (月) ~ 12/1 (金) <試験予備日は5時限又は別に定める日> ※学期制授業=通常授業 ターム授業=授業45分相当含む試験期間
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
12 月						1	2	秋学期後半 (第5ターム) 12/4 (月) ~ 2/13 (火) 冬季休業期間 12/26 (火) ~ 1/4 (木)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
1 月		1	2	3	4	5	6	成人の日 1/8 (月) 大学入試センター試験休業日 1/12 (金) ~ 14 (日)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
2 月					1	2	3	秋学期後半試験期間 2/5 (月) ~ 2/13 (火) <2/13 (火) 試験予備日> ※ターム授業=授業45分相当含む試験期間 英語統一テスト試験日 2/14 (水) 春季休業期間 (第6ターム) 2/15 (木) ~ 3/31 (土) 個別学力検査等試験日 (前期日程) 2/25 (日) ~ 26 (月)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28				
3 月					1	2	3	個別学力検査等試験日 (後期日程) 3/12 (月) ~ 13 (火) 卒業式・修了式 3/23 (金) (予定)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	

平成29年度学事暦

事 項	期日又は期間	備 考
春季休業期間	4月1日(土)～4月6日(木)	
入学式	4月4日(火)	
英語プレースメント(統一)テスト	4月5日(水)	
春学期開講	4月7日(金)	※1
春学期前半(第1ターム)	4月7日(金)～6月8日(木)	
授業休講期間	5月1日(月)～5月2日(火)	
補講週間	5月15日(月)～5月19日(金)	※2
清陵祭	5月20日(土)～5月21日(日) (5月20日(土)は準備含む)	
開学記念日	6月1日(木)	
第1ターム試験期間	6月2日(金)～6月8日(木)	※3
春学期後半(第2ターム)	6月9日(金)～8月4日(金)	
補講週間	7月10日(月)～7月14日(金)	※2
祝休日開講日	7月17日(月・祝)	
春学期・第2ターム試験期間	7月28日(金)～8月4日(金) (8月4日(金)は試験の予備日)	※3
夏季休業期間(第3ターム)	8月5日(土)～9月30日(土)	
秋季卒業式・修了式	9月15日(金)	(予定)
春学期終講	9月30日(土)	
夏季休業期間	10月1日(日)～10月4日(水)	
秋季入学式	10月4日(水)	(予定)
秋学期開講	10月5日(木)	※4
秋学期前半(第4ターム)	10月5日(木)～12月1日(金)	
祝休日開講日	10月9日(月・祝)	
常盤祭	11月3日(金)～11月5日(日) (11月3日(金)は準備日)	
補講週間	11月6日(月)～11月10日(金)	※2
第4ターム試験期間	11月27日(月)～12月1日(金)	※3
秋学期後半(第5ターム)	12月4日(月)～2月13日(火)	
冬季休業期間	12月26日(火)～1月4日(木)	
大学入試センター試験休業日	1月12日(金)～1月14日(日)	
補講週間	1月22日(月)～1月26日(金)	※2
秋学期・第5ターム試験期間	2月5日(月)～2月13日(火) (2月13日(火)は試験の予備日)	※3
英語統一テスト	2月14日(水)	
春季休業期間(第6ターム)	2月15日(木)～3月31日(土)	
個別学力検査等試験日(前期日程)	2月25日(日)～2月26日(月)	
個別学力検査等試験日(後期日程)	3月12日(月)～3月13日(火)	
卒業式・修了式	3月23日(金)	(予定)
秋学期終講	3月31日(土)	

※1 4月7日(金)を春学期開講日とする。

※2 補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第6限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し難い場合は、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行なうものとする。

※3 ターム試験期間には45分間相当の授業時間を含みます。

※4 10月5日(木)を秋学期開講日とする。

1 履修登録

(1) 概要

授業科目を履修するときには、指定された期間内に学務情報システムで履修登録を行う必要があります。履修手続きを行わないと、授業科目試験の受験資格がありません。たとえ授業に出席し、試験を受けたとしても単位は与えられませんので注意してください。

春学期オリエンテーションで配布される『全学教育科目履修案内』（※1年生のみ）、『経営学部履修案内』、『経営学部授業時間割』及び学務情報システム上にあるシラバス（授業概要）を参照し、1年間の履修計画を立て、履修登録を行いましょ。これらは1人1冊しか配りませんので、1年間大切に保管してください。

履修登録・場所・相談窓口は以下の通りです。

期 間	春学期 第1・2・3ターム	2017年4月7日（金）から4月21日（金）ただし、土日除く 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は、17:00（夜間主コース生は20:00）まで</u>
	秋学期 第4・5・6ターム	2017年10月5日（木）から10月20日（金）ただし、土日祝日除く 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は、17:00（夜間主コース生は20:00）まで</u>
場 所	経営学部1号館（C棟）3階PC教室（303教室） （情報基盤センターのホームページからマトリックス認証サービスを利用して学外からの登録も可能）	
相談窓口	履修登録に関する質問・相談 学務情報システムに関する質問・相談	社会科学系経営学務係（N3-4） 学務部 教育企画課（S5-1）

【注意事項】

- ① 学務情報システムのログインは、YNUユーザーアカウントのIDとパスワードで行われます。
- ② 学内のパソコンからだけでなく、情報基盤センターホームページからマトリックス認証サービスを利用することで自宅のパソコンからも履修登録することができます。
- ③ 学務情報システム及びマトリックス認証サービスの利用方法の詳細についてはオリエンテーションで配布される資料を参照してください。

【システムについて】

- ① 学生情報システム (<https://siss.jmk.ynu.ac.jp/WebInfo/p/LogIn.aspx>)
→休講、教室変更、補講、学生呼出、入学科・授業料免除選考結果、就職、お知らせ等
- ② 学務情報システム (https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/login.aspx)
→履修登録、成績参照、学習記録、ポートフォリオ等
- ③ 授業支援システム (<https://lms.ynu.ac.jp/lms/lginLgir/>)
→授業資料配布、レポート課題回収等

※授業支援システムで利用仮登録をしただけでは、授業科目の履修はできません。必ず学務情報システムで履修登録を行ってください。

(2) 履修登録手順

以下の手順で履修登録を行ってください。

- ① 履修計画を立てる。
- ② 履修登録に関する質問や相談がある場合は、事前に社会科学系経営学務係で確認する。
- ③ 履修登録期間中に学務情報システムで履修登録を行う。なお、期間内の訂正は何度でもできます。
- ④ 学務情報システムの履修時間割表で自身が立てた履修計画と照合し、訂正がある場合は、訂正期間内に学務情報システムで訂正する。
- ⑤ 履修登録確認の手続きは、登録エラーがなくなるまで行う。

(3) 履修登録単位数の上限について

経営学部では、履修科目の過剰登録を防ぎ、授業時間外学修の充実を図るため、履修登録できる単位数に上限を設定しています。学修目標に沿った履修計画を立てた上で履修登録を行って下さい。

- ・履修登録できる単位数の上限は、半期「22単位（1年次）（2017年度以降入学者）」「24単位（2年次以上）」です。ただし、成績優良者（直前半期のGPA3.0以上の者）については、上限を緩和し、28単位まで履修登録することができます。
- ・上記のうち、全学（教養）教育科目を履修登録できる単位数の上限は入学年度により異なりますので注意して下さい。

【2017年度以降入学者】

- ・全学教育科目を履修登録できる単位数の上限は「半期12単位」です。ただし、グローバル教育科目は12単位に加えて4単位を上限に超過して履修登録できます。
- ・履修上限の対象には、経営学リテラシー、学科必修科目（学部教育科目）、ゼミナール、演習、集中科目（学部教育科目）、インターンシップ、学部教育科目として認定される国際交流科目、グローバルPlus ONE、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目、横浜市内大学間単位互換（放送大学含む）、理工学部、教育学部及び都市科学部開講科目（学部教育科目）は含まれません。

※交換留学等、部局長がやむを得ない理由があると認めた場合

社会科学系経営学務係に申請し、「通年48単位」以下で春学期・秋学期間の調整を行うことができます（交換留学（派遣）決定者及び同留学後の学生については、出発年度と帰国年度に限る）。ただし、全学教育科目については上記「半期12単位」の上限の変更はありません。

【2011年度～2016年度以前入学者】

- ・教養教育科目を履修登録できる単位数の上限は「半期20単位」です。
ただし、YCCS特別プログラムにより教養教育科目として開講されている科目は、教養教育科目半期24単位、全体28単位まで上限が緩和されます。履修登録する場合は経営学務係の窓口に申し出てください。
- ・履修上限の対象には、学部必修科目（専門教育科目）、ゼミナール、集中科目（専門教育科目）、インターンシップ、教職科目、国際交流科目、グローバルPlus ONE、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目、横浜市内大学間単位互換（放送大学含む）、理工学部、教育学部及び都市科学部開講科目（専門・学部教育科目）は含まれません。

※交換留学等、部局長がやむを得ない理由があると認めた場合

社会科学系経営学務係に申請し、「通年48単位」以下で春学期・秋学期間の調整を行うことができます（交換留学（派遣）決定者及び同留学後の学生については、出発年度と帰国年度に限る）。そのうち、教養教育科目については上記「半期20単位」の上限が「半期24単位」に緩和されます。

(4) 履修登録に関する注意事項

履修登録は、春学期登録期間に春学期開講科目と通年科目、秋学期登録期間に秋学期開講科目を登録してください。

履修登録をしていない科目は受講できず、試験を受けたとしても単位は与えられません。エラーの残っている科目も同様です。

また、健康スポーツ科目や外国語科目等の一部の科目を除いて、既に単位を修得した授業科目を再履修登録することや、同一時に複数の授業を履修登録すること（重複登録）はできません。

キャンセル期間を過ぎてしまうと履修のキャンセルは出来ません。たとえ当該科目を受講しなかったとしても評価は「不可」となり、GPAの計算上不利となりますので注意してください。

クラス指定のある授業科目は、指定されたクラス分けに従って履修登録してください。また、受講制限・受講調整を行う科目では「受講者名簿」に記載のない学生はそれらの科目を履修登録できません。

なお、交換留学（派遣）決定者及び同留学後の学生に限り、履修登録期間外の履修登録を認める場合があります。（出発年度と帰国年度に限る。また、授業担当教員の十分な履修指導を受けることができる場合に限る。）詳細は経営学務係の窓口で確認して下さい。

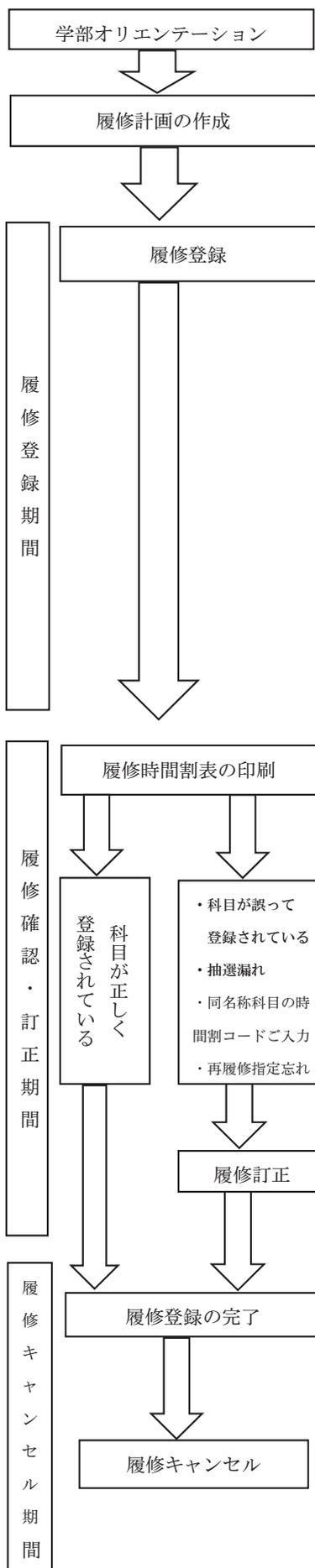
履修登録の訂正、履修科目のキャンセルの日程は次の通りです。

履修確認・訂正期間	<p>【春学期・第1・2・3ターム】 5月8日（月）～5月10日（水）</p> <p>【秋学期・第4・5・6ターム】 10月25日（水）～10月27日（金）</p> <p>9:00～21:00 ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主学生のみ20:00）まで</p>
履修登録のキャンセル期間	<p>【春学期・第1ターム】 5月15日（月）～5月19日（金）</p> <p>【第2ターム】 6月26日（月）～6月30日（金）※キャンセルは窓口申請のみ ※詳細は全学教育科目履修案内を参照</p> <p>【秋学期・第4ターム】 11月6日（月）～11月10日（金）</p> <p>【第5ターム】 12月18日（月）～12月22日（金）※キャンセルは窓口申請のみ ※詳細は全学教育科目履修案内を参照</p> <p>9:00～21:00 ※但し、第2、第5タームのキャンセルは20:00まで ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主学生のみ20:00）まで</p>

履修登録の確認は、各自忘れずに学務情報システムで行ってください。

- ① 履修登録した内容を確認し、「登録した内容と異なっている場合」及び「重複登録などの登録エラーがあった場合」は、上記の期間中に学務情報システムで訂正を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、社会科学系経営学務係へ申し出てください。
- ② 履修登録完了後に取りやめたい科目が発生した場合は、上記期間中に必ず手続きをしてください。
- ③ 登録エラーの授業科目がある場合には、キャンセル期間に学務情報システムで「履修科目のキャンセル」を行うことができません。キャンセルする場合には、上記期間中に経営学務係に申し出てください。
- ④ 登録エラーが発生した授業科目があるにも関わらず、上記期間内に「履修登録の訂正」及び「履修科目のキャンセル」の手続きを行わなかった場合は、当該科目は履修することができません。

【学部学生の履修登録の手順】



履修登録に必要な資料を受け取ります。(履修案内・時間割表など)

履修案内、WEB シラバス、時間割表で履修方法・履修条件等を確認し、自分自身が履修する授業科目の時間割表を作成してください。

初回の授業で抽選による履修人数制限を行う科目もありますので注意してください。

学期ごとの履修登録対象科目は次のとおりです。

春学期・第1・2・3ターム	秋学期・第4・5・6ターム
<ul style="list-style-type: none"> ・春学期及び通年開講科目 ・ターム開講科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋学期開講科目(通年開講科目は春学期が履修登録時期なので登録できません) ・ターム開講科目

履修登録は、以下の期間内に学務情報システムで行ってください。

春学期・第1・2・3ターム	秋学期・第4・5・6ターム
4月7日(金)～4月21日(金) [土日祝日は除く]	10月5日(木)～10月20日(金) [土日祝日は除く]

学務情報システムの利用時間は9時～21時です。ただし、最終日は17時

(経営学部夜間主は20時)までです。なお、学部指定パソコン教室の解放時間による制約がありますので、掲示等で教室の利用時間を確認してください。

学務情報システムから各自で履修時間割表を印刷してください。

履修計画どおりに履修登録されているか必ず確認してください。

春学期・第1・2・3ターム	秋学期・第4・5・6ターム
5月8日(月)～5月10日(水)	10月25日(水)～10月27日(金)

エラー科目は履修登録されていません。確認・訂正をしないでそのままにしておくと、その科目は単位認定の対象にはなりませんので注意してください。

確認の結果、履修計画どおりに登録できなかった、受講調整により履修不許可になった、エラー科目がある場合は、上記の期間内に学務情報システムで履修訂正を行ってください。履修訂正は、履修登録期間内に履修登録した者しか手続きできません。

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

履修登録完了後に履修を取りやめたい科目が出た場合は、以下の期間内に学務情報システムで履修キャンセルを行ってください。但し、第2ターム、第5タームのキャンセルは窓口申請のみです。履修キャンセル以外の追加・訂正はできません。

春学期・第1ターム	秋学期・第4ターム
5月15日(月)～5月19日(金)	11月6日(月)～11月10日(金)
第2ターム	第5ターム
6月26日(月)～6月30日(金)	12月18日(月)～12月22日(金)

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

(5) 再履修登録に関する注意事項

外国語科目、健康スポーツ科目、及び特殊講義（専門科目）を再履修する場合は、科目により履修方法が異なるので、十分注意してください。特殊講義（80ページ）の再履修者は、同一名称の特殊講義が開講されている場合は、その科目を履修してください。

同一名称の特殊講義が廃止となった場合は、特殊講義（80ページ）の中から一科目を選択し再履修してください。

(6) 授業時間

時限	時間帯	備考
1	8:50 ～ 10:20	昼間時間帯
2	10:30 ～ 12:00	
3	13:00 ～ 14:30	
4	14:40 ～ 16:10	
5	16:15 ～ 17:45	昼夜相互時間帯
6	17:50 ～ 19:20	夜間時間帯
7	19:25 ～ 20:55	

(7) 成績評価

授業科目の成績は、試験またはレポートの結果、出席状況、通常の授業における学習態度等を総合して判定します。

① 評価方法

a. 試験

対象者	履修登録をし、かつ授業回数の2分の1以上出席した者。
試験実施時期	原則として学期またはターム末。ただし、担当教員が必要と認める場合は、学期中（ターム中）に行うことがあります。
受験上の注意	学生証の提示がない学生は受験できません。学生証は試験期間中に限らず常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行申請してください（窓口：学務部 教育企画課）。再発行までに要する日数は1週間です。 ※試験日程その他詳細については掲示により別途通知します。
不正行為を行った場合の措置	不正行為を行った場合は、その学期にかかわるすべての履修登録科目の単位を没収するとともに、2ヶ月以上の停学処分とします。 ※停学処分開始時期は原則として学期初めとし、停学処分期間中の履修登録は認めません。

b. レポート

レポートの提出先、提出要領及び提出期限等については、学生用掲示板の掲示あるいは担当教員の指示に従ってください。なお、提出期限を過ぎてから社会科学系経営学務係窓口へ提出しようとしても受理することはできないので注意してください。（110ページ：(6)②「提出物（レポート等）の提出時間帯」を参照）。

c. 追試験

次に該当する事由により、学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には、当該科目について追試験の申請をすることができます。

申請事由	必要書類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書
両親又は同居の親族の死亡	事実を確認・証明できる書類
交通機関の著しい遅延・運休	
その他、部局長がやむを得ない理由があると認めたとき	

申請する際は、学期末試験期間終了後の翌日17時（休日の場合にはその翌日）までに社会科学系経営学務係まで申し出てください。本人が直接窓口申請できない場合には、代理人や電子メールによる申請も可能です。詳細は経営学務係まで問い合わせてください。国際交流科目のみ申請窓口が留学交流係となりますので、注意してください。

② 成績評価

成績評価は、シラバスに示す評価の重み付けを加味した到達度評価とし、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、及び不可（59点以下）の5段階で標記します。「可」以上の成績を修得した者に、所定の単位を与えます。なお、秀、優の成績評価基準は以下の通りです。

秀は履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること。

優は履修目標を十分達成しており、「秀」につぐ優秀な成績をおさめていること。

また、それぞれの科目の評価にGP（Grade Point）を与え、学期ごとに学生の個々の履修科目のGPにその科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPA（Grade Point Average）を算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{各科目の（GP} \times \text{単位数）の総和}}{\text{履修登録単位数}}$$

成績とGPAの関係を示すと、以下の通りです。

成績	Grade Point	評価点	基準
秀	4, 5	100 - 90 点	履修目標を越えたレベルを達成している
優	4	89 - 80 点	履修目標を達成している
良	3	79 - 70 点	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
可	2	69 - 60 点	到達目標を越えたレベルを達成している
不可	0	59点以下	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

到達目標：授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

※履修目標、到達目標と成績グレードとの関係



GPAは卒業論文提出資格要件（卒業論文試験を受験する年度初めの時点で通算GPAが2.0以上）及び卒業要件（卒業認定の時点で通算GPAが2.0以上）となりますので、十分に注意してください。卒業論文提出要件については、P29、P86、P98、卒業要件については、P9など所属コースのページで確認してください。

成績評価のうち、「不可」については、同一科目の再履修を認めます。再履修を行った場合には、再履修後の成績が採用されます。

また、再履修の場合はGPAの分母（履修登録単位数）は増えません。履修キャンセル期間を過ぎて、履修または試験を放棄した場合は「不可」となり、その科目のGPは0となるので、注意してください。

なお、以下の科目は卒業に必要な単位に算入しますが、GPAに算定しません。

入学前既修得単位として認定された科目
 編入学による認定科目
 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）によって修得した科目【注1】【注2】
 交換留学（派遣）・休学中の留学による単位認定【注1】【注2】
 国際交流科目【注1】【注3】
 インターンシップ科目
 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目【注1】

以下の科目は、卒業に必要な単位に算入せずGPAにも算定しません。

教職に関する科目
 理工学部、教育学部及び都市科学部の学部（専門）教育科目
 グローバルPlus One副専攻プログラムの開講科目「科目群A」
 卒業資格外科目

【注1】卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限があります。[27ページ（入学年度、コースごとに異なるので注意）：「経営学部以外の授業科目の履修」を参照]

【注2】単位認定されない場合もありますので、詳細は社会科学系経営学務係までお問い合わせください。

【注3】国際交流科目の取扱について、詳細は27ページ（f）国際交流科目をご確認ください。[所属する入学年度・コースの「経営学部以外の授業科目の履修」を参照]

③ 成績の確認

年2回（4月上旬・10月上旬）、それまでに履修登録した授業科目の成績を「個別成績表」として各自に通知します。

この個別成績表は再発行できないので、卒業するまで大事に保管してください。各年度に渡された個別成績表（1年～4年次の成績）を自分自身で整理し、卒業資格を満たしているかどうか必ず確認してください。

また、個別成績表配布日から約1週間（4年生の卒業判定時については、別途期間を設定）を経営学部開講科目（全学教育科目含）の「成績確認期間」としてしています。直前半期の経営学部開講科目の成績に異議のある学生は、「履修科目成績確認願」を経営学務係に提出してください。「成績確認期間」終了後は、成績異議申し立て等、一切受け付けません。経営学部開講の全学（教養）教育科目については掲示で確認してください。他学部開講の科目については、開講部局の定めに従ってください。

成績訂正の対象となるのは、教員サイドの転記ミス並びに採点ミスのみであり、成績に関する嘆願等は一切受け付けません。

なお、「卒業者名簿」は、卒業判定会議（3月中旬）を経てから、学生用掲示板に掲示します（電話・メール等での照会には応じません）。

2017年度入学者用
(一般プログラム学生対象)

2 平成29(2017)年度入学生（一般プログラム学生）

(1) 卒業要件（一般プログラム学生）

- ① 経営学部にて4年以上在学していること
- ② 卒業論文試験に合格すること
- ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
- ④ 卒業認定時に通算GPA(Grade Point Average)が2.0以上あること(GPAについては6ページを参照してください)。
以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（経営学）」の学位を授与します。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、全学教育科目（基礎科目、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、高度全学教育科目、外国語科目及び健康スポーツ科目）及び学部教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

全学教育科目	基礎科目	人文社会系科目	4単位以上	高度全学教育科目【注2】から3年次以降に4単位以上
		自然科学系科目 (うち統計科目)【注1】	4単位以上 (2単位必修)	
	グローバル教育科目		—	
	イノベーション教育科目		—	
	外国語科目	英語【注3】	8単位以上	
		英語以外の外国語	2単位以上	
	健康スポーツ科目（選択科目）【注4】		2単位まで	
	自由選択科目		—	
計		34単位以上		
学部教育科目	専門基礎科目（必修科目）		6単位	
	専門基幹科目（選択必修科目）		12単位以上	
	専門応用科目	グローバルビジネス分野	8単位以上	
		法律科目	6単位以上	
	経営学リテラシー（必修科目）		4単位	
	ゼミナール	基礎ゼミナール【注5】	2単位	
		ゼミナール【注6】	8単位	
	自由選択科目		—	
計		90単位以上		
合 計			124単位以上	

【注1】全学教育科目の「統計学Ⅰ-A」は必修科目です。

【注2】全学教育科目のうち、指定された科目の単位を3～4年次に修得した場合は、卒業資格となる高度全学教育科目の単位数に算入することができます。（「高度全学教育科目に認められる科目一覧」21ページを参照してください。）
（例）3年次に基礎科目(人文社会系)の「英米文学」2単位を修得した場合は、「基礎科目（人文社会系科目）」および「高度全学教育科目」の両方の卒業資格単位数に計上される。ただし、全学教育科目合計（34単位以上）および総合計（124単位以上）には2単位として計上される（4単位にはならない）。

【注3】17ページを参照してください。

【注4】健康スポーツ科目の単位は2単位まで卒業資格単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注5】基礎ゼミナールは2単位の選択科目で2年次秋学期に開講します。2年次の春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて配布する冊子を参考にして、履修してください（基礎ゼミナールについては29ページ参照）。

【注6】ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、学部教育科目から単位を修得してください（ゼミナールについては29ページを参照）。

② 1単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目1単位当たりの授業時間を次の通り定めています。

講義（外国語科目を除く）、基礎ゼミナール及びゼミナールⅠ・Ⅱ、演習 15時間

外国語科目、実験、実習 30時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の1時限（90分）は、授業時間外の学修を含めて2時間として単位を計算します。

外国語科目を除く講義科目、ゼミナール等演習形式の科目の場合、1週間に1時限の授業であれば、15週で2単位になります。

③ 9月卒業について

9月卒業の要件は下記の通りです。9月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

＜9月卒業の要件＞

以下の①～④全てを満たす者。

- ① 卒業認定の前年度までに卒業論文試験に合格していること
- ② 経営学部にて4年6ヶ月以上在学していること（休学、停学期間※を除く）※停学期間が3ヶ月を超える場合
- ③ 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること
- ④ 卒業認定時に通算GPA（Grade Point Average）が2.0以上あること

（2）全学教育科目

① 履修方法

全学教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『全学教育科目履修案内』に従ってください。なお、全学教育科目は半期12単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません（29ページ（3）履修登録単位数の上限について参照）。

② 基礎科目の必修科目について

経営学部生は、「統計学Ⅰ-A」は必修科目です。また、「統計学Ⅱ-A」「微分積分Ⅰ・Ⅱ」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」は経営学の学修に非常に重要であるため、履修奨励科目（※必修科目ではありません）としています。

③ 全学教育科目一覧表

a. 基礎科目：人文社会系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
哲学	2	【共通】	1～4	
宗教学	2	【共通】	1～4	
東洋思想史	2	【共通】	1～4	
倫理学	2	【共通】	1～4	
現代芸術論	2	【共通】	1～4	
Cinema	2	【共通】	1～4	
世界の音楽と文化	2	【共通】	1～4	
鍵盤楽器の名曲	2	【共通】	1～4	
民族音楽学入門	2	【共通】	1～4	
日本近現代音楽史	2	【共通】	1～4	
美術の見かた	2	【共通】	1～4	
水彩画基礎技術	2	【共通】	1～4	
色彩論	2	【共通】	1～4	
基礎造形B	2	【共通】	1～4	
日本の古典文学	2	【共通】	1～4	
日本の近代文学	2	【共通】	1～4	
中国の古典文学	2	【共通】	1～4	
英米文学	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ文学	2	【共通】	1～4	
国際理解 在日・日本語文学概論	2	【共通】	1～4	
日本の言語	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際日本学入門	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1～4	
日本前近代史	2	【共通】	1～4	
日本近現代史	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1～4	
戦争文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	【共通】	1～4	
人と自然のかかわり	2	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※1
横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1～4	※1
文化人類学の考え方	2	【共通】	1～4	
国際理解 日中比較文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 留学生支援で学ぶ異文化理解	2	【共通】	1～4	
日本国憲法	2	【共通】	1～4	
現代と法	2	【共通】	1～4	
法学概論	2	【共通】	1～4	
法と人間	2	【共通】	1～4	
現代政治（日本）	2	【共通】	1～4	
現代政治（国際）	2	【共通】	1～4	
行政組織と公務員	2	【共通】	1～4	
神奈川のみらい	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅱ	2	【共通】	1～4	
社会科学概論A	2	【共通】	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
社会科学概論B	2	【共通】	1～4	
社会科学の方法	2	【共通】	1～4	
社会科学の歴史	2	【共通】	1～4	
現代の経済A	2	教・営・理・都	1～4	
現代の経済B	2	教・営・理・都	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	【共通】	1～4	※1
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1～4	
現代の物流経営	2	【共通】	1～4	※1
経営者の役割と従業員の役割	2	【共通】	1～4	
実践新商品企画	2	【共通】	1～4	
アントレプレナー入門	2	【共通】	1～4	
心理学A	2	【共通】	1～4	
心理学B	2	【共通】	1～4	
障害と周辺領域 I	2	【共通】	1～4	
社会心理学入門	2	【共通】	1～4	
人と動物の関係学	2	【共通】	1～4	
人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1～4	
教育学（教育と人間）	2	【共通】	1～4	
学校教育最前線	2	【共通】	1～4	
職業と教育	2	【共通】	1～4	
生涯発達論	2	【共通】	1～4	
特別支援教育入門	2	【共通】	1～4	
インクルーシブ教育入門	2	【共通】	1～4	
日本語を教えよう	2	【共通】	1～4	
学外活動（教育ボランティア）	2	【共通】	1～4	
現代社会論	2	【共通】	1～4	
ESD（持続可能発展教育）入門	2	【共通】	1～4	
危機管理学	2	【共通】	1～4	
哲学 I	2	【共通】	1～4	
哲学 II	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 I	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 II	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 I	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 II	2	【共通】	1～4	
国語・国文学 I	2	【共通】	1～4	
国語・国文学 II	2	【共通】	1～4	
歴史 I	2	【共通】	1～4	
歴史 II	2	【共通】	1～4	
法学	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 I	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 II	2	【共通】	1～4	
経済 I	2	【共通】	1～4	
経済 II	2	【共通】	1～4	
心理学	2	【共通】	1～4	
社会学 I	2	【共通】	1～4	
社会学 II	2	【共通】	1～4	

※1 この科目は地域交流科目です。全学教育科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。

b. 基礎科目：自然科学系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単位	対象学部	対象学年	備考
文系のための数学入門	2	教・済・営・社	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅱ	2	【共通】	1～4	
微分積分Ⅰ	2	経営	1～4	
微分積分Ⅱ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅰ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅰ	2	済・営	1～4	
線形代数Ⅱ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅱ	2	済・営	1～4	
数理科学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学概論	2	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA	1	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	1	【共通】	1～4	
トポロジー	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学A	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	【共通】	1～4	
統計学Ⅰ－A	2	教・済・営・社	1～4	※2
統計学Ⅱ－A	2	教・済・営・社	1～4	
動力とエネルギー	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界A	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界B	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学A	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学B	2	教・済・営・社	1～4	
物理工学概論	2	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界A（物質観としての化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界B（生活の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界C（環境の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界D（生命の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
進化生物学	2	【共通】	1～4	
進化と生物多様性	2	【共通】	1～4	
がんの生物学	2	【共通】	1～4	
生命科学	2	【共通】	1～4	
生態工学	2	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅰ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅱ	1	【共通】	1～4	
身近な電気と機械	2	【共通】	1～4	
科学技術史	2	【共通】	1～4	
海事技術史	2	【共通】	1～4	
物質工学と社会	2	【共通】	1～4	
材料学入門	2	【共通】	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
エネルギー工学序論	2	【共通】	1～4	
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	
海洋工学と社会	2	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅰ	1	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅱ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅰ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅱ	1	【共通】	1～4	
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	2	【共通】	1～4	
研究開発論－大学・企業・イノベーション－	2	【共通】	2～4	
図形科学	2	【共通】	1～4	
POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作	2	【共通】	1～4	
情報科学	2	済・営	1～4	
地球環境と情報	2	【共通】	1～4	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1～4	
情報と社会	2	【共通】	1～4	
情報通信技術が培う近未来医療	2	【共通】	1～4	
情報セキュリティ入門	2	【共通】	1～4	
情報ネットワークシステム入門	2	【共通】	1～4	
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	【共通】	1～4	
ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	2	【共通】	1～4	
環境化学概論	2	【共通】	1～4	
エネルギーと環境	2	【共通】	1～4	
安全・環境と社会	2	【共通】	1～4	
建築の環境と防災	2	【共通】	1～4	
都市と建築	2	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅠ	1	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅡ	1	【共通】	1～4	
環境をめぐる諸問題Ⅰ	1	【共通】	1～4	※1
環境をめぐる諸問題Ⅱ	1	【共通】	1～4	※1
地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※1
気象学入門	2	【共通】	1～4	
応用気象学	2	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅠ	1	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅡ	1	【共通】	1～4	
おいしさの科学	2	【共通】	1～4	
衣生活の科学	2	【共通】	1～4	
居住環境論	2	【共通】	1～4	
木材と人間	2	【共通】	1～4	
健康の科学	2	【共通】	1～4	
数学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
数学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
統計学Ⅰ－B	2	教・済・営・社	1～4	
統計学Ⅱ－B	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	

※2 経営学部「経営学科」の必修科目です(社会人教育プログラムを除く)。

c. グローバル教育科目

① 世界事情科目

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
台湾事情 (映画・文学から見る台湾の文化と歴史)	2	【共通】	2～4	
韓国事情	2	【共通】	2～4	
ベトナム事情	2	【共通】	2～4	
インドネシア事情	1	【共通】	2～4	
ブラジル事情	2	【共通】	2～4	
パラグアイ事情	2	【共通】	2～4	
中国事情 I	1	【共通】	2～4	
中国事情 II	1	【共通】	2～4	
日本事情 日本の就職事情	2	【共通】	1～4	※3
日本事情 日本の舞台芸術	2	【共通】	1～4	※3
日本事情 日本の企業システム	2	【共通】	1～4	※3 (注)

※3 留学生のみ履修可能

(注) 「日本の企業システム」(国際交流科目)との重複履修はできません。

② 国際交流科目

(単位を修得しても、卒業資格外単位となる科目もあるので、不安な方は経営学務係で確認してください。)

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	【共通】	1～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	2	【共通】	2～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	2	【共通】	2～4	
Academic Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
Business Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
World Legal Systems and Management Philosophy	2	【共通】	2～4	
Arabic language and its Culture	2	【共通】	1～4	
Elements of Linguistic Knowledge	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture A	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture B	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture C	2	【共通】	1～4	
Transcultural Understanding through Foreign Languages	2	【共通】	1～4	
Multicultural Practice	2	【共通】	1～4	
Multiethnic Japan	2	【共通】	2～4	※4
Multiethnic Japan (Seminar)	1	【共通】	2～4	※4
Yokohama Studies	2	【共通】	2～4	※5
Yokohama Studies (Seminar)	1	【共通】	2～4	※5
Advertisement Art A	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art B	2	【共通】	1～4	
Business Administration and its Operation	2	【共通】	1～4	
Business Logics and Team Consensus	2	【共通】	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	【共通】	1～4	
Business Planning with Accounting and Finance	2	【共通】	2～4	
Modeling with Statistics and Meta-Data	2	【共通】	2～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
Business Planning and Proposal	2	【共通】	2～4	
Business Problem Solving and Project Management	2	【共通】	2～4	
Life-Long Planning and Global Career Design	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	【共通】	2～4	
Business Communication and Emotional Literacy	2	【共通】	1～4	
Business Planning and Intellectual Property	2	【共通】	2～4	
Plagiarism and its Regulations	2	【共通】	2～4	
ICT Literacy	2	【共通】	1～4	
ICT Project	2	【共通】	1～4	
Cyber Studies	2	【共通】	1～4	
Modeling with Calculus and Algebra	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art A I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art A II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 I	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 I	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 II	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 II	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	

※4 これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

※5 これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

d. イノベーション教育科目

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
システム・エンジニアリング	2	【共通】	1～4	
地域課題実習 I	1	【共通】	1～4	※1
地域課題実習 II	1	【共通】	1～4	※1
Wake up! プロジェクト	2	【共通】	1	
まなび座 I ・校友会リレートーク	2	【共通】	1	
キャリアデザイン	2	【共通】	1～2	
グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	※1
ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	
まなび座 II ・リーダーシップ実践	2	【共通】	2～4	
キャリア・ケーススタディ	2	【共通】	2～4	
ライフキャリアを考える	2	【共通】	1～4	

④ 外国語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業資格単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業資格となる全学教育科目の単位数に算入します。

a. 英語

経営学部の学生は以下の表を参照して履修計画を立ててください。

科目名	単位数	履修年次	備考
英語プレゼンテーション	1	1年次から履修	※全て必修科目
英語ライティング	1		
自立英語	1		
英語LR	1		
英語演習1a (ITP450点)	2	2年次から履修	※選択必修
英語演習1b (ITP500点)	2		
英語演習1c (ITP520点)	2		
英語実習	1	2年次から履修	自由選択 英語演習1a (ITP450点) を履修できない学生向け補講科目 ※卒業資格単位には算入されない

※経営学部の英語演習科目の履修方法について（社会人教育プログラムを除く）

経営学部の英語演習科目は、1年次終了時のTOEFL-ITPスコアにより、2年次以降に次の2科目（各2単位）を履修します。

「経営英語演習A・B」は、学部教育科目ですが、全学教育科目の英語科目として読み替えますので、全学教育科目の半期12単位の上限に含まれます。

- ・ TOEFL-ITP450点未満の学生
「経営英語演習A」および「経営英語演習B」
- ・ TOEFL-ITP450点以上500点未満の学生
「英語演習1a」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目
- ・ TOEFL-ITP500点以上520点未満の学生
「英語演習1b」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目
- ・ TOEFL-ITP520点以上
「英語演習1c」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目

b. 「TOEFL, IELTSスコア等による単位認定」について

TOEFL, IELTS, TOEIC, 英検において、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。単位認定は1回限りで、スコアは申請月から遡って12ヶ月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書等に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を修得した科目の場合は認定できません。

ア. 基準

- ・ TOEFL（プレイスメントテスト、英語統一テストを含む）iBT100以上、ITP600以上
- ・ IELTS 7.0以上
- ・ TOEIC 880以上
- ・ 実用英語技能検定（英検）1級

イ. 単位認定科目

1年次科目の場合

自立英語、英語LR、英語ライティング、英語プレゼンテーションの4科目4単位について「秀」を認定する。

2年次科目の場合

経営英語演習AまたはBの1科目2単位について「秀」を認定する。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写し等を添えて申請してください。

c. 英語（留学生）（日本語科目については20ページ参照）

ア. 英語圏からの留学生

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから1言語を8単位（実習4単位＋演習4単位）を修得することで、英語（外国語科目）の必要単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係に申請してください。

イ. 英語圏以外からの留学生

英語（外国語科目）8単位（実習4単位＋演習4単位）を修得してください。

d. 英語以外の外国語

英語以外の外国語（初修外国語）は1言語2単位以上を2年次から修得する必要があります。

初修外国語科目は、「実習科目」および「演習科目」に区分して編成しています。

科目名	単位数	履修学年
ドイツ語実習1【注1】 ドイツ語実習2【注1】 ドイツ語演習	1 1 2	2年次生から実習1→実習2→演習の順序で履修します。
フランス語実習1【注1】 フランス語実習2【注1】 フランス語演習	1 1 2	
中国語実習1【注2】 中国語実習2【注2】 中国語演習	1 1 2	
ロシア語実習1 ロシア語実習2 ロシア語演習	1 1 2	
朝鮮語実習1 朝鮮語実習2 朝鮮語演習	1 1 2	
イスパニア語実習1 イスパニア語実習2 イスパニア語演習	1 1 2	
ギリシャ語【注3】	1	
ラテン語【注3】	1	2年次以上
日本語中級（留学生のみ） 日本語上級（留学生のみ） 日本語演習（留学生のみ）	1 1 2	プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。

【注1】ドイツ語とフランス語では、「実習1（会話）」・「実習2（会話）」のセットを「実習1」・「実習2」のセットに代替することができます。

【注2】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注3】ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、卒業に必要な外国語には算入せず、卒業に必要な全学教育科目の単位数として算入されます。

【実習科目の履修方法】

初修外国語実習科目は、言語ごとに「〇〇語実習1」「〇〇語実習2」の2科目を開講しています。春学期に「実習1」、秋学期に「実習2」を履修します。「実習」は「1」「2」の二つを合わせて1年間で完結するような授業内容ですので、原則として、春学期・秋学期を通じて、同じ曜日・時限の同じ教員の授業を履修してください。ただし、「実習1」の単位を修得できなかった場合は、その秋学期の「実習2」を履修することはできません。

なお、同一の初修外国語について、「実習1」+「実習2」の【1セット2単位】で履修しなければ、卒業に必要な初修外国語の単位に算入することができませんので、注意してください。

2年次履修である経営学部の場合は、1年次の春学期に希望言語の予備登録を行います。詳しくはオリエンテーションで配布される資料や掲示を確認してください。

【演習科目】

演習科目は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度の知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容とし、毎週1回1時限（90分授業で2時間換算）を1セメスター（学期15週）履修により2単位修得する科目であり、授業時間での演習に加え、授業時間外における多くの学修課題が実習科目以上に付与されることとなります。

演習科目は、「〇〇語演習」「〇〇語発展演習」の2科目を開講します。これら演習科目を履修するためには、あらかじめ実習科目4科目4単位の修得が必要です。

演習科目は、授業内容や習熟度等がクラスによって異なりますので、WEBシラバスをよく確認し、学生の授業内容とレベルがあったクラスを履修してください。なお、学部教育科目の時間割の関係、あるいは学びたい言語の開講クラスが少ない等の関係から実習科目4科目4単位が履修困難な場合、条件を満たせば「実習科目」4単位修得していなくても、その言語の「演習科目」を履修することができる「スピード履修」という制度があります。

希望する場合は、各学期の履修登録の最終日の一週間前までに学生センター（学務部教育企画課全学教育係）に申し出てください。

【実習科目のスキップ履修】

本学に入学する前に初修外国語を学習した経験があるなど一定の条件を満たしている場合、初修レベルの「実習科目」を履修しないで、中級レベル「演習科目」からスキップ履修することができます。

希望する学生は、各セメスター（学期）の履修登録の最終日の1週間前までに学生センター（学務部教育企画課全学教育係）に申し出てください。

＜条件＞

1. 当該外国語の初修課程を高校その他の教育機関で学習したことがあり、証明する文書（成績証明書、履修証明書、検定合格証書等）が提出できる学生
2. 大学入試センター試験で当該外国語を受験した学生
3. 当該外国語教育に関わる本学教員が実施する初級学力試験に合格した学生

【検定初修外国語科目】

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。（詳細は全学教育科目履修案内30ページを参照してください。）

[健康スポーツ科目]

健康スポーツ演習Bは2単位まで卒業資格単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

受講を希望する者は、『全学教育科目履修案内』及び掲示等で確認してください。履修定員を超えた場合は、抽選を行い、掲示により抽選結果を発表します。

⑤ 外国人留学生のための授業科目

全学教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

a. 日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業に必要な英語以外の外国語の単位」として算入されます。その詳細は下の表の通りです。

代替できる外国語と単位	備 考
日本語科目6単位を初修外国語の単位として読み替えることができる。	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目6単位は必修(※)

※なお、プレイメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記6単位に加え、「日本語中級」4単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点でプレイメントテストを受け、日本語力のレベルによって中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者は、日本語実習科目のうち、1年次春学期には日本語中級を履修してください。1年次秋学期からは、日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することができません。1年次春学期から日本語上級を履修してください。1年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので、参考にしてください。

中級者	1年次春学期 : 日本語中級 4単位 1年次秋学期以降 : 日本語上級 4単位 : 日本語演習 2単位	合計10単位
上級者	1年次春学期 : 日本語上級 2単位 1年次秋学期以降 : 日本語上級 2単位 : 日本語演習 2単位	合計6単位

授業科目一覧

授 業 科 目		学期	単位数	履修年次	備 考
日本語科目	実習科目	日本語中級A	1	1年次春学期	中級者向けクラスであり、 上級者は履修できません。 中級者は1年次春セメ スター（春学期）に履修して ください。
		日本語中級B	1		
		日本語中級C	1		
		日本語中級D	1		
		日本語中級E	1		
		日本語中級F	1		
		日本語中級G	2		
	演習科目	日本語上級A	1	1年次～4年次	中級者は1年次秋セメ スター（秋学期）から履修で きます。
		日本語上級B	1		
		日本語上級C	1		
		日本語上級E	1		
		日本語上級H	1		
		日本語上級I	1		
		日本語上級J	1		
		日本語上級K	1		
演習科目	日本語演習A	2	1年次秋学期～4年次	演習科目は1年次秋セメ スター（秋学期）からの履修 となります。	
	日本語演習D	2			
	日本語演習E	2			

b. 日本事情科目

日本事情科目はグローバル教育科目（各国事情）において開講します。

開講科目は全学教育科目一覧表を確認してください。

⑥ 3～4年次に履修することにより、高度全学教育科目に認められる科目一覧

（基礎科目 人文社会系）

「英米文学」、「音楽と自然」、「基礎造形A」、「現代芸術論」、「鍵盤楽器の名曲」、「国際理解 国際交流における日本語の役割」、「国際理解 国際日本学入門」、「国際理解 台湾の文化と社会」、「国際理解 日韓比較文化論」、「国際理解 日本語をめぐる国際交流史」、「色彩論」、「宗教学」、「生涯発達論」、「職業と教育」、「心理学B」、「心理学史入門」、「水彩画基礎技術」、「地誌学概論」、「中国の古典文学」、「哲学」、「東洋思想史」、「都市と建築」、「日本の近代文学」、「日本の言語」、「美術の見かた」、「人と自然のかかわり」、「人と動物の関係学」、「文化人類学の考え方」、「民族音楽学入門」、「木材と人間」、「ヨーロッパ文学」、「倫理学」、「音声言語学概論」、「記述言語学概論」

（基礎科目 自然科学系）

「ICTナレッジマネジメント・コラボレーション」、「Webページ作成入門」、「衣生活の科学」、「エネルギー工学序論」、「エネルギーと環境」、「海洋工学と社会」、「環境化学概論」、「環境リスクとつきあうⅠ」、「環境リスクとつきあうⅡ」、「環境をめぐる諸問題Ⅰ」、「環境をめぐる諸問題Ⅱ」、「健康の科学」、「建築の環境と防災」、「国土学とグローバル社会Ⅰ」、「国土学とグローバル社会Ⅱ」、「古生物の科学Ⅰ」、「古生物の科学Ⅱ」、「材料学入門」、「実験で学ぶ物理学B」、「情報工学概論」、「情報セキュリティ入門」、「情報と社会」、「情報ネットワークシステム入門」、「食環境論」、「数理科学Ⅰ」、「数理科学Ⅱ」、「数理科学概論」、「生物地理学入門」、「生物の世界Ⅰ」、「生物の世界Ⅱ」、「生命科学」、「体験物理科学A」、「体験物理科学B」、「地球環境と情報」、「地球と惑星の科学Ⅰ」、「地球と惑星の科学Ⅱ」、「地質リスクマネジメントⅠ」、「地質リスクマネジメントⅡ」、「物理工学概論」、「文系のための数学入門」、「身近な電気と機械、ICTプロジェクト」、「ICTリテラシー」

2017年度入学
者用
（一般プログラム
学生対象）

(グローバル教育科目)

グローバル教育科目で開講されている科目すべて

(イノベーション教育科目)

イノベーション教育科目で開講されている科目、ただし、「キャリア形成実践知（領域）」YNUナンバリング1000番台の科目は、1年次の履修を推奨するため、高度全学教育科目に含まない。

※「数理統計」、「知的財産法」は、全学教育科目と学部教育科目の両方で開講されるが、同一名称であっても全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意すること。全学教育科目と学部教育科目両方の「数理統計」、「知的財産法」を同一学期中に同時に履修することはできない。そして、全学教育科目または学部教育科目いずれか一方の単位を修得した場合、他方の「数理統計」、「知的財産法」を重複して単位を修得することもできない。また、既に単位を修得した「数理統計」、「知的財産法」については、全学教育科目または学部教育科目いずれかの時間割コードへ変更することも認めない。

(3) 学部教育科目

① 履修方法

次の「学部教育科目履修基準表」により、「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業にかかわる必修科目及び選択必修科目を「学部教育科目一覧表」(23～26ページを参照)で確認し、履修してください。

学部教育科目履修基準表【2017年度以降入学生（一般プログラム学生対象）】

区分	学 科	
	経 営 学 科	
専門基礎科目 (すべて必修科目)	経営学概論	2単位
	会計学概論	2単位
	経営科学概論	2単位
専門基幹科目	12単位以上選択必修	
専門応用科目	・グローバルビジネス分野	8単位以上
	・法律科目	6単位以上
演習科目	経営学リテラシー（必修科目）4単位【注1】	
	基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	ゼミナールに参加しない者、ゼミナールに参加しても単位を未修得の者は10単位 基礎ゼミナールのみ修得した者は8単位 基礎ゼミナールとゼミナールⅠを取得したものは4単位を学部教育科目から修得してください。
自由選択科目	経営学部で開講している学部教育科目、インターンシップ等から選択できます。	
計	90単位以上	

【注1】必修科目の「経営学リテラシー」は、入学時にクラス分けを行います。詳細は掲示等でお知らせしますので、各自確認してください。

② 履修条件のある科目について

以下の学部教育科目は、前提科目となる学部教育科目の単位を修得していなければ履修出来ません。

学部教育科目	前提となる学部教育科目
簿記論Ⅱ	簿記論Ⅰ
国際会計制度	会計学概論
English for Business	経営学概論
管理会計論Ⅱ	管理会計論Ⅰ

③ 学部教育科目一覧表

〈専門基礎科目〉

以下の3つの科目はすべて必修科目です。

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
経 営 学 概 論	春	2	1	公文蔵人
会 計 学 概 論	春	2	1	木村晃久
経 営 科 学 概 論	春	2	1	郭 沛 俊

〈専門基幹科目〉

以下の科目から12単位以上修得しなければなりません。

(※は非常勤講師)

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
経 営 戦 略 論	春	2	1	高井文子
経 営 組 織 論	春	2	1	※佐藤秀典
キャリア・マネジメント	秋	2	1	二神枝保
簿 記 論 Ⅰ	春	2	1	泉 宏 之
簿 記 論 Ⅱ	秋	2	1	原 俊 雄
原 価 会 計 論	秋	2	1	高橋賢
ビジネス・エコノミクス	春	2	1	森田洋
経 営 情 報 論	春	2	1	佐藤亮
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	秋	2	1	鶴見裕之
コーポレート・ファイナンス	秋	2	1	森田洋
言語コミュニケーション論	春	2	1	小林正佳

〈専門応用科目・マネジメント分野〉

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	備 考
組 織 間 関 係 論		2	2	2018年度開講
現 代 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	2	2018年度開講
人 的 資 源 管 理 論		2	2	2018年度開講
経 営 管 理 論		2	2	2018年度開講
経 営 史		2	3	2019年度開講
雇 用 社 会 論		2	2	2018年度開講
産 業 社 会 論		2	2	2018年度開講
企 業 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論		2	2	2018年度開講
経 営 行 動 科 学		2	2	2018年度開講
地 域 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論		2	3	2019年度開講
イ ノ ベ ー シ ョ ン ・ マ ネ ジ メ ン ト 論		2	3	2019年度開講
産 業 分 析		2	3	2019年度開講
技 術 経 営 論		2	2	2018年度開講
金 融 シ ス テ ム 論 I		2	2	2018年度開講
金 融 シ ス テ ム 論 II		2	2	2018年度開講
比 較 経 営 史		2	2	2018年度開講

〈専門応用科目・アカウンティング分野〉

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
財 務 会 計 論 I		2	2	2018年度開講
財 務 会 計 論 II		2	2	2018年度開講
管 理 会 計 論 I		2	2	2018年度開講
管 理 会 計 論 II		2	2	2018年度開講
監 査 論		2	2	2018年度開講
監 査 制 度 論		2	2	2018年度開講
政 府 ・ 非 営 利 会 計 論		2	2	2018年度開講
税 務 会 計 論		2	2	2018年度開講
生 態 会 計 論		2	2	2018年度開講
マ ク ロ 会 計 論		2	2	2018年度開講
財 務 分 析 論		2	3	2019年度開講
戦 略 会 計 論		2	3	2019年度開講

<専門応用科目・マネジメント・サイエンス分野>

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
意 思 決 定 論		2	2	2018年度開講
オペレーションズ・リサーチ		2	2	2018年度開講
消 費 者 行 動 論		2	2	2018年度開講
マーケティング・サイエンス		2	2	2018年度開講
流 通 論		2	2	2018年度開講
経 営 数 学		2	2	2018年度開講
ファイナンシャル・リスク・マネジメント		2	2	2018年度開講
ビ ジ ネ ス ゲ ー ム		2	3	2019年度開講
情報システムとイノベーション		2	3	2019年度開講
Operations Management		2	3	2019年度開講

<グローバルビジネス分野>

以下の科目から8単位以上修得しなければなりません。

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
国 際 経 営 論 I		2	3	2019年度開講
国 際 経 営 論 II		2	3	2019年度開講
国 際 人 的 資 源 管 理 論		2	3	2019年度開講
国際イノベーション・マネジメント論		2	3	2019年度開講
国 際 会 計 制 度		2	3	2019年度開講
国 際 市 場 戦 略 論		2	3	2019年度開講
国 際 経 営 史		2	3	2019年度開講
Business Reading		2	3	2019年度開講
International Business		2	3	2019年度開講
English for Business		2	3	2019年度開講
City Marketing and Tourism		2	3	2019年度開講

<法律科目>

以下の科目から6単位以上修得しなければなりません。

経営学部開講の全ての法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講しています。(同一科目)どちらの学部の科目も同一名称なので、経営学部の科目(時間割コードが3で始まる)で履修登録するよう注意してください。

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
憲 法		2	2	2018年度開講
行 政 法		2	3	2019年度開講
人 ・ 物 と 法		2	2	2018年度開講
取 引 と 法		2	2	2018年度開講
契 約 と 法		2	2	2018年度開講
家 族 と 法		2	3	2019年度開講
商 法 I		2	3	2019年度開講
商 法 II		2	3	2019年度開講
有 価 証 券 法		2	3	2019年度開講
裁 判 法		2	3	2019年度開講

<実践科目>

(※は非常勤講師)

区分	授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
特殊講義	Basics of Business Accounting	春	2	1	※Stuart Brison
	マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1	井 上 徹 ※伊 藤 淳 司
	英 語 討 論 (ベトナム)	秋	2	1	ソートン・タケシ
	ホスピタリティ・マネジメント		2	2	2018年度開講
	アジアグローバル経営基礎		2	2	2018年度開講
英語	経営英語演習 A 【注1】		2	2	2018年度開講
	経営英語演習 B 【注1】		2	2	2018年度開講

【注1】「経営英語演習A・B」の単位は、全学教育科目の「英語科目」の単位に算定されます。

（４）経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目で修得した単位は、最大60単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

- ①経済学部学部教育科目 ≤ 8 単位
- ②経済学部法律関係授業科目 ≤ 6 単位
- ③国際社会科学府博士課程前期経営学専攻開講科目 ≤ 8 単位
- ④横浜市内大学間（放送大学含む） ≤ 8 単位
- ⑤学部教育科目として認定される国際交流科目 ≤ 8 単位
- ⑥交換留学（派遣）・休学中の留学による単位認定 ≤ 60 単位
- ①+②+③+④+⑤+⑥ ≤ 60 単位

※ただし、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その認定単位数（最大30単位）を上限60単位から控除する。

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

a. 経済学部開講科目

①経済学部の学部教育科目は、8単位まで卒業資格となる学部教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。ただし、ゼミナール等相互履修できない科目もありますので時間割表や掲示を確認してください。

②成績はGPAに算入します。

③法律関係授業科目の単位の取り扱い

経済学部の法律関係授業科目を履修することができます。修得した単位のうち6単位までは上記①の8単位とは別に経営学部学部教育科目履修基準表に規定する法律関係授業科目の単位数に算入します。法律関係授業科目の修得単位数が6単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。

経営学部開講の全ての法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講しています。（同一科目）どちらの学部の科目も同一名称なので、経営学部の科目（時間割コードが3で始まる）で履修登録するよう注意してください。

④経営学部生が履修できる経済学部教育科目（法律関係授業科目含む）は配布する時間割表に記載しています。

b. 教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目

教育学部、理工学部及び都市科学部で開講される学部教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、それらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績もGPAに算定しません。履修希望者は社会科学系経営学務係へ相談してください。

c. 地域交流科目

地域の課題解決を担う人材を実践的に育てることを目的として開設しています。「副専攻プログラム」のひとつです。詳細は、『平成29年度地域交流科目履修案内』を参照してください。

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に社会科学系経営学務係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、社会人専修コース（ビジネス・スクール）を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は4年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、8単位まで卒業資格単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績はGPAに算入しません。
- ⑥ 学部の卒業に必要な単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、8単位まで修了に必要な単位数に算入することができます。

e. 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある12の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、学部（専門）教育科目のみです。（社会人教育プログラム学生を除く）
- ② 8単位まで卒業に必要な単位数に算入します。
- ③ 成績はGPAに算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容及び成績に基づいて、経営学部で行います。
※全ての科目が認定されるわけではありません。不安な方は社会科学系経営学務係までお問い合わせ下さい。
- ⑥ 履修希望者は学務部教育企画課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務部教育企画課へ申請してください。
※放送大学の申請手続きは横浜市内大学間の手続きとは異なります。掲示で確認して下さい。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、4月下旬に学務部教育企画課より履修希望者に通知します。

f. 国際交流科目

国際交流科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録をしますが、単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績はGPAには算入しないので気を付けてください。

ただし、経営学部学部教育科目として認定する科目は8単位を上限として卒業資格単位数に算入しますが、その成績はGPAには算入しません。

2017年度の単位認定科目は下記の通りです。

科 目 名	学 期	単 位	履修年次	担当教員
日 本 の 経 営	春	2	1	横 澤 公 道
日 本 型 生 産 管 理	春	2	1	松 井 美 樹
日 本 の 企 業 シ ス テ ム	春	2	1	長谷川 健 治

g. 留学による単位認定

交換留学（派遣）制度および休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位を認定します。

単位の認定方法はP103を参照してください。

(5) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールへの参加は指導教員の承認を得てください。ゼミナールⅠは基礎ゼミナール、ゼミナールⅡはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時 期

ゼミナールの選考は原則として2年次春学期に行います。基礎ゼミナールは2年次秋学期、ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。また、原則同一教員のゼミナールに参加することになります。

③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。（ただし、交換留学決定者は定員外とすることができます。）

④ 単 位 数

基礎ゼミナールの単位数は2単位、ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位の選択科目です。基礎ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は10単位、基礎ゼミナールのみ単位を修得した場合は8単位、基礎ゼミナール及びゼミナールⅠの単位を修得した場合は4単位を学部教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと思われる場合には、ゼミナールから除名されることがあります。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることがあります。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(6) 卒業論文試験

① 時 期

4年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3年を超えて在学（休学や3か月を超える停学期間等は除く）し、ゼミナールの単位を除く、卒業資格にかかわる学部教育科目の単位を48単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年（4年次に受験の場合は3年次）秋学期までの成績で資格が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

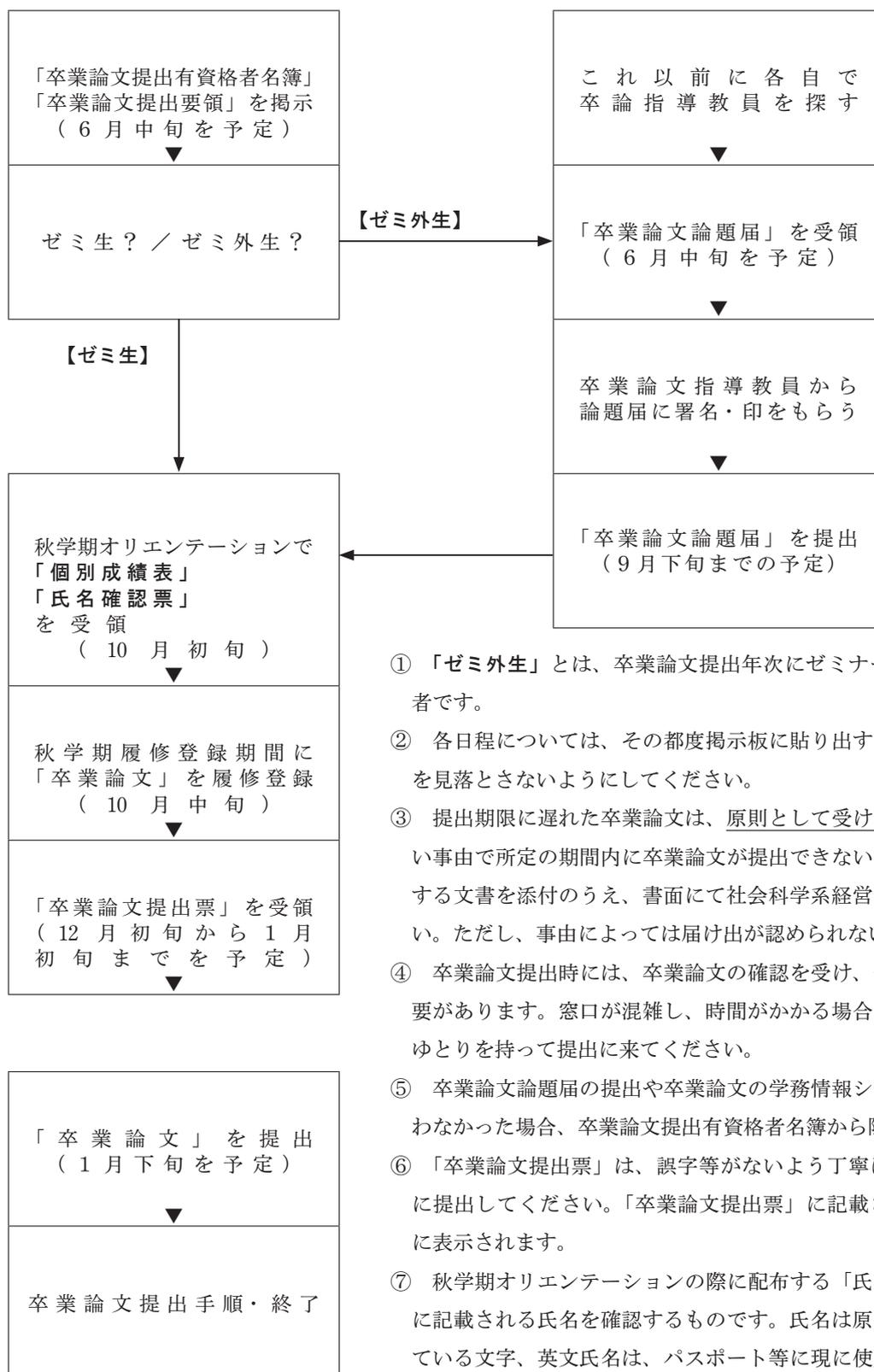
個別成績表の学部教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門など、卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の9月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系経営学務係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」を社会科学系経営学務係へ届け出てください（詳細は6月中旬に掲示します）。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

卒業論文提出手順の流れ図



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次にゼミナールⅡを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示板に貼り出すので、特に秋からの掲示を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒業論文は、原則として受け取りません。やむをえない事由で所定の期間内に卒業論文が提出できない場合は、その理由を証明する文書を添付のうえ、書面にて社会科学系経営学務係へ届け出てください。ただし、事由によっては届け出が認められないことがあります。
- ④ 卒業論文提出時には、卒業論文の確認を受け、進路調査票を提出する必要があります。窓口が混雑し、時間がかかる場合がありますので、時間にゆとりを持って提出に来てください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の学務情報システムでの履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 「卒業論文提出票」は、誤字等がないよう丁寧に記入して卒業論文と共に提出してください。「卒業論文提出票」に記載された論題は成績証明書に表示されます。
- ⑦ 秋学期オリエンテーションの際に配布する「氏名確認票」は、「学位記」に記載される氏名を確認するものです。氏名は原則として戸籍上使用されている文字、英文氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、また使用予定のものを記入してください。

履修モデル (1) マネジメントとアカウンティング

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ：グローバル化が日常となった今日、企業を取り巻く環境は激変しており、経営戦略の策定、実行という視点と、それを画餅で終わらせないようには経営活動のPDCAサイクルの実施をデータで支
 援するための管理会計という視点の両者の融合が求められている。

人材：客観的データに基づいた解析能力を持ちつつ、戦略、事業計画の策定、実行、評価ができる人材。

科目群	全学教育科目 34単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	学部教育科目90単位以上			演習科目
				【マネジメント分野】	【アカウンティング分野】	【グローバルビジネス分野】	
卒業124単位以上				専門応用科目			
1年次	英語(4) 統計学ⅠA(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	キャリア・マネジメント(2) 簿記論Ⅰ(2) 経営情報論(2) 経営戦略論(2)				経営学リテラシー(4)
2年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営管理論(2) 経営史(2) イノベーション・マネジメント論(2)	管理会計論Ⅰ(2) 管理会計論Ⅱ(2)		取引と法(2)	基礎ゼミナール(2)
3年次	高度全学教育科目		企業環境マネジメント論(2) 経営行動科学(2)	財務会計論Ⅰ(2) 財務分析論(2)	国際経営論Ⅰ(2) 国際経営論Ⅱ(2)	契約と法(2)	ゼミナールⅠ(4)
4年次				戦略会計論(2)	国際会計制度(2) International Business(2)	商法Ⅰ(2)	ゼミナールⅡ(4)
卒業論文題目	サービス業におけるバランス・スコアカードの効果に関する実証研究						
卒業後のキャリア・イメージ	製造業・サービス業の経営企画部門・コストマネジメント部門、コンサルティング						

履修モデル (2) アカウンティングとマネジメント・サイエンス

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ：グローバルスタンダードが確立された財務会計，企業財務はいまやグローバル企業の財務セクションで働くビジネスパーソンに必須の知識であり，学術的知識を身に付け，グローバルな企業が直面する財務的諸問題を発見・解決する能力を持つことが重要になっている。

人材：国際会計基準，財務分析手法を理解し，グローバルな企業に求められる財務的諸問題を発見，解決できる人材。

科目群	全学教育科目 34単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	学部教育科目90単位以上			演習科目
				【アカウンティング分野】	【マシナリ・マネジメント・サイエンス分野】	【グローバル・ビジネス分野】	
1年次	英語(4) 統計学ⅠA(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	簿記論Ⅰ(2) ビジネス・エクス(2) 経営情報論(2)				経営学リテラシー(4)
2年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営戦略論(2) 原価会計論(2) コーポレート・ファイナンス(2)	意思決定論(2) オペレーション・リサーチ(2) 経営数学(2)			基礎ゼミナール(2)
3年次	高度全学教育科目			マクロ会計論(2) 財務分析論(2) 監査論(2)	ファイナンス・リスク・マネジメント(2) 情報システムとイノベーション(2)	国際経営論Ⅰ(2) 国際会計制度(2)	商法Ⅰ(2) 商法Ⅱ(2)
4年次				Operations Management(2)		国際経営史(2) 国際市場戦略論(2)	ゼミナールⅡ(4)
卒業論文題目	日本のin-out型M&A固有の財務的問題と解決策 - 外国企業買収におけるシナジー創出の問題について -						
卒業後のキャリア・イメージ	製造業の財務部門，金融機関（特に投資銀行部門）						

履修モデル (3) マネジメントとマネジメント・サイエンス

教育への社会的ニーズ・育成する人材

社会的ニーズ：グローバルなスケールでの企業間競争が激化しつつある今日、国際経営の観点から顧客価値創造の戦略を立案するとともに、異文化圏における人材マネジメントを効果的に実践することを通じて、企業の国際競争力の構築に貢献できるようになることが求められている。

人材：客観的データに基づいたマーケティングの解析能力を持ちつつ、異文化圏でのビジネス展開を踏まえた人材マネジメントを実践できる人材。

科目群	全学教育科目 34単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	学部教育科目90単位以上			演習科目
				【マネジメント分野】	【グローバルビジネス分野】	【法律科目】	
卒業124単位以上				専門応用科目			
1年次	英語(4) 統計学ⅠA(2)	経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2)	キャリア・マネジメント(2) ビジネス・ロジクス(2) 経営情報論(2)				経営学リテラシー(4)
2年次	英語(4) 初修外国語(2)		経営戦略論(2) 経営組織論(2) マーケティング論(2)	人的資源管理論(2) 雇用社会論(2) 経営行動科学(2)	消費者行動論(2) マーケティング・サイエンス(2)		基礎ゼミナール(2)
3年次	高度全学教育科目			イノベーション・マネジメント論(2) 産業分析(2)	意思決定論(2) 流通論(2)	国際人的資源管理論(2) 国際イノベーション・マネジメント(2)	ゼミナールⅠ(4)
4年次					ビジネスゲーム(2)	国際市場戦略論(2) City Marketing and Tourism(2)	ゼミナールⅡ(4)
卒業論文題目	新興市場におけるマーケティング戦略の展開と現地人材のマネジメントに関する実証的研究						
卒業後のキャリア・イメージ	マーケティング部門、人材開発部門、製造業・サービス業の経営企画部門						

2017 年度入学生用(一般) 修得単位確認表

【全学教育科目】

項目・科目名等		チェック欄	修得 単位数	必要・上限 単位数	高度全学 教育科目 ※5
基礎科目	人文社会系	/		4単位以上	3年次以降に 4単位以上
	自然科学系 ※1	統計学 I - A (必修科目)		4単位以上	
		その他自然科学系科目	/		
グローバル教育科目		/		—	
イノベーション教育科目		/		—	
英語	全員対象	英語プレゼンテーション		8単位	
		英語ライティング			
		英語 LR			
		自立英語			
	TOEFL-ITP450 点 未満対象	経営英語演習 A ※2			
		経営英語演習 B ※2			
	TOEFL-ITP450 点 以上対象	英語演習1 ※3			
経営英語演習 (A, Bのいずれか) ※2					
英語以外の外国語				2単位	
健康スポーツ科目(選択科目) ※4		/		2単位まで	
合計①				34単位以上	

※1 自然科学系は統計学の単位数を含む

※2 経営英語演習 A・B は経営学部教育科目として開講しますが、単位修得後は、全学教育科目の英語の単位に振り替えられます。

※3 英語演習1 (TOEFL-ITP450 点以上)は、TEOFL-ITP のスコアに応じて、英語演習1a~1c いずれか 1 科目が必修となります。

※4 健康スポーツ科目は2単位まで卒業に関わる単位数に算入します。2単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することはできません。

※5 高度全学教育科目は、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、学部指定基礎科目の中から3年次以降に4単位以上修得する必要があります。

【学部教育科目】

項目・科目名等		チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
必修科目	経営学リテラシー			4単位
	専門基礎科目	経営学概論		6単位
		会計学概論		
経営科学概論				
選択必修	専門基幹科目			12単位以上
	専門応用科目	グローバルビジネス分野		8単位以上
		法律科目(経営学部開講法律科目)		6単位以上
その他専門応用科目	/		—	
自由選択	海外学修科目	/		—
	実践科目	インターンシップ	/	6単位まで
		海外インターンシップ	/	6単位まで
		インターンシップ留学	/	6単位まで
		特殊講義	/	—
	その他科目 ※2	経済学部開講 法律科目 ※1	/	6単位まで
		経済学部開講 学部教育科目	/	8単位まで
		国際社会科学府 経営学専攻博士課程前期開講科目	/	8単位まで
		横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)	/	8単位まで
		国際交流科目	/	8単位まで
基礎ゼミナール		/	最大10単位	
ゼミナール I	/			
ゼミナール II	/			
合計②				90単位以上
合計①+②				124単位以上

※1 経済学部開講 法律関係科目について

この科目の単位は、6 単位まで選択必修科目の法律科目として算入できます。6 単位を超えて修得した単位は、経済・学部教育科目として算入することができます。ただし、経済・学部教育科目には上限が設定されていますので、8 単位を超えて算入することができません。

(例)法律関係科目 8 単位 + 学部教育科目 6 単位 → 法律関係科目として 6 単位、学部教育科目として 8 単位を卒業に必要な単位数に算入できる

(例)法律関係科目 8 単位 + 学部教育科目 8 単位 → 法律関係科目として 6 単位、学部教育科目として 8 単位を卒業に必要な単位数に算入し、法律関係科目として修得した残り 2 単位は卒業要件外とする

※2 その他科目について

経済学部開講法律関係科目 + 経済学部開講学部教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) + 国際交流科目 + 留学認定科目 ≤ 60 単位

という上限があります。合計 60 単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することができませんのでご注意ください。

(但し、入学前の既修得単位が本学全学教育科目の単位として認定された学生については、その単位数を 60 単位から控除します。)

**2017年度入学者用
(GBEEP学生対象)**

3 平成29(2017)年度入学生(GBEEP学生)

(1) 卒業要件(GBEEP学生)

- ① 経営学部で4年以上在学していること
 - ② 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
 - ③ 卒業認定時に通算GPA(Grade Point Average)が2.0以上あること(GPAについては6ページを参照してください。)
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士(経営学)」の学位を授与します。

※修了時に副専攻プログラムとして、「Global Business and Economics教育プログラム(主専攻:経営学、副専攻:経済学)」の修了証書を授与します。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、全学教育科目(基礎科目、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、高度全学教育科目、外国語科目及び健康スポーツ科目)及び学部教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

全学教育科目	基礎科目	人文社会系科目	4単位以上	高度全学教育科目【注2】から3年次以降に4単位以上
		自然科学系科目(うち統計科目)【注1】	4単位以上(2単位必修)	
	グローバル教育科目		—	
	イノベーション教育科目		—	
	外国語科目	英語【注3】	8単位以上	
		英語以外の外国語	2単位以上	
	健康スポーツ科目(選択科目)【注4】		2単位まで	
	自由選択科目		—	
計		34単位以上		
学部教育科目	専門基礎科目(選択必修)	・経営系4単位以上 ・経済系4単位以上	8単位以上	
	専門基幹科目(選択必修)	・経営系8単位以上 ・経済系8単位以上	16単位以上	
	専門応用科目(選択必修)	・経営系32単位以上 ・経済系12単位以上	44単位以上	
	海外学修科目(選択必修)		2単位以上	
	Global Business and Economics (GBE) 科目群(選択必修)		10単位以上	
	経営学リテラシー(必修科目)		4単位	
	ゼミナール	基礎ゼミナール【注5】	2単位	
		ゼミナール【注5】	8単位	
自由選択科目		—		
計		98単位以上		
合計			132単位以上	

【注1】全学教育科目の「統計学I-A」は必修科目です。

【注2】全学教育科目のうち、指定された科目を3～4年次に単位を修得した場合は、卒業資格となる高度全学教育科目の単位数に算入することができます。(高度全学教育科目に認められる科目一覧)21ページを参照してください。)

(例) 3年次に基礎科目(人文社会系)の「英米文学」2単位を修得した場合は、「基礎科目(人文社会系科目)」および「高度全学教育科目」の両方の卒業資格単位数に計上される。ただし、全学教育科目合計(34単位以上)および総合計(124単位以上)には2単位として計上される(4単位にはならない)。

【注3】 経営学部生の英語科目の履修基準はTOEFLスコアごとに異なります。(43ページを参照)

【注4】 健康スポーツ科目の単位は2単位まで卒業に関わる単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注5】 基礎ゼミナール・ゼミナールの詳細は56ページを参照してください。

② 1単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目1単位当たりの授業時間を次の通り定めています。

講義(外国語科目を除く)、基礎ゼミナール及びゼミナールⅠ・Ⅱ	15時間
外国語科目、実験、実習	30時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の1時限(90分)は、授業時間外の学修を含めて2時間として単位を計算します。

外国語科目を除く講義科目、基礎演習及びゼミナールの場合、1週間に1時限の授業であれば、15週で2単位になります。

③ 9月卒業について

9月卒業の要件は下記の通りです。9月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9月卒業の要件>

以下の①～④全てを満たす者。

- ① 経営学部に4年6ヶ月以上在籍していること(休学、停学期間※を除く)※停学期間が3ヶ月を超える場合
- ② 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること
- ③ 卒業認定時に通算GPA(Grade Point Average)が2.0以上あること

(2) 全学教育科目

① 履修方法

全学教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『全学教育科目履修案内』に従ってください。なお、全学教育科目は半期12単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。(2ページ(3)履修登録単位数の上限について参照)

② 基礎科目の必修科目について

経営学部生は、「統計学Ⅰ-A」は必修科目です。また、「統計学Ⅱ-A」「微分積分Ⅰ・Ⅱ」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」は経営学の学修に非常に重要であるため、履修奨励科目(※必修科目ではありません)としています。

③ 全学教育科目一覧表

a. 基礎科目：人文社会系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単位	対象学部	対象学年	備考
哲学	2	【共通】	1～4	
宗教学	2	【共通】	1～4	
東洋思想史	2	【共通】	1～4	
倫理学	2	【共通】	1～4	
現代芸術論	2	【共通】	1～4	
Cinema	2	【共通】	1～4	
世界の音楽と文化	2	【共通】	1～4	
鍵盤楽器の名曲	2	【共通】	1～4	
民族音楽学入門	2	【共通】	1～4	
日本近現代音楽史	2	【共通】	1～4	
美術の見かた	2	【共通】	1～4	
水彩画基礎技術	2	【共通】	1～4	
色彩論	2	【共通】	1～4	
基礎造形B	2	【共通】	1～4	
日本の古典文学	2	【共通】	1～4	
日本の近代文学	2	【共通】	1～4	
中国の古典文学	2	【共通】	1～4	
英米文学	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ文学	2	【共通】	1～4	
国際理解 在日・日本語文学概論	2	【共通】	1～4	
日本の言語	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際日本学入門	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1～4	
日本前近代史	2	【共通】	1～4	
日本近現代史	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1～4	
戦争文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	【共通】	1～4	
人と自然のかかわり	2	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※1
横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1～4	※1
文化人類学の考え方	2	【共通】	1～4	
国際理解 日中比較文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 留学生支援で学ぶ異文化理解	2	【共通】	1～4	
日本国憲法	2	【共通】	1～4	
現代と法	2	【共通】	1～4	
法学概論	2	【共通】	1～4	
法と人間	2	【共通】	1～4	
現代政治（日本）	2	【共通】	1～4	
現代政治（国際）	2	【共通】	1～4	
行政組織と公務員	2	【共通】	1～4	
神奈川のみらい	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅱ	2	【共通】	1～4	
社会科学概論A	2	【共通】	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
社会科学概論B	2	【共通】	1～4	
社会科学の方法	2	【共通】	1～4	
社会科学の歴史	2	【共通】	1～4	
現代の経済A	2	教・営・理・都	1～4	
現代の経済B	2	教・営・理・都	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	【共通】	1～4	※1
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1～4	
現代の物流経営	2	【共通】	1～4	※1
経営者の役割と従業員の役割	2	【共通】	1～4	
実践新商品企画	2	【共通】	1～4	
アントレプレナー入門	2	【共通】	1～4	
心理学A	2	【共通】	1～4	
心理学B	2	【共通】	1～4	
障害と周辺領域 I	2	【共通】	1～4	
社会心理学入門	2	【共通】	1～4	
人と動物の関係学	2	【共通】	1～4	
人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1～4	
教育学（教育と人間）	2	【共通】	1～4	
学校教育最前線	2	【共通】	1～4	
職業と教育	2	【共通】	1～4	
生涯発達論	2	【共通】	1～4	
特別支援教育入門	2	【共通】	1～4	
インクルーシブ教育入門	2	【共通】	1～4	
日本語を教えよう	2	【共通】	1～4	
学外活動（教育ボランティア）	2	【共通】	1～4	
現代社会論	2	【共通】	1～4	
ESD（持続可能発展教育）入門	2	【共通】	1～4	
危機管理学	2	【共通】	1～4	
哲学 I	2	【共通】	1～4	
哲学 II	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 I	2	【共通】	1～4	
論理・倫理 II	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 I	2	【共通】	1～4	
美学及び美術史 II	2	【共通】	1～4	
国語・国文学 I	2	【共通】	1～4	
国語・国文学 II	2	【共通】	1～4	
歴史 I	2	【共通】	1～4	
歴史 II	2	【共通】	1～4	
法学	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 I	2	【共通】	1～4	
社会科学概論 II	2	【共通】	1～4	
経済 I	2	【共通】	1～4	
経済 II	2	【共通】	1～4	
心理学	2	【共通】	1～4	
社会学 I	2	【共通】	1～4	
社会学 II	2	【共通】	1～4	

※1 この科目は地域交流科目です。全学教育科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。

b. 基礎科目：自然科学系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単位	対象学部	対象学年	備考
文系のための数学入門	2	教・済・営・社	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅱ	2	【共通】	1～4	
微分積分Ⅰ	2	経営	1～4	
微分積分Ⅱ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅰ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅰ	2	済・営	1～4	
線形代数Ⅱ	2	経営	1～4	
線形代数Ⅱ	2	済・営	1～4	
数理科学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学概論	2	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA	1	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	1	【共通】	1～4	
トポロジー	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学A	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	【共通】	1～4	
統計学Ⅰ－A	2	教・済・営・社	1～4	※2
統計学Ⅱ－A	2	教・済・営・社	1～4	
動力とエネルギー	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界A	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界B	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学A	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学B	2	教・済・営・社	1～4	
物理工学概論	2	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界A（物質観としての化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界B（生活の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界C（環境の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界D（生命の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
進化生物学	2	【共通】	1～4	
進化と生物多様性	2	【共通】	1～4	
がんの生物学	2	【共通】	1～4	
生命科学	2	【共通】	1～4	
生態工学	2	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅰ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅱ	1	【共通】	1～4	
身近な電気と機械	2	【共通】	1～4	
科学技術史	2	【共通】	1～4	
海事技術史	2	【共通】	1～4	
物質工学と社会	2	【共通】	1～4	
材料学入門	2	【共通】	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
エネルギー工学序論	2	【共通】	1～4	
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	
海洋工学と社会	2	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅰ	1	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅱ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅰ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅱ	1	【共通】	1～4	
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	2	【共通】	1～4	
研究開発論－大学・企業・イノベーション－	2	【共通】	2～4	
図形科学	2	【共通】	1～4	
POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作	2	【共通】	1～4	
情報科学	2	済・営	1～4	
地球環境と情報	2	【共通】	1～4	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1～4	
情報と社会	2	【共通】	1～4	
情報通信技術が培う近未来医療	2	【共通】	1～4	
情報セキュリティ入門	2	【共通】	1～4	
情報ネットワークシステム入門	2	【共通】	1～4	
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	【共通】	1～4	
ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	2	【共通】	1～4	
環境化学概論	2	【共通】	1～4	
エネルギーと環境	2	【共通】	1～4	
安全・環境と社会	2	【共通】	1～4	
建築の環境と防災	2	【共通】	1～4	
都市と建築	2	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅠ	1	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅡ	1	【共通】	1～4	
環境をめぐる諸問題Ⅰ	1	【共通】	1～4	※1
環境をめぐる諸問題Ⅱ	1	【共通】	1～4	※1
地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※1
気象学入門	2	【共通】	1～4	
応用気象学	2	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅠ	1	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅡ	1	【共通】	1～4	
おいしさの科学	2	【共通】	1～4	
衣生活の科学	2	【共通】	1～4	
居住環境論	2	【共通】	1～4	
木材と人間	2	【共通】	1～4	
健康の科学	2	【共通】	1～4	
数学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
数学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
統計学Ⅰ－B	2	教・済・営・社	1～4	
統計学Ⅱ－B	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
物理学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
化学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	

※2 経営学部「経営学科」の必修科目です(社会人教育プログラムを除く)。

c. グローバル教育科目

① 世界事情科目

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
台湾事情 (映画・文学から見る台湾の文化と歴史)	2	【共通】	2～4	
韓国事情	2	【共通】	2～4	
ベトナム事情	2	【共通】	2～4	
インドネシア事情	1	【共通】	2～4	
ブラジル事情	2	【共通】	2～4	
パラグアイ事情	2	【共通】	2～4	
中国事情 I	1	【共通】	2～4	
中国事情 II	1	【共通】	2～4	
日本事情 日本の就職事情	2	【共通】	1～4	※3
日本事情 日本の舞台芸術	2	【共通】	1～4	※3
日本事情 日本の企業システム	2	【共通】	1～4	※3 (注)

※3 留学生のみ履修可能

(注) 「日本の企業システム」(国際交流科目)との重複履修はできません。

② 国際交流科目

(単位を修得しても、卒業資格外単位となる科目もあるので、不安な方は経営学務係で確認してください。)

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	【共通】	1～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	2	【共通】	2～4	
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	2	【共通】	2～4	
Academic Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
Business Presentation Skills	2	【共通】	2～4	
World Legal Systems and Management Philosophy	2	【共通】	2～4	
Arabic 1 language and its Culture	2	【共通】	1～4	
Elements of Linguistic Knowledge	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture A	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture B	2	【共通】	1～4	
Business Japanese Language and Culture C	2	【共通】	1～4	
Transcultural Understanding through Foreign Languages	2	【共通】	1～4	
Multicultural Practice	2	【共通】	1～4	
Multiethnic Japan	2	【共通】	2～4	※4
Multiethnic Japan (Seminar)	1	【共通】	2～4	※4
Yokohama Studies	2	【共通】	2～4	※5
Yokohama Studies (Seminar)	1	【共通】	2～4	※5
Advertisement Art A	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art B	2	【共通】	1～4	
Business Administration and its Operation	2	【共通】	1～4	
Business Logics and Team Consensus	2	【共通】	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	【共通】	1～4	
Business Planning with Accounting and Finance	2	【共通】	2～4	
Modeling with Statistics and Meta-Data	2	【共通】	2～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
Business Planning and Proposal	2	【共通】	2～4	
Business Problem Solving and Project Management	2	【共通】	2～4	
Life-Long Planning and Global Career Design	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	【共通】	2～4	
Business Communication and Emotional Literacy	2	【共通】	1～4	
Business Planning and Intellectual Property	2	【共通】	2～4	
Plagiarism and its Regulations	2	【共通】	2～4	
ICT Literacy	2	【共通】	1～4	
ICT Project	2	【共通】	1～4	
Cyber Studies	2	【共通】	1～4	
Modeling with Calculus and Algebra	2	【共通】	1～4	
Advertisement Art A I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art A II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B I (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Advertisement Art B II (Seminar)	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 I	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 I	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 II	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 II	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	

※4 これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

※5 これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

d. イノベーション教育科目

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
システム・エンジニアリング	2	【共通】	1～4	
地域課題実習 I	1	【共通】	1～4	※1
地域課題実習 II	1	【共通】	1～4	※1
Wake up! プロジェクト	2	【共通】	1	
まなび座 I ・校友会リレートーク	2	【共通】	1	
キャリアデザイン	2	【共通】	1～2	
グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	※1
ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	
まなび座 II ・リーダーシップ実践	2	【共通】	2～4	
キャリア・ケーススタディ	2	【共通】	2～4	
ライフキャリアを考える	2	【共通】	1～4	

④ 外国語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業に必要な全学教育科目の単位数に算入します。

a. 英語

経営学部の学生は以下の表を参照して履修計画を立ててください。

科目名	単位数	履修年次	備考
英語プレゼンテーション	1	1年次から履修	※全て必修科目
英語ライティング	1		
自立英語	1		
英語LR	1		
英語演習1a (ITP450点)	2	2年次から履修	※選択必修
英語演習1b (ITP500点)	2		
英語演習1c (ITP520点)	2		
英語実習	1	2年次から履修	自由選択 英語演習1a (ITP450点) 履修できない学生向け補講科目 <u>※卒業に必要な単位には算入されない</u>

2017年度入学者用
(GBEEP学生対象)

※経営学部の英語演習科目の履修方法について（社会人教育プログラムを除く）

経営学部の英語演習科目は、1年次終了時のTOEFL-ITPスコアにより、2年次以降に次の2科目（各2単位）を履修します。

なお、「経営英語演習A・B」は、学部教育科目に属している科目ですが、全学教育科目の英語科目として読み替えますので、全学教育科目の半期12単位の上限に含まれます。

- ・ TOEFL-ITP450点未満の学生
「経営英語演習A」および「経営英語演習B」
- ・ TOEFL-ITP450点以上500点未満の学生
「英語演習1a」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目
- ・ TOEFL-ITP500点以上520点未満の学生
「英語演習1b」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目
- ・ TOEFL-ITP520点以上
「英語演習1c」および「経営英語演習A・B」のいずれか1科目

b. 「TOEFL, IELTSスコア等による単位認定」について

TOEFL, IELTS, TOEIC, 英検において、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。単位認定は1回限りで、スコアは申請月から遡って12ヶ月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書等に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を修得した科目の場合は認定できません。

ア. 基準

- ・ TOEFL (プレースメントテスト、英語統一テストを含む) iBT100以上、ITP600以上
- ・ IELTS 7.0以上
- ・ TOEIC 880以上
- ・ 実用英語技能検定 (英検) 1級

イ. 単位認定科目

1年次科目の場合

自立英語、英語LR、英語ライティング、英語プレゼンテーションの4科目4単位について「秀」を認定する。

2年次科目の場合

経営英語演習AまたはBの1科目2単位について「秀」を認定する。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写し等を添えて申請してください。

c. 英語（留学生）（日本語科目については46ページ参照）

ア. 英語圏からの留学生

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから1ヶ国語を8単位（実習4単位＋演習4単位）を修得することで、英語（外国語科目）の必要単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係に申請してください。

イ. 英語圏以外からの留学生

英語（外国語科目）8単位（実習4単位＋演習4単位）を修得してください。

d. 英語以外の外国語

英語以外の外国語（初修外国語）は1言語2単位以上を2年次から修得する必要があります。

初修外国語科目は、「実習科目」および「演習科目」に区分して編成しています。

科目名	単位数	履修学年
ドイツ語実習1【注1】 ドイツ語実習2【注1】 ドイツ語演習	1 1 2	2年次生から実習1→実習2→演習の順序で履修します。
フランス語実習1【注1】 フランス語実習2【注1】 フランス語演習	1 1 2	
中国語実習1【注2】 中国語実習2【注2】 中国語演習	1 1 2	
ロシア語実習1 ロシア語実習2 ロシア語演習	1 1 2	
朝鮮語実習1 朝鮮語実習2 朝鮮語演習	1 1 2	
イスパニア語実習1 イスパニア語実習2 イスパニア語演習	1 1 2	
ギリシャ語【注3】	1	
ラテン語【注3】	1	2年次以上
日本語中級（留学生のみ） 日本語上級（留学生のみ） 日本語演習（留学生のみ）	1 1 2	プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。

【注1】ドイツ語とフランス語では、「実習1（会話）」・「実習2（会話）」のセットを「実習1」・「実習2」のセットに代替することができます。

【注2】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注3】ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、卒業に必要な外国語には算入せず、卒業に必要な全学教育科目の単位数として算入されます。

【実習科目の履修方法】

初修外国語実習科目は、言語ごとに「〇〇語実習1」「〇〇語実習2」の2科目を開講しています。春学期に「実習1」、秋学期に「実習2」を履修します。「実習」は「1」「2」の二つを合わせて1年間で完結するような授業内容ですので、原則として、春学期・秋学期を通じて、同じ曜日・時限の同じ教員の授業を履修してください。ただし、「実習1」の単位を修得できなかった場合は、その秋学期の「実習2」を履修することはできません。

なお、同一の初修外国語について、「実習1」+「実習2」の【1セット2単位】で履修しなければ、卒業に必要な初修外国語の単位に算入することができませんので、注意してください。

2年次履修である経営学部の場合は、1年次の春学期に希望言語の予備登録を行います。詳しくはオリエンテーションで配布される資料や掲示を確認してください。

【演習科目】

演習科目は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度の知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容とし、毎週1回1時限(90分授業で2時間換算)を1 Semester(学期15週)履修により2単位修得する科目であり、授業時間での演習に加え、授業時間外における多くの学修課題が実習科目以上に付与されることとなります。

演習科目は、「〇〇語演習」「〇〇語発展演習」の2科目を開講します。これら演習科目を履修するためには、あらかじめ実習科目4科目4単位の修得が必要です。

演習科目は、授業内容や習熟度等がクラスによって異なりますので、WEBシラバスをよく確認し、学生の授業内容とレベルがあったクラスを履修してください。なお、学部教育科目の時間割の関係、あるいは学びたい言語の開講クラスが少ない等の関係から実習科目4科目4単位が履修困難な場合、条件を満たせば「実習科目」4単位修得していなくても、その言語の「演習科目」を履修することができる「スピード履修」という制度があります。

希望する場合は、各学期の履修登録の最終日の一週間前までに学生センター(学務部教育企画課全学教育係)に申し出てください。

【実習科目のスキップ履修】

本学に入学する前に初修外国語を学習した経験があるなど一定の条件を満たしている場合、初修レベルの「実習科目」を履修しないで、中級レベル「演習科目」からスキップ履修することができます。

希望する学生は、各 Semester(学期)の履修登録の最終日の1週間前までに学生センター(学務部教育企画課全学教育係)に申し出てください。

<条件>

1. 当該外国語の初修課程を高校その他の教育機関で学習したことがあり、証明する文書(成績証明書、履修証明書、検定合格証書等)が提出できる学生
2. 大学入試センター試験で当該外国語を受験した学生
3. 当該外国語教育に関わる本学教員が実施する初級学力試験に合格した学生

【検定初修外国語科目】

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。(詳細は全学教育科目履修案内32ページを参照してください。)

[健康スポーツ科目]

健康スポーツ演習Bは2単位まで卒業資格にかかわる単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

受講を希望する者は、『全学教育科目履修案内』及び掲示等で確認してください。履修定員を超えた場合は、抽選を行い掲示により抽選結果を発表します。

⑤ 外国人留学生のための授業科目

全学教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

a. 日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業に必要な英語以外の外国語の単位」として算入されます。その詳細は下の表の通りです。

代替できる外国語と単位	備 考
日本語科目6単位を初修外国語の単位として読み替えることができる。	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目6単位は必修(※)

※なお、プレイメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記6単位に加え、「日本語中級」4単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点でプレイメントテストを受け、日本語力のレベルによって中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者は、日本語実習科目のうち、1年次春学期には日本語中級を履修してください。1年次秋学期からは、日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することができません。1年次春学期から日本語上級を履修してください。1年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので、参考にしてください。

中級者	1年次春学期	：	日本語中級	4単位	合計10単位
	1年次秋学期以降	：	日本語上級	4単位	
		：	日本語演習	2単位	
上級者	1年次春学期	：	日本語上級	2単位	合計6単位
	1年次秋学期以降	：	日本語上級	2単位	
		：	日本語演習	2単位	

授業科目一覧

授 業 科 目		学期	単位数	履修年次	備 考
日本語科目	実習科目	日本語中級A	1	1年次春学期	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。中級者は1年次春セメスター（春学期）に履修してください。
		日本語中級B	1		
		日本語中級C	1		
		日本語中級D	1		
		日本語中級E	1		
		日本語中級F	1		
		日本語中級G	2		
	演習科目	日本語上級A	1	1年次～4年次	中級者は1年次秋セメスター（秋学期）から履修できます。
		日本語上級B	1		
		日本語上級C	1		
		日本語上級E	1		
		日本語上級H	1		
		日本語上級I	1		
		日本語上級J	1		
		日本語上級K	1		
演習科目	日本語演習A	2	1年次秋学期～4年次	演習科目は1年次秋セメスター（秋学期）からの履修となります。	
	日本語演習D	2			
	日本語演習E	2			

b. 日本事情科目

日本事情科目はグローバル教育科目（各国事情）において開講します。

開講科目は全学教育科目一覧表を確認してください。

⑥ 3～4年次に履修することにより高度全学教育科目に認められる科目一覧

一般プログラムと同様です。（21ページを参照）

(3) 学部教育科目

① 履修方法

次の「学部教育科目履修基準表」により、「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業にかかわる必修科目及び選択必修科目を「学部教育科目一覧表」(48～54ページを参照)で確認し、履修してください。

学部教育科目履修基準表【2017年度以降入学生（GBEEP学生対象）】

区分	学 科	
	経 営 学 科	
専 門 基 礎 科 目	・ 経営系から4単位以上 ・ 経済系から4単位以上	
専 門 基 幹 科 目	・ 経営系から8単位以上 ・ 経済系から8単位以上	
専 門 応 用 科 目	・ 経営系から32単位以上 ・ 経済系から12単位以上	
海 外 学 修 科 目	2単位以上 (詳細はP104を参照)	
GBE 科 目 群	10単位以上	
演 習 科 目	経営学リテラシー（必修科目）4単位	
	基礎ゼミナール ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	ゼミナールに参加しない者、ゼミナールに参加しても単位を未修得の者は10単位 基礎ゼミナールのみ修得した者は8単位 基礎ゼミナールとゼミナールⅠを取得したものは4単位を学部教育科目から修得してください。
自 由 選 択 科 目	経営学部で開講している学部教育科目、インターンシップ等から選択できます。	
計	98単位以上	

② 履修条件のある科目について

以下の学部教育科目は、前提科目となる学部教育科目の単位を修得していなければ履修出来ません。

学部教育科目	前提となる学部教育科目
簿記論Ⅱ	簿記論Ⅰ
国際会計制度	会計学概論
English for Business	経営学概論
管理会計論Ⅱ	管理会計論Ⅰ

③ 学部教育科目一覧表

〈専門基礎科目〉

講座	授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担 当 教 員
経 営 系	経 営 学 概 論	春	2	1	公 文 蔵 人
	会 計 学 概 論	春	2	1	木 村 晃 久
	経 営 科 学 概 論	春	2	1	郭 沛 俊
経 済 系	ミ ク ロ 経 済 学 入 門	春	2	1	鶴 岡 昌 徳
	マ ク ロ 経 済 学 入 門	秋	2	1	大 森 義 明
	グ ローバル・エコノミー入門	秋	2	1	張 馨 元
	ポ リ ティカ ル・エコノミー入門	春	2	1	茂 住 政 一 郎
	経 済 史 入 門	秋	2	1	鈴 木 理 彦
	経 済 と 倫 理	春	2	1	深 貝 保 則
	法 学 入 門	春	2	1	加 藤 峰 夫
法 哲 学	春	2	1	米 村 幸 太 郎	

〈専門基幹科目〉

(※は非常勤講師)

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	担 当 教 員
経 営 系	経 営 戦 略 論	春	2	1	高 井 文 子
	経 営 組 織 論	春	2	1	※佐 藤 秀 典
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト	秋	2	1	二 神 枝 保
	簿 記 論 I	春	2	1	泉 宏 之
	簿 記 論 II	秋	2	1	原 俊 雄
	原 価 会 計 論	秋	2	1	高 橋 賢
	ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス	春	2	1	森 田 洋
	経 営 情 報 論	春	2	1	佐 藤 亮
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	秋	2	1	鶴 見 裕 之
	コ ー ポ レ ー ト ・ フ ァ イ ナ ン ス	秋	2	1	森 田 洋
	言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	春	2	1	小 林 正 佳
経 済 系	経 済 原 論 1		2	2	2018年度より開講
	経 済 原 論 2		2	2	
	ミ ク ロ 経 済 学 1		2	2	
	ミ ク ロ 経 済 学 2		2	2	
	マ ク ロ 経 済 学 1		2	2	
	マ ク ロ 経 済 学 2		2	2	
	現 代 経 済 シ ス テ ム 1		2	2	
	現 代 経 済 シ ス テ ム 2		2	2	
	経 済 史 1		2	2	
	経 済 史 2		2	2	
	経 済 政 策 1		2	2	
	経 済 政 策 2		2	2	
	経 済 数 学		2	2	
	数 理 統 計		2	2	
	計 量 経 済 学		2	2	
経 済 統 計		2	2		
憲 法		2	2		

※「数理統計」は、全学教育科目と学部教育科目の両方で開講されるが、同一名称であっても全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意すること。全学教育科目と学部教育科目両方の「数理統計」を同一学期中に同時に履修することはできない。そして、全学教育科目または学部教育科目いずれか一方の単位を修得した場合、他方の「数理統計」を重複して単位を修得することもできない。また、既に単位を修得した「数理統計」については、全学教育科目または学部教育科目いずれかの時間割コードへ変更することも認めない。

2017年度入学
学生対象
(GBEEP)

〈専門応用科目・経営系〉

・マネジメント分野

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	組 織 間 関 係 論		2	2	2018年度開講
	現 代 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	2	2018年度開講
	人 的 資 源 管 理 論		2	2	2018年度開講
	経 営 管 理 論		2	2	2018年度開講
	経 営 史		2	2	2018年度開講
	雇 用 社 会 論		2	2	2018年度開講
	産 業 社 会 論		2	2	2018年度開講
	企 業 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論		2	2	2018年度開講
	経 営 行 動 科 学		2	2	2018年度開講
	地 域 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論		2	3	2019年度開講
	イ ノ ベ ー シ ョ ン ・ マ ネ ジ メ ン ト 論		2	2	2018年度開講
	産 業 分 析		2	3	2019年度開講
	技 術 経 営 論		2	2	2018年度開講
	金 融 シ ス テ ム 論 I		2	2	2018年度開講
	金 融 シ ス テ ム 論 II		2	2	2018年度開講
比 較 経 営 史		2	2	2018年度開講	

・アカウンティング分野

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	財 務 会 計 論 I		2	2	2018年度開講
	財 務 会 計 論 II		2	2	2018年度開講
	管 理 会 計 論 I		2	2	2018年度開講
	管 理 会 計 論 II		2	2	2018年度開講
	監 査 論		2	2	2018年度開講
	監 査 制 度 論		2	2	2018年度開講
	政 府 ・ 非 営 利 制 度 論		2	2	2018年度開講
	税 務 会 計 論		2	2	2018年度開講
	生 態 会 計 論		2	2	2018年度開講
	マ ク ロ 会 計 論		2	2	2018年度開講
	財 務 分 析 論		2	3	2019年度開講
	戦 略 会 計 論		2	3	2019年度開講

・マネジメント・サイエンス分野

講座	授業科目名	学期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	意 思 決 定 論		2	2	2018年度開講
	オペレーションズ・リサーチ		2	2	2018年度開講
	消 費 者 行 動 論		2	2	2018年度開講
	マーケティング・サイエンス		2	2	2018年度開講
	流 通 論		2	2	2018年度開講
	経 営 数 学		2	2	2018年度開講
	ファイナンシャル・リスク・マネジメント		2	2	2018年度開講
	ビ ジ ネ ス ゲ ー ム		2	3	2019年度開講
	情報システムとイノベーション		2	3	2019年度開講

・グローバルビジネス分野

講座	授業科目名	学期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	国 際 経 営 論 I		2	3	2019年度開講
	国 際 経 営 論 II		2	3	2019年度開講
	国 際 人 的 資 源 管 理 論		2	3	2019年度開講
	国際イノベーション・マネジメント論		2	3	2019年度開講
	国 際 会 計 制 度		2	3	2019年度開講
	国 際 経 営 史		2	3	2019年度開講

・法律科目

講座	授業科目名	学期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	憲 法		2	2	2018年度開講
	行 政 法		2	3	2019年度開講
	人 ・ 物 と 法		2	2	2018年度開講
	取 引 と 法		2	2	2018年度開講
	契 約 と 法		2	2	2018年度開講
	家 族 と 法		2	3	2019年度開講
	商 法 I		2	3	2019年度開講
	商 法 II		2	3	2019年度開講
	有 価 証 券 法		2	3	2019年度開講
	裁 判 法		2	3	2019年度開講

・実践科目

講座	授業科目名	学期 ターム	単 位	履修学年	備 考
特殊 講義	マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1	井 上 徹 ※伊 藤 淳 司
海外 学修	英 語 討 論 (ベトナム)	秋	2	1	ソートン・タケシ

<専門応用科目・経済系>

・専門応用科目Ⅰ

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 済 系	国 際 貿 易 政 策		2	2	2018年度開講
	国 際 金 融		2	2	
	現 代 外 国 為 替 論		2	2	
	国 際 環 境 経 済 論		2	2	
	途 上 国 経 済		2	2	
	中 国 経 済		2	2	
	ロ シ ア 東 欧 経 済		2	2	
	比 較 経 済 学		2	2	
	ゲ ー ム 理 論		2	2	
	金 融 論		2	2	
	財 政 学		2	2	
	フ ァ イ ナ ン ス		2	2	
	公 共 経 済 学		2	2	
	労 働 経 済 学		2	2	
	産 業 組 織 論		2	2	
	比 較 農 業 政 策		2	2	
	地 域 経 済 政 策		2	2	
	現 代 社 会 福 祉		2	2	
	地 方 財 政		2	2	
	国 際 経 済 史		2	2	
	ア ジ ア 経 済 史		2	2	
	日 本 経 済 史		2	2	
	現 代 経 済 史		2	2	
	経 済 学 史		2	2	
人 ・ 物 と 法		2	2		
取 引 と 法		2	2		
契 約 と 法		2	2		
刑 事 法		2	2		
国 際 法		2	2		

・専門応用科目Ⅱ

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 済 系	中 級 世 界 経 済		2	3	2019年度開講
	中 級 国 際 経 済 史		2	3	
	中 級 ア ジ ア 経 済 史		2	3	
	中 級 国 際 環 境 経 済		2	3	
	中 級 比 較 農 業 政 策		2	3	
	中 級 途 上 国 経 済		2	3	
	中 級 中 国 経 済		2	3	
	中 級 ロ シ ア 東 欧 経 済		2	3	
	中 級 財 政 学		2	3	
	中 級 公 共 経 済 学		2	3	
	中 級 労 働 経 済 学		2	3	
	中 級 現 代 社 会 福 祉		2	3	
	中 級 地 域 経 済 政 策		2	3	
	中 級 地 方 財 政		2	3	
	中 級 日 本 経 済 史		2	3	
	中 級 現 代 経 済 史		2	3	
	中 級 国 際 経 済 学		2	3	
	中 級 国 際 金 融		2	3	
	中 級 現 代 外 国 為 替 論		2	3	
	中 級 金 融 論		2	3	
	中 級 フ ェ イ ナ ン ス		2	3	
	中 級 産 業 組 織 論		2	3	
	数 理 経 済 学		2	3	
	中 級 数 理 統 計		2	3	
	中 級 計 量 経 済 学		2	3	
	中 級 経 済 統 計		2	3	
	中 級 ゲ ー ム 理 論		2	3	
	家 族 と 法		2	3	
	商 法 I		2	3	
	商 法 II		2	3	
	有 価 証 券 法		2	3	
	行 政 法		2	3	
	経 済 法		2	3	
労 働 法		2	3		
裁 判 法		2	3		
知 的 財 産 法		2	3		
社 会 保 障 法		2	3		

2017年度入学者用
(GBEEP学生対象)

※「知的財産法」は、全学教育科目と学部教育科目の両方で開講されるが、同一名称であっても全学教育科目と学部教育科目では時間割コードが異なるので、履修計画を立てる際は注意すること。全学教育科目と学部教育科目両方の「知的財産法」を同一学期中に同時に履修することはできない。そして、全学教育科目または学部教育科目いずれか一方の単位を修得した場合、他方の「知的財産法」を重複して単位を修得することもできない。また、既に単位を修得した「知的財産法」については、全学教育科目または学部教育科目いずれかの時間割コードへ変更することも認めない。

・ GBE科目群

講座	授 業 科 目 名	学 期 ターム	単 位	履修学年	備 考
経 営 系	Basics of Business Accounting	春	2	1	※Stuart Brison
	アジアグローバル経営基礎		2	2	2018年度開講
	ホスピタリティ・マネジメント		2	2	
	The Business of Mobility		2	2	
	Operations Management		2	3	2019年度開講
	Business Reading		2	3	
	International Business		2	3	
	English for Business		2	3	
City Marketing and Tourism		2	3		
経 済 系	Global Economy		2	2	2018年度開講
	International Economics		2	2	
	Economic Theory		2	2	
	Applied Economics		2	2	
	The Japanese and International Economies		2	2	
	Public Policy		2	2	
	Speech and Debate on Economic Issues		2	2	2019年度開講
	International communication		2	3	
	Language communication and identity		2	3	
	International trade policy		2	3	
Statistical theory and applications		2	3		

(4) 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目で修得した単位は、最大60単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ①経済学部学部教育科目（自由選択科目） ≤ 14 単位
- ②国際社会科学府博士課程前期経営学専攻開講科目 ≤ 8 単位
- ③横浜市内大学間（放送大学含む） ≤ 8 単位
- ④学部教育科目として認定される国際交流科目 ≤ 8 位
- ⑤交換留学（派遣）・休学中の留学による単位認定 ≤ 60 単位
- ①+②+③+④+⑤ ≤ 60 単位

※ただし、入学前の既修得単位が本学の単位として認定された学生については、その認定単位数（最大30単位）を上限60単位から控除する。

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

a. 経済学部開講科目

①経済学部の学部（専門）教育科目は、14単位まで卒業に必要な学部（専門）教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。ただし、ゼミナール等相互履修できない科目もありますので時間割表や掲示を確認してください。

b. 教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目

一般プログラムと同様です。（27ページ参照）

c. 地域交流科目

一般プログラムと同様です。（27ページ参照）

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

一般プログラムと同様です。（27ページ参照）

e. 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）

一般プログラムと同様です。（28ページ参照）

f. 国際交流科目

一般プログラムと同様です。（28ページ参照）

g. 留学による単位認定

一般プログラムと同様です。（28ページ参照）

(5) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールへの参加は教員の承認を得ること。ゼミナールⅠは基礎ゼミナール、ゼミナールⅡはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時 期

ゼミナールの選考は原則として2年次春学期に行います。基礎ゼミナールは2年次秋学期、ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。また、原則同一教員のゼミナールに参加することになります。

③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。(ただし、交換留学決定者は定員外とすることができる。)

④ 単 位 数

基礎ゼミナールの単位数は2単位、ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位の選択科目です。基礎ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は10単位、基礎ゼミナールのみ単位を修得した場合は8単位、基礎ゼミナール及びゼミナールⅠの単位を修得した場合は4単位を学部教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、ゼミナールから除名されることがあります。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることがあります。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(6) 卒業論文試験

GBEEPの学生については卒業論文試験は必修ではありません。卒業論文については所属するゼミナール担当教員と相談してください。なお、時期・受験資格や提出手順は他の一般プログラムの学生と同様ですので29ページを参照してください。

履修モデル: Global Business and Economics EP

経営学主専攻・経済学副専攻

社会的ニーズと育成する人材:グローバルに事業展開する企業では、経営学と経済学の両方の専門知識を持ち、英語で自由にコミュニケーションをとる能力が求められている。専門的知識(経営学と経済学)と高いレベルの英語運用能力を有し、グローバル企業で活躍できるビジネス・パーソンを育成する。

科目群		学部教育科目98単位以上				
卒業132単位以上	全学教育科目 34単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目	GBE科目	演習科目
1年次	英語(4) 統計学 I A(2)	【経営系】 経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2) 【経済系】 ミクロ経済学入門(2) マクロ経済学入門(2)	【経営系】 キャリア・マネジメント 簿記論 I (2) 経営情報論(2)	【経営系】 経営管理論(2) イノベーション・マネジメント論(2) 財務会計論 I (2) 財務会計論 II (2) マーケティング・サイエンス(2) 【経済系】 ゲーム理論(2) 産業組織論(2)	Basics of Business Accounting(2)	経営学リテラシー(4)
2年次	英語(4) 初修外国語(2)		【経営系】 経営戦略論(2) コーポレート・ファイナンス(2) 【経済系】 ミクロ経済学1&2(4) マクロ経済学1&2(4)		アジアグローバル経営基礎(2) International Economics(2) Global Economy(2)	基礎セミナーⅠ(2)
海外学修科目(2) (留学、海外インターンシップ、英語討論等)						
3年次	高度全学教育科目			【経営系】 国際経営論 I (2) 国際経営論 II (2) 国際人的資源管理論(2) 国際イノベーション・マネジメント論(2) 産業分析(2) 流通論(2) 【経済系】 国際貿易政策(2) 国際金融(2) 【経営系】 戦略会計論(2) ヒンネケーム(2) 国際会計制度(2) 国際市場戦略論(2) 国際経営史(2) 【経済系】 途上国経済(2) 国際環境経済論(2)	International Business(2)	セミナーⅠ(4)
4年次					City Marketing and Tourism(2)	セミナーⅡ(4)

卒業後のキャリア・イメージ 【日本企業】総合商社・製造業・金融機関など、【外資系企業】製造業・金融機関など、【国際機関職員】【国内外の大学院への進学】

2017 年度入学生用(GBEEP) 修得単位確認表

【全学教育科目】

項目・科目名等		チェック欄	修得 単位数	必要・上限 単位数	高度全学 教育科目 ※5
基礎科目	人文社会系	/		4単位以上	3年次以降に 4単位以上
	自然科学系 ※1	統計学Ⅰ-A (必修科目)		4単位以上	
		その他自然科学系科目	/		
グローバル教育科目		/		—	
イノベーション教育科目		/		—	
英語	全員対象	英語プレゼンテーション		8単位	
		英語ライティング			
		英語 LR			
		自立英語			
	TOEFL-ITP450 点 未満対象	経営英語演習 A ※2			
		経営英語演習 B ※2			
	TOEFL-ITP450 点 以上対象	英語演習1 ※3			
経営英語演習 (A, Bのいずれか) ※2					
英語以外の外国語				2単位	
健康スポーツ科目(選択科目) ※4		/		2単位まで	
合計①				34単位以上	

※1 自然科学系は統計学の単位数を含む

※2 経営英語演習 A・B は経営学部教育科目として開講しますが、単位修得後は、全学教育科目の英語の単位に振り替えられます。

※3 英語演習1 (TOEFL-ITP450 点以上)は、TEOFL-ITP のスコアに応じて、英語演習1a~1c いずれか 1 科目が必修となります。

※4 健康スポーツ科目は2単位まで卒業に関わる単位数に算入します。2単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することはできません。

※5 高度全学教育科目は、グローバル教育科目、イノベーション教育科目、学部指定基礎科目の中から3年次以降に4単位以上修得する必要があります。

【学部教育科目】

項目		チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数	
必修	経営学リテラシー			4単位	
選択必修	専門基礎科目	経営系		4単位以上	
		経済系		4単位以上	
	専門基幹科目	経営系		8単位以上	
		経済系		8単位以上	
	専門応用科目	経営系		32単位以上	
		経済系		12単位以上	
	GBE 科目群	経営系		10単位以上	
		経済系			
海外学修科目				2単位以上	
自由選択	実践科目	インターンシップ	/	6単位まで	
		海外インターンシップ	/	6単位まで	
		インターンシップ留学	/	6単位まで	
		特殊講義	/	—	
	その他科目 ※2	国際社会科学府経営学専攻 博士課程前期開講科目	/	8単位まで	交換留学等 の単位と併せ て60単位ま で
		横浜市内大学間単位互換 (放送大学含む)	/	8単位まで	
		国際交流科目	/	8単位まで	
		経済学部開講 学部教育科目 (選択必修以外) ※1	/	14単位まで	
		基礎ゼミナル	/	最大10単位	
		ゼミナルⅠ	/		
ゼミナルⅡ	/				
合計②				98単位以上	
合計①+合計②				132単位以上	

※1 経済学部開講 学部教育科目について

この科目は、選択必修で単位を修得した経済系専門基礎・専門基幹・専門応用科目及び GBE 科目群以外の科目を履修した場合、14単位まで卒業単位数に算入することができます。

※2 その他科目について

経済学部開講 学部教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) + 国際交流科目 + 留学認定科目 ≤ 60 単位

という上限があります。合計60単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することができませんのでご注意ください。

(但し、入学前の既修得単位が本学全学教育科目の単位として認定された学生については、その単位数を 60 単位から控除します。)

2016年度以前入学者用
(昼間主コース)

4 平成28（2016）年度以前入学者（昼間主コース）

（1）卒業要件

- ① 経営学部で4年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算GPA（Grade Point Average）が2.0以上あること
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（経営学）」の学位を授与します。
 なお、GPAについては6ページを参照してください。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養（全学）教育科目（教養コア科目、基礎演習科目、外国語科目及び健康スポーツ科目）及び学部専門科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

教養 （全学） 教育科目	教養コア科目	基礎科目〔人文社会系〕	4単位以上	計 24単位以上
		基礎科目〔自然科学系〕【注1】	4単位以上	
		現代科目	2単位以上	
		総合科目	2単位以上	
	基礎演習科目（選択科目）【注2】		2単位	
	外国語科目	英語		8単位
		英語以外の外国語（1または2ヶ国語）		6単位
健康スポーツ科目（選択科目）【注3】			2単位まで	
計			38単位以上	
専門 （学部） 教育科目	学部必修科目		6単位	
	学科必修科目【注4】		4～8単位	
	選択必修科目【注5】		8～12単位以上	
	法律関係授業科目		6単位以上	
	ゼミナール【注6】		8単位	
	自由選択科目		—	
	計			76単位以上
合 計【注7】			128単位以上	

【注1】基礎科目（自然科学系）に該当する必修科目があります。（〔教養コア科目必修科目表〕参照）

【注2】基礎演習は2単位の選択科目で2年次秋学期に開講します。2年次の春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて配布する冊子を参考にして、履修してください。（基礎演習については69ページ参照）

【注3】健康スポーツ科目の単位は2単位まで卒業に関わる単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注4】所属の学科によって必修科目及び必要単位数が異なります。（〔専門（学部）教育科目履修基準表〕参照）

【注5】所属の学科によって必要単位数が異なります。（〔専門（学部）教育科目履修基準表〕参照）

【注6】ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、専門教育科目から単位を修得してください。（ゼミナールについては85ページを参照）

【注7】合計128単位のうち、教養（全学）教育科目38単位及び専門（学部）教育科目76単位を除いた14単位分は、教養（全学）教育科目または専門（学部）教育科目のどちらから修得しても構いません。

② 1単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目1単位当たりの授業時間を次の通り定めています。

講義（外国語科目を除く）、基礎演習及びゼミナールⅠ・Ⅱ	15時間
外国語科目、実験、実習	30時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の1時限（90分）は、授業時間外の学修を含めて2時間として単位を計算します。外国語科目を除く講義科目、基礎演習及びゼミナールの場合、1週間に1時限の授業であれば、15週で2単位になります。

③ 9月卒業について

9月卒業の要件は下記の通りです。9月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9月卒業の要件>

以下の①～④全てを満たす者。

- ① 卒業認定の前年度までに卒業論文試験に合格していること
- ② 経営学部に4年6ヶ月以上在籍していること（休学、停学期間※を除く）※停学期間が3ヵ月を超える場合
- ③ 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること
- ④ 卒業認定時に通算GPA（Grade Point Average）が2.0以上あること

(2) 教養（全学）教育科目

① 履修方法

教養（全学）教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『教養教育科目履修案内』に従ってください。なお、教養教育科目は半期20単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。（2ページ（3）履修登録単位数の上限について参照）

② 教養コア科目必修科目表（2016年度以前入学者適用）

教養（全学）教育科目・教養コア科目のうち、経営学部各学科で必修科目とするのは、以下の○印のある科目です。

	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
統計学Ⅰ－A	○	○	○	○
統計学Ⅱ－A				
微分積分Ⅰ	○	○	○	
微分積分Ⅱ				
線形代数Ⅰ		○	○	
線形代数Ⅱ				

③ 教養コア科目一覧表

a. 基礎科目：人文社会系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
哲学	2	【共通】	1～4	
宗教学	2	【共通】	1～4	
東洋思想史	2	【共通】	1～4	
倫理学	2	【共通】	1～4	
現代芸術論	2	【共通】	1～4	
Cinema	2	【共通】	1～4	
世界の音楽と文化	2	【共通】	1～4	
鍵盤楽器の名曲	2	【共通】	1～4	
民族音楽学入門	2	【共通】	1～4	
日本近現代音楽史	2	【共通】	1～4	
美術の見かた	2	【共通】	1～4	
水彩画基礎技術	2	【共通】	1～4	
色彩論	2	【共通】	1～4	
基礎造形B	2	【共通】	1～4	
日本の古典文学	2	【共通】	1～4	
日本の近代文学	2	【共通】	1～4	
中国の古典文学	2	【共通】	1～4	
英米文学	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ文学	2	【共通】	1～4	
日本の言語	2	【共通】	1～4	
日本前近代史	2	【共通】	1～4	
日本近現代史	2	【共通】	1～4	
ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1～4	
人と自然のかかわり	2	【共通】	1～4	
文化人類学の考え方	2	【共通】	1～4	
日本国憲法	2	【共通】	1～4	※1
現代と法	2	【共通】	1～4	
法学概論	2	【共通】	1～4	
法と人間	2	【共通】	1～4	
現代政治（日本）	2	【共通】	1～4	
現代政治（国際）	2	【共通】	1～4	
行政組織と公務員	2	【共通】	1～4	
社会科学概論A	2	【共通】	1～4	
社会科学概論B	2	【共通】	1～4	
社会科学の方法	2	【共通】	1～4	
社会科学の歴史	2	【共通】	1～4	
現代の経済A	2	教・営・理・都	1～4	
現代の経済B	2	教・営・理・都	1～4	
心理学A	2	【共通】	1～4	
心理学B	2	【共通】	1～4	
障害と周辺領域 I	2	【共通】	1～4	
社会心理学入門	2	【共通】	1～4	
日本語を教えよう	2	【共通】	1～4	
現代社会論	2	【共通】	1～4	
World Legal Systems and Management Philosophy	2	【共通】	2～4	※2

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
Arabic 1 language and its Culture	2	【共通】	1～4	※2
Elements of Linguistic Knowledge	2	【共通】	1～4	※2
Business Japanese Language and Culture A	2	【共通】	1～4	※2
Business Japanese Language and Culture B	2	【共通】	1～4	※2
Business Japanese Language and Culture C	2	【共通】	1～4	※2
Transcultural Understanding through Foreign Languages	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B	2	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A I (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art A II (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B I (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2
Advertisement Art B II (Seminar)	1	【共通】	1～4	※2

※1 教員免許状取得希望者は「日本国憲法」2単位を必修とします。

※2 授業は英語で行われます。

b. 基礎科目：自然科学系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
文系のための数学入門	2	教・済・営・社	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅱ	2	【共通】	1～4	
微分積分Ⅰ	2	経営	1～4	※3
微分積分Ⅱ	2	経営	1～4	※3
線形代数Ⅰ	2	経営	1～4	※4
線形代数Ⅰ	2	済・営	1～4	※4
線形代数Ⅱ	2	経営	1～4	※4
線形代数Ⅱ	2	済・営	1～4	※4
数理科学Ⅰ	2	教・済・営・社	1～4	
数理科学Ⅱ	2	教・済・営・社	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA	1	【共通】	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	1	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学A	2	【共通】	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	【共通】	1～4	
統計学Ⅰ－A	2	教・済・営・社	1～4	※5
統計学Ⅱ－A	2	教・済・営・社	1～4	※5
動力とエネルギー	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界A	2	教・済・営・社	1～4	
物理の世界B	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学A	2	教・済・営・社	1～4	
体験物理科学B	2	教・済・営・社	1～4	
地球と惑星の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
地球と惑星の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界A（物質観としての化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界B（生活の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界C（環境の化学）	2	教・済・営・社	1～4	
化学の世界D（生命の化学）	2	教・済・営・社	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
進化生物学	2	【共通】	1～4	
進化と生物多様性	2	【共通】	1～4	
がんの生物学	2	【共通】	1～4	
生命科学	2	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅰ	1	【共通】	1～4	
古生物の科学Ⅱ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅰ	1	【共通】	1～4	
生物の世界Ⅱ	1	【共通】	1～4	
身近な電気と機械	2	【共通】	1～4	
エネルギー工学序論	2	【共通】	1～4	
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	2	【共通】	1～4	
図形科学	2	【共通】	1～4	
POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作	2	【共通】	1～4	
情報科学	2	済・営	1～4	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1～4	
環境化学概論	2	【共通】	1～4	
気象学入門	2	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅠ	1	【共通】	1～4	
地質リスクマネジメントⅡ	1	【共通】	1～4	
Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	【共通】	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	【共通】	1～4	
Modeling with Statistics and Meta-Data	2	【共通】	2～4	
ICT Literacy	2	【共通】	1～4	
ICT Project	2	【共通】	1～4	
Cyber Studies	2	【共通】	1～4	
Modeling with Calculus and Algebra	2	【共通】	1～4	

※3 経営学科、会計・情報学科、経営システム科学科の必修科目。

※4 会計・情報学科、経営システム科学科の必修科目。

※5 経営学部全学科の必修科目。

c. 現代科目（2単位以上）

（単位を修得しても、卒業資格外の単位となる科目があります。不安な方は経営学務係で確認してください。）

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
国際理解 在日・日本語文学概論	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際日本学入門	2	【共通】	1～4	
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1～4	
戦争文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※6
横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1～4	※6
国際理解 日中比較文化論	2	【共通】	1～4	
国際理解 留学生支援で学ぶ異文化理解	2	【共通】	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
神奈川のみらい	2	【共通】	1～4	
現代の物流経営	2	【共通】	1～4	※6
経営者の役割と従業員の役割	2	【共通】	1～4	
実践新商品企画	2	【共通】	1～4	
アントレプレナー入門	2	【共通】	1～4	
人と動物の関係学	2	【共通】	1～4	
人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1～4	
教育学（教育と人間）	2	【共通】	1～4	
学校教育最前線	2	【共通】	1～4	
職業と教育	2	【共通】	1～4	
生涯発達論	2	【共通】	1～4	
特別支援教育入門	2	【共通】	1～4	
インクルーシブ教育入門	2	【共通】	1～4	
学外活動（教育ボランティア）	2	【共通】	1～4	※7
ESD（持続可能発展教育）入門	2	【共通】	1～4	
危機管理学	2	【共通】	1～4	
トポロジー	2	【共通】	1～4	
生態工学	2	【共通】	1～4	
科学技術史	2	【共通】	1～4	
海事技術史	2	【共通】	1～4	
材料学入門	2	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅰ	1	【共通】	1～4	
土木史と文明Ⅱ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅰ	1	【共通】	1～4	
国土学とグローバル社会Ⅱ	1	【共通】	1～4	
研究開発論－大学・企業・イノベーション－	2	【共通】	2～4	
地球環境と情報	2	【共通】	1～4	
情報と社会	2	【共通】	1～4	
情報セキュリティ入門	2	【共通】	1～4	
情報ネットワークシステム入門	2	【共通】	1～4	
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	【共通】	1～4	
ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	2	【共通】	1～4	
エネルギーと環境	2	【共通】	1～4	
安全・環境と社会	2	【共通】	1～4	
建築の環境と防災	2	【共通】	1～4	※6
環境リスクとつきあうⅠ	1	【共通】	1～4	
環境リスクとつきあうⅡ	1	【共通】	1～4	
地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	2	教・済・営・理	1～4	※6
応用気象学	2	【共通】	1～4	
おいしさの科学	2	【共通】	1～4	
衣生活の科学	2	【共通】	1～4	
居住環境論	2	【共通】	1～4	
木材と人間	2	【共通】	1～4	
健康の科学	2	【共通】	1～4	
台湾事情（映画・文学から見る台湾の文化と歴史）	2	【共通】	2～4	
韓国事情	2	【共通】	2～4	
ベトナム事情	2	【共通】	2～4	

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
インドネシア事情	1	【共通】	2～4	
ブラジル事情	2	【共通】	2～4	
パラグアイ事情	2	【共通】	2～4	
中国事情 I	1	【共通】	2～4	
中国事情 II	1	【共通】	2～4	
Multicultural Practice	2	【共通】	1～4	
Multiethnic Japan	2	【共通】	2～4	※ 8
Multiethnic Japan (Seminar)	1	【共通】	2～4	※ 8
Yokohama Studies	2	【共通】	2～4	※ 8
Yokohama Studies (Seminar)	1	【共通】	2～4	※ 8
Business Administration and its Operation	2	【共通】	1～4	
Business Logics and Team Consensus	2	【共通】	1～4	
Business Planning with Accounting and Finance	2	【共通】	2～4	
Business Problem Solving and Project Management	2	【共通】	2～4	
Life-Long Planning and Global Career Design	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	2	【共通】	1～4	
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	【共通】	2～4	
Business Communication and Emotional Literacy	2	【共通】	1～4	
Business Planning and Intellectual Property	2	【共通】	2～4	
Plagiarism and its Regulations	2	【共通】	2～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 I	1	【共通】	1～4	
海外旅行安全対策・危機管理 II	1	【共通】	1～4	
Multicultural Conference A (Arts & Culture)	2	【共通】	1～4	
Multicultural Conference B (Business & Economy)	2	【共通】	1～4	
地域課題実習 I	1	【共通】	1～4	※ 6
地域課題実習 II	1	【共通】	1～4	※ 6
Wake up! プロジェクト	2	【共通】	1	
まなび座 I ・校友会リレートーク	2	【共通】	1	
キャリアデザイン	2	【共通】	1～2	※ 6
グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	
ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	
まなび座 II ・リーダーシップ実践	2	【共通】	2～4	
キャリア・ケーススタディ	2	【共通】	2～4	

※6 この科目は地域交流科目です。教養コア科目としても履修できます。地域交流科目については、別冊子で確認してください。

※7 この科目は教員免許状取得を希望しない学生は履修できません。

※8 これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。片方の科目だけを履修することはできません。

d. 総合科目（2単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	対象学部	対象学年	備考
経済学の諸課題Ⅰ	2	【共通】	1～4	
経済学の諸課題Ⅱ	2	【共通】	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	【共通】	1～4	※6
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1～4	
数理科学概論	2	【共通】	1～4	
物理工学概論	2	【共通】	1～4	
物質工学と社会	2	【共通】	1～4	
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	
機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1～4	
海洋工学と社会	2	【共通】	1～4	
情報通信技術が培う近未来医療	2	【共通】	1～4	
都市と建築	2	【共通】	1～4	
環境をめぐる諸問題Ⅰ	1	【共通】	1～4	※6
環境をめぐる諸問題Ⅱ	1	【共通】	1～4	※6
Business Planning and Proposal	2	【共通】	2～4	※2
システム・エンジニアリング	2	【共通】	1～4	
ライフキャリアを考える	2	【共通】	1～4	

e. 重複履修できない授業科目

【授業科目名変更等に伴う重複履修の禁止科目について】

次の表の「平成29年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

平成29年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
人と自然のかかわり	環境と倫理 (H28)
世界の音楽と文化	諸民族の音楽と文化 (H26)
ESD（持続可能発展教育）入門	消費社会と共有 (H28)
図形科学	図学Ⅰ＜理工学部専門基礎科目＞ (H27)
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA 名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き (H27)
地球と惑星の科学Ⅰ 地球と惑星の科学Ⅱ	地球と惑星の科学 (H28)
古生物の科学Ⅰ 古生物の科学Ⅱ	古生物の科学 (H28)
生物の世界Ⅰ 生物の世界Ⅱ	生物の社会 (H28)
地質リスクマネジメントⅠ 地質リスクマネジメントⅡ	応用地質学 (H28)
物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	先端機器分析入門 (H28)
学校教育最前線（現代科目）	学校教育最前線（総合科目） (H25)
横浜学－地域の再発見－（現代科目）	横浜学－地域の再発見－（総合科目） (H26)
材料学入門	ものの強さと強さの仕組み (H22)
地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	地域連携と都市再生B (H26)
地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	地域連携と都市再生A (H26)
生命科学	化学の世界D（生命の化学） (H28)
キャリアデザイン	キャリアデザインA (H27)
	キャリアデザインB (H27)

平成29年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
グローバル化と日本人	グローバルビジネス・コミュニケーション (H28)
土木史と文明Ⅰ 土木史と文明Ⅱ	土木史と技術者倫理 (H28)
国土学とグローバル社会Ⅰ 国土学とグローバル社会Ⅱ	土木工学と社会 (H28)
環境リスクとつきあうⅠ 環境リスクとつきあうⅡ	環境リスクとつきあう (H28)
環境をめぐる諸問題Ⅰ 環境をめぐる諸問題Ⅱ	環境をめぐる諸問題 (H28)
物理工学概論	教養としての先端物理科学 (H22)
情報工学概論 電子情報システム概論	電子情報工学と社会 (H22)
化学・生命情報処理演習 バイオ情報演習	物工情報処理演習 (H22)
機械系の数学演習Ⅰ	数学演習 (H25)
機械系の数学演習Ⅱ	数学演習 (H25)
機械系の力学演習Ⅱ	力学演習Ⅱ (H25)
物理学演習	力学演習Ⅱ (H25)
化学・生命基礎演習A	物工基礎演習A (H22)
化学・生命基礎演習B	物工基礎演習B (H22)
都市基盤演習	土木工学基礎演習 (H21)
土木応用数学	土木基礎数学 <工学部専門教育科目> (H23)
Advertisement Art A	Advertisement Art #1 (H28)
Advertisement Art A I (Seminar) Advertisement Art A II (Seminar)	Studio Workshop #1 (H28)
Advertisement Art B	Advertisement Art #2 (H28)
Advertisement Art B I (Seminar) Advertisement Art B II (Seminar)	Studio Workshop #2 (H28)
Arabic Language and its Culture	アラビア語とその文化 (国際交流科目) (H25) 英語演習 (アラブの言語と文化) (H25) 国際理解3 (アラブの言語と文化) (H23)
Business Japanese Language and Culture A	Business Japanese Language and Culture #2 (H28)
Business Japanese Language and Culture B	Business Japanese Language and Culture #3 (H28)
Business Japanese Language and Culture C	Business Japanese Language and Culture #1 (H28) Business Japanese Language #1 (H26)
Business Planning with Accounting and Finance	Business Management with Accounting and Finance (H27)
Elements of Linguistic Knowledge	Elements of Linguistic Knowledge #1 (H28)
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	Facilitation and Management <教育人間科学部専門> (現代科目) (H26)
ICT Project	ICT応用 (人間文化基礎論ⅡB) (国際交流科目) (H25)
Multiethnic Japan	Community Studies (H28)
Multiethnic Japan (Seminar)	Multicultural Team-works #1 (H28)
Modeling with Statistics and Meta-Data	Modeling with Statistics (H28) 統計数理 (国際交流科目) (H25)
Facilitation and Empowerment for Team Building	Team Management and Facilitation (H27)
Transcultural Understanding through Foreign Languages	Transcultural Understanding through English #2 (H28)
海外旅行安全対策・危機管理Ⅰ	Safety and Crisis Management for Overseas Travel I (H28)
海外旅行安全対策・危機管理Ⅱ	Safety and Crisis Management for Overseas Travel II (H28)
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	Comprehensive Reading and Summary Writing I A (H28)
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	Comprehensive Reading and Summary Writing I B (H28)

平成29年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
Academic Presentation Skills	Academic Presentation Skills A (H28)
Business Presentation Skills	Academic Presentation Skills B (H28)
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	国際理解12 (日本語をめぐる国際交流史) (H27)
韓国事情	国際理解 日韓比較文化論 (H28) 国際理解 4 (日韓比較文化論) (H27)
国際理解 国際日本学入門	国際理解 6 (国際日本学入門) (H22)
国際理解 国際交流における日本語の役割	国際理解 1 (留学生支援入門) (H26) 国際学ⅡC: 国際交流史<教育人間科学部専門教育科目> (H27)
台湾事情	国際理解 台湾の文化と社会 (H28) 国際理解 4 (台湾の文化と社会) (H24)
日本事情 日本の就職事情	日本事情H (H28)
日本語演習 B	日本語演習 D (H28)
日本語演習 C	日本語演習 E (H28)
World Legal Systems and Management Philosophy	World Legal Systems (H26)
Yokohama Studies	Urban Dynamism of Yokohama (H28)
Yokohama Studies (Seminar)	Multicultural Team-works #2 (H28)
Business Planning and Proposal	Business Planning with Intellectual Property (H28)

【読替科目に伴う重複履修の禁止科目について】

本学で開講している科目には、科目名は同じであるが履修対象者によって開講形態が異なり、システム上履修を制限している科目があります。次の表の「平成29年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

平成29年度開講授業科目 (教養教育科目)	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
Business Planning and Proposal	Business Planning and Proposal <YCCS専門> (H27)
Cyber Studies	Cyber Studies <YCCS専門> (H27)
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	Facilitation and Management with Emotional Intelligence <YCCS専門> (H27)
ICT Literacy	ICT Literacy (国際交流科目) (H25) ICT Literacy <YCCS専門> (H27)
Modeling with Calculus and Algebra	Modeling with Calculus & Algebra (国際交流科目) (H25)
Multicultural Practice	Multicultural Practice (国際交流科目) (H25)
Plagiarism and its Regulations	Plagiarism and its Regulations <YCCS専門> (H27)
Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci <YCCS専門> (H27)
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci <YCCS専門> (H27)
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci <YCCS専門> (H27) Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci (国際交流科目) (H26)
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci <YCCS専門> (H27) Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci (国際交流科目) (H26)

④ 基礎演習科目

基礎演習科目は2年次秋学期に開講される選択科目で、3年次・4年次のゼミナールへのプレ・ゼミナールとなります。基礎演習に参加した学生は、原則同一教員のゼミナールに参加することになります。

- a. 選考時期
2年次春学期
- b. 単位数
教養教育科目として2単位
- c. 定員
各基礎演習とも10名程度（ただし、交換留学生は定員外とすることができる）

⑤ 外国語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業に必要な教養教育科目の単位数に算入します。

a. 英語

経営学部学生は1年次に英語実習1を4科目、2年次に英語実習2を2科目2単位、英語演習を1科目2単位、合計7科目8単位を修得してください。

2017年度以降は英語実習1の名称が変わりますので再履修者は注意してください。（詳細は教養教育履修案内を参照）

科目名 (2016年度以前)	科目名 (2017年度以降)	単位数	履修年次
英語実習1S	英語プレゼンテーション	1	1年次生以上
英語実習1W	英語ライティング	1	
英語実習1LR春学期	英語実習1LR再履修クラス	1	
英語実習1LR秋学期	英語実習1LR再履修クラス	1	
英語実習2SW	英語実習2SW	1	2年次生以上
英語実習2LR	英語実習2LR	1	
英語演習	英語演習	2	2年次生以上

ア. 英語実習1（半期1単位）

LRを春学期・秋学期各1科目、SとWを春学期あるいは秋学期に各1科目履修します。以上の4科目4単位が全部揃って、英語実習1の履修が完了します。授業は原則としてレベル別にクラス指定を行います。掲示にてお知らせしますので確認してください。

※「英語実習1」は4単位を超えて履修することはできません。

イ. 英語実習2（半期1単位）

SWとLRを春学期あるいは秋学期に各1単位履修します。以上の2科目2単位が揃って、英語実習2の履修が完了します。授業は原則として英語統一テストの成績をもとにクラス指定を行います。クラスは掲示にてお知らせしますので確認してください。なお、2016年度の英語統一テストを受験しなかった学生は、英語教育部から出される指示に従って履修してください。再履修者も同様です。詳しくは英語教育部による履修相談を受けてください。

※「英語実習2」は2単位を超えて履修することはできません。

ウ. 英語演習（半期2単位）

経営学部開講の英語演習と全学部対象の英語演習があります。どちらを履修しても構いません。なお、2単位を超えて単位を修得した場合は、外国語の単位には算入せず卒業に必要な教養（全学）教育科目の単位数に算入します。

・経営学部開講の英語演習

英語学習システムを活用したTOEIC対策プログラムです。春学期あるいは秋学期に1科目2単位履修します。授業時間外に、YNUネットラーニング（ATR CALL BRIX）を自学自習します。

受講クラスは選択制です。履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係において希望クラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります（掲示に十分注意すること）。

・全学部対象の英語演習

Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Work	卒業に必要な外国語の単位（英語演習）とすることができます。 読替申請の手続きは特に必要ありません。
Comprehensive Reading and Summary Writing for Global Career	
Academic Presentation Skills	
Business Presentation Skills	
英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習（夏季集中）	
TOEFL iBTスピーキング対策演習（夏季集中）	

b. TOEFL、IELTSスコアによる単位認定

TOEFLまたはIELTSにおいて、基準以上のスコアを取得した場合に英語科目として単位認定を行います。ただし、単位認定は1回限りとします。スコアは申請月から遡って12か月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を修得した科目がある場合は認定できません。

ア. 基準

- ・TOEFL（英語統一テストを含む）iBT100以上、ITP600以上
- ・IELTS 7.0以上

イ. 単位認定科目

1年次の科目の場合

英語実習1LR春学期、1LR秋学期、1S、1Wの4科目4単位について、「秀」を認定します。

2年次の科目の場合

英語実習2LR、2SWの2科目2単位、若しくは英語演習1科目2単位について「秀」を認定します。

3年次の科目の場合

経営の英語1科目2単位について「秀」を認定します。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

c. 英語（留学生）（日本語科目については73ページ参照）

ア. 英語圏からの留学生

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから1ヶ国語を8単位（実習4単位＋演習4単位）修得することで、英語（外国語科目）の必修単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係に申請してください。

イ. 英語圏以外からの留学生

英語（外国語科目）8単位（実習6単位＋演習2単位）を修得してください。

d. 英語以外の外国語

英語以外の外国語は1または2ヶ国語によって合計6単位修得する必要があります。次ページの表のとおり授業を開講します。いずれも春学期または秋学期の半期のクラスで、「実習」科目は1単位、「演習」科目は2単位です。事前の予備登録や合同授業が実施される場合がありますので、掲示に気をつけてください。

ア. 実習

「実習」は初級レベルの科目です。同一の外国語について、「実習1」と「実習2」をセット（合計2単位）で修得してください。「実習（会話）」も同様です。セットが完成していない場合は、「卒業に必要な外国語の単位」に算入しません。また、同一の外国語実習を2セット（合計4単位）修得しないと「演習」に進むことができません。

※「実習1」の単位を修得しないと、「実習2」を履修できません。「実習（会話）」も同様です。

※同一の外国語科目の実習を2セット4単位を超えて修得した場合、「卒業に必要な外国語の単位」ではなく「卒業に必要な教養（全学）教育科目の単位」として算入されます。

イ. 演習

「演習」は中級レベルの科目です。同一の外国語実習を2セット（合計4単位）修得した者に限り履修できます。「演習」を履修しない者は、別の外国語実習を1セット（「実習1」と「実習2」）2単位を修得する必要があります。

（履修例）

- 1科目の場合例1 「中国語実習（1a+2a）」、「中国語実習（1b+2b）」、「中国語演習」
- 例2 「フランス語実習（1+2）」、「フランス語実習（1+2）（会話）」、「フランス語演習」
- 2科目の場合例1 「朝鮮語実習（1+2）」、「朝鮮語実習（1+2）」、「中国語実習（1a+2a）」
- 例2 「ドイツ語実習（1+2）」、「ドイツ語実習（1+2）」、「イスパニア語実習（1B+2B）」

（注）中国語の（再）履修について

中国語実習を未履修の者または再履修をする者は、平成29年度から次の表に従って履修します。

不合格または未履修の科目	→	（再）履修対応科目
中国語実習 1 a / 中国語実習 1 b	→	中国語実習 1 ※1
中国語実習 2 a / 中国語実習 2 b	→	中国語実習 2 ※2

※1 「中国語実習 1 a」の（再）履修は日本人担当の「中国語実習 1」、「中国語実習 1 b」の（再）履修は外国人担当の「中国語実習 1」を履修することを原則とします。

※2 「中国語実習 2 a」の（再）履修は日本人担当の「中国語実習 2」、「中国語実習 2 b」の（再）履修は外国人担当の「中国語実習 2」を履修することを原則とします。

（注）イスパニア語の（再）履修について

イスパニア語実習・イスパニア語演習を未履修の者または再履修をする者は、平成29年度から次の表に従って履修します。

不合格または未履修の科目	→	（再）履修対応科目
イスパニア語実習 1 A / イスパニア語実習 1 B	→	イスパニア語実習 1
イスパニア語実習 2 A / イスパニア語実習 2 B	→	イスパニア語実習 2
イスパニア語演習 A / イスパニア語演習 B	→	イスパニア語演習

ウ. スキップ履修

ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語において学習歴がある等初等教育相当の能力があると認められた学生は、初級レベルの「実習」を履修せずに中級レベルの「演習」から履修することができます。ただし、「実習」をスキップしても卒業に必要な単位が免除されるということではありません。1または2ヶ国語より合計6単位修得する必要があります。希望する学生は学期当初速やかに社会科学系経営学務係に申し出てください。

エ. スピード履修

時間割等の事情により、実習2セット（合計4単位）を1年間で履修することができない場合は、スピード履修の制度があります。これは日本語及びスペイン語を除く初修外国語において、実習1セット（合計2単位）を優以上の成績で修得し、認定試験に合格すれば、その外国語の演習に進むことができる制度です。ただし実習を履修する前に申請をする必要があります。また、この場合も、卒業に必要な単位数（6単位）は変わりません。

スキップ及びスピード履修の適用を受けるには、一定の条件があります。詳細は『教養教育科目履修案内』および社会科学系経営学務係で確認してください。

英語以外の外国語

科目名	単位数	履修学年
ドイツ語実習1【注1】	1	1年次生から実習1→実習2→演習の順序で履修します。
ドイツ語実習2【注1】	1	
ドイツ語演習	2	
フランス語実習1【注1】	1	
フランス語実習2【注1】	1	
フランス語演習	2	
中国語実習1【注2】	1	
中国語実習2【注2】	1	
中国語演習	2	
ロシア語実習1	1	
ロシア語実習2	1	
ロシア語演習	2	
朝鮮語実習1	1	
朝鮮語実習2	1	
朝鮮語演習	2	
スペイン語実習1	1	
スペイン語実習2	1	
スペイン語演習	2	
ギリシア語【注3】	1	2年次以上
ラテン語【注3】	1	2年次以上
日本語中級（留学生のみ）	1	プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。
日本語上級（留学生のみ）	1	
日本語演習（留学生のみ）	2	

【注1】ドイツ語とフランス語では、「実習1（会話）」・「実習2（会話）」のセットを「実習1」・「実習2」のセットに代替することができます。ただし、同一の外国語科目の実習を2セット（合計4単位）を超えて修得した場合は、卒業に必要な外国語の単位ではなく卒業に必要な教養（全学）教育科目の単位に算入されます。

【注2】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注3】ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、卒業に必要な外国語には算入せず、卒業に必要な教養（全学）教育科目の単位数として算入されます。

⑥ 健康スポーツ科目

健康スポーツ演習Bは2単位まで卒業資格にかかわる単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

教育職員免許状を取得する場合は必ず履修してください。授業内容は『教養教育履修案内』を参照してください。

受講を希望する者は、教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に受講の届け出を行い、小委員会から登録の許可を得てください。受講の届け出期間等は掲示にて連絡します。

なお、健康スポーツ演習Bでは効率的な授業運営のため履修者数の制限を行っているため、定員以上の登録希望者がいる場合は抽選を行います。また、秋学期授業では履修状況によって追加募集することがあります。詳細については『教養教育履修案内』及び掲示等で確認してください。

⑦ 外国人留学生のための授業科目

教養教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

a. 日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業に必要な英語以外の外国語の単位」として算入されます。その詳細は下の表の通りです。

代替できる外国語と単位	備 考
日本語科目 6 単位を初修外国語の単位として読み替えることができる。	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目 6 単位は必修(※)

※なお、プレイスメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記 6 単位に加え、「日本語中級」4 単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点でプレイスメントテストを受け、日本語力のレベルによって中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1 年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者は、日本語実習科目のうち、1 年次春学期には日本語中級を履修してください。1 年次秋学期からは、日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することができません。1 年次春学期から日本語上級を履修してください。1 年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので、参考にしてください。

中級者	1 年次春学期 : 日本語中級 4 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 4 単位 : 日本語演習 2 単位	合計10単位
上級者	1 年次春学期 : 日本語上級 2 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 2 単位 : 日本語演習 2 単位	合計 6 単位

授業科目一覧

授 業 科 目	学期	単位数	履修年次	備 考	
日本語科目	実習科目	日本語中級A	1	1 年次春学期	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。
		日本語中級B	1		
		日本語中級C	1		
		日本語中級D	1		
		日本語中級E	1		
		日本語中級F	1		
		日本語中級G	2		
	演習科目	日本語上級A 日本語上級B 日本語上級C 日本語上級E 日本語上級H 日本語上級I 日本語上級J 日本語上級K 日本語上級L 日本語上級M 日本語上級N	1	1 年次～4 年次	中級者は1 年次秋学期から履修できます。
			1		
			1		
			1		
			1		
			1		
			1		
			1		
演習科目	日本語演習A 日本語演習D 日本語演習E	2	1 年次秋学期～4 年次		
		2			
		2			

b. 日本事情科目

日本事情科目は現代科目の単位数に算入されます。

授業科目一覧

科 目	学 期	単 位	履修年次
日本事情 日本の舞台芸術	春	2	1
日本事情 日本の企業システム【注1】	春	2	1
日本事情 日本の就職事情	秋	2	1

【注1】「日本の企業システム」（国際交流科目）との重複履修はできません。

(3) 専門（学部）教育科目

① 履修方法

次の「専門（学部）教育科目履修基準表」により、各所属学科の「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。
卒業にかかわる学部・学科必修科目及び選択必修科目は、所属する学科の「専門（学部）教育科目一覧表」（76～81ページを参照）の授業科目から履修してください。それ以外の科目については、「自由選択科目」として、自らの所属と開講学科の別にかかわらず、「専門（学部）教育科目一覧」の中から自由に選択することができます。

専門（学部）教育科目履修基準表【2011年度以降入学生】

区 分	学 科	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目		簿 記 原 理 I 2 単 位 簿 記 原 理 II 2 単 位 経 営 の 英 語 2 単 位			
学 科 必 修 科 目		経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位	会計学原理 I 2 単位 会計学原理 II 2 単位 管理会計論 I 2 単位 管理会計論 II 2 単位	経営科学総論 2 単位 ビジネス・エコノミクス 2 単位 経営情報論 IA 2 単位	経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位 国際経営論 I 2 単位 比較経営論 I 2 単位
選 択 必 修 科 目 【注1】		所属学科の選択必修科目から12単位選択	所属学科の選択必修科目から12単位選択	所属学科の選択必修科目から12単位選択	所属学科の選択必修科目から8単位選択
法 律 関 係 授 業 科 目	6 単位	経営学部昼間主コース及び経済学部開講の法律関係科目の中から選択してください。ただし、経済学部開講の法律関係科目は「経済学部基幹科目群」の中の法律科目から選択してください。			
ゼ ミ ナ ー ル	8 単位 (ゼミナール I 4 単位・ゼミナール II 4 単位)	ゼミナール I に参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は 8 単位、ゼミナール I のみ単位を修得した場合は 4 単位を、専門教育科目から修得してください。			
自 由 選 択 科 目 【注1】	経営学部昼間主コースで開講している全ての専門科目、インターンシップ等から選択できます。				
計	76 単 位 以 上				

【注1】夜間主コース開講科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位に算入できます。(詳細は82ページ参照) 30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

専門(学部)教育科目履修基準表【2010年度以前入学生】

区 分	学 科	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 科 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目			簿 記 原 理 I 簿 記 原 理 II 経 営 の 英 語	2 単 位 2 単 位 2 単 位	
学 科 必 修 科 目		経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位	会計学原理 I 2 単位 会計学原理 II 2 単位 管理会計論 I 2 単位 管理会計論 II 2 単位	経営科学総論 2 単位 ビジネス・エコミクス 2 単位 経営情報論 IA 2 単位 経営情報論 IIA 2 単位 【注1】	経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位 国際経営論 I 2 単位 比較経営論 I 2 単位
選 択 必 修 科 目 【注2】		所属学科の選択必修 科目から12単位選択	所属学科の選択必修 科目から12単位選択	所属学科の選択必修 科目から12単位選択	所属学科の選択必修 科目から 8 単位選択
法 律 関 係 授 業 科 目		6 単 位	{ 経営学部昼間主コース及び経済学部開講の法律関係科目の中から選択 してください。ただし、経済学部開講の法律関係科目は「経済学部基 幹科目群」の中の法律科目から選択してください。		
ゼ ミ ナ ー ル		8 単 位 (ゼミナール I 4 単位・ ゼミナール II 4 単位)	{ ゼミナール I に参加しない、または参加しても単位を修得できなかつ た場合は 8 単位、ゼミナール I のみ単位を修得した場合は 4 単位を、 専門教育科目から修得してください。		
自 由 選 択 科 目 【注2】		経営学部昼間主コースで開講している全ての専門科目、インターンシップ等から選択できます。			
計		76 単 位 以 上			

【注1】2009年度より、「経営情報論」は「経営情報論 IA」と「経営情報論 IIA」に分割。

【注2】夜間主コース開講科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位に算入できます。(詳細は82ページ参照) 30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

② 専門（学部）教育科目一覧表

専門（学部）教育科目では授業ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。

また、専門（学部）教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意して下さい。

なお、以下の「授業科目一覧」中で「休講」となっている科目は、2017年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、「専門（学部）教育科目履修基準表」をよく読んでください。

a. 昼間主コース 経営学科（※は非常勤講師）

授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分（備考）
経営学総論Ⅰ	春	2	1	公文蔵人	【営】必修、【国】必修
経営学総論Ⅱ	秋	2	1	服部泰宏	【営】必修、【国】必修
企業と社会	秋	2	2	※勝部伸夫	【営】選択必修
経営管理論Ⅰ	春	2	2	山岡徹	【営】選択必修
経営管理論Ⅱ	秋	2	2	山岡徹	【営】選択必修
経営組織論	春	2	2	※佐藤秀典	【営】選択必修
経営戦略論	春	2	2	高井文子	【営】選択必修
組織間関係論		2	2	休講	【営】選択必修
現代企業論	秋	2	2	※勝部伸夫	【営】選択必修
イノベーションマネジメント論		2	3	休講	【営】選択必修
経営史	春	2	3	公文蔵人	【営】選択必修
人的資源管理論Ⅰ	秋	2	2	二神枝保	【営】選択必修
人的資源管理論Ⅱ	春	2	2	二神枝保	【営】選択必修
現代コミュニケーション論	秋	2	2	中野弘美	【営】選択必修
行動科学	春	2	2	服部泰宏	【営】選択必修
グループ・ダイナミクス		2	3	休講	【営】選択必修
産業社会学Ⅰ	春	2	2	小川慎一	【営】選択必修
産業社会学Ⅱ	秋	2	2	小川慎一	【営】選択必修
人間科学Ⅰ		2	2	休講	【営】選択必修
人間科学Ⅱ		2	2	休講	【営】選択必修
環境マネジメント論	春	2	2	孫 穎	【営】選択必修
環境計画学	秋	2	3	孫 穎	【営】選択必修
産業分析	春	2	3	貴志奈央子	【営】選択必修
産業組織論		2	2	休講	【営】【シ】選択必修

※「企業と社会」「現代企業論」は平成30年度から廃止となります。

b. 昼間主コース 会計・情報学科（※は非常勤講師）

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分（備考）
簿 記 原 理 I	春	2	1	泉 宏 之	学部必修
簿 記 原 理 II	秋	2	1	原 俊 雄	学部必修
会 計 学 原 理 I	春	2	2	齋 藤 真 哉	【会】必修
会 計 学 原 理 II	秋	2	2	齋 藤 真 哉	【会】必修
制 度 会 計 論		2	3	休 講	【会】選択必修
会 計 監 査 論 I	春	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
会 計 監 査 論 II	秋	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
公 会 計 論 I	秋	2	2	齋 藤 真 哉	【会】選択必修
公 会 計 論 II		2	2	休 講	【会】選択必修
税 務 会 計 論 I	春	2	2	※平 野 嘉 秋	【会】選択必修
税 務 会 計 論 II	秋	2	2	※平 野 嘉 秋	【会】選択必修
戦 略 会 計 論	秋	2	3	高 橋 賢	【会】選択必修
原 価 会 計 論	秋	2	2	高 橋 賢	【会】選択必修
管 理 会 計 論 I	春	2	2	中 村 博 之	【会】必修
管 理 会 計 論 II	秋	2	2	中 村 博 之	【会】必修
生 態 会 計 論 I	春	2	2	八 木 裕 之	【会】選択必修
生 態 会 計 論 II		2	2	休 講	【会】選択必修
国 民 会 計 論 I	春	2	2	大 森 明	【会】選択必修
国 民 会 計 論 II	秋	2	2	大 森 明	【会】選択必修

【注1】「税務会計論Ⅰ・Ⅱ」「戦略会計論」は平成28年度履修者から選択必修科目とします。すでに単位を修得した学生は履修できません。

c. 昼間主コース 経営システム科学科（※は非常勤講師）

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分（備考）
経 営 科 学 総 論	春	2	1	郭 沛 俊	【シ】必修
ビジネス・エコノミクス	春	2	1	森 田 洋	【シ】必修
意 思 決 定 論	春	2	2	郭 沛 俊	【シ】選択必修
経 営 数 学	春	2	2	鈴 木 香 織	【シ】選択必修
生 産 シ ス テ ム 論		2	3	休 講	【シ】選択必修
オペレーションズ・リサーチⅠ	春	2	2	成 島 康 史	【シ】選択必修
オペレーションズ・リサーチⅡ	秋	2	2	成 島 康 史	【シ】選択必修
デ ー タ 解 析 論	秋	2	2	寺 本 高	【シ】選択必修
経 営 情 報 論 I A	春	2	1	佐 藤 亮	【シ】必修

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分 (備考)
経 営 情 報 論 II A	秋	2	2	佐 藤 亮	【シ】 選択必修 (2011年度以降入学生) 【シ】 必修 (2010年度以前入学生)
グループ思考システム論	春	2	1	田名部 元 成	【シ】 選択必修
マーケティング戦略論	秋	2	2	鶴 見 裕 之	【シ】 選択必修
消 費 者 行 動 論	春	2	2	寺 本 高	【シ】 選択必修
マーケティング・サイエンス	春	2	2	本 橋 永 至	【シ】 選択必修
流 通 論		2	2	休 講	【シ】 選択必修
経 営 財 務 論	秋	2	2	森 田 洋	【シ】 選択必修
ファイナンシャルリスクマネジメント		2	2	休 講	【シ】 選択必修
証 券 市 場 論	秋	2	3	※福 田 徹	【シ】 選択必修
フィナンシャル・エコノミクス	春	2	3	森 田 洋	【シ】 選択必修
情 報 シ ス テ ム 論	秋	2	3	田名部 元 成	【シ】 選択必修
ビ ジ ネ ス ゲ ー ム		2	3	休 講	【シ】 選択必修
インターネット・ビジネス・プランニング	集中	2	2	※瀧 澤 哲 夫	【シ】 選択必修

d. 昼間主コース 国際経営学科 (※は非常勤講師)

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分 (備考)
国 際 経 営 論 I	春	2	2	※田 中 則 仁	【国】 必修
国 際 経 営 論 II		2	2	休 講	【国】 選択必修
国 際 人 事 管 理 論 I		2	3	休 講	【国】 選択必修
国 際 人 事 管 理 論 II		2	3	休 講	【国】 選択必修
国際マーケティング論 I	春	2	3	谷 地 弘 安	【国】 選択必修
国際マーケティング論 II	秋	2	3	谷 地 弘 安	【国】 選択必修
グローバル・イノベーション・マネジメント論 I	春	2	3	大 沼 雅 也	【国】 選択必修
グローバル・イノベーション・マネジメント論 II	秋	2	3	大 沼 雅 也	【国】 選択必修
国 際 会 計 論 I	春	2	3	高 須 悠 介	【国】 選択必修
国 際 会 計 論 II	秋	2	3	高 須 悠 介	【国】 選択必修
国 際 財 務 論 I		2	3	休 講	【国】 選択必修
国 際 財 務 論 II		2	3	休 講	【国】 選択必修
比 較 経 営 論 I	春	2	2	曹 斗 燮	【国】 必修
比 較 経 営 論 II	秋	2	2	曹 斗 燮	【国】 選択必修
比 較 経 営 史 I		2	2	休 講	【国】 選択必修
比 較 経 営 史 II		2	2	休 講	【国】 選択必修

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分 (備考)
比 較 金 融 制 度 論 I	春	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
比 較 金 融 制 度 論 II	秋	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
国際コミュニケーション論		2	2	休 講	【国】選択必修
言語コミュニケーション論	春	2	2	小 林 正 佳	【国】選択必修
比 較 社 会 文 化 論 I		2	2	休 講	【国】選択必修
比 較 社 会 文 化 論 II	春	2	2	ソーントン・タケシ	【国】選択必修
比 較 技 術 経 営 論 I	春	2	2	真 鍋 誠 司	【国】選択必修
比 較 技 術 経 営 論 II	秋	2	2	真 鍋 誠 司	【国】選択必修

e. 昼間主コース 経営の英語

「経営の英語」は経営学部の教員が個々の専門性に立脚しながら、英語を使って授業を行う学部必修の専門教育科目です。

なお、クラスは選択制です。履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係において、希望するクラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります。(掲示を十分注意すること) なお、ソーントン教員のクラスは定員40名の上級者向けクラスです。TOEFLまたはIELTSのスコアによる単位認定が可能です。詳細は70ページで確認してください。

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分 (備考)
経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修
経 営 の 英 語	秋	2	3	中 野 弘 美	学部必修
経 営 の 英 語	秋	2	3	中 野 弘 美	学部必修
経 営 の 英 語	春	2	3	ソーントン・タケシ	学部必修
経 営 の 英 語	秋	2	3	ソーントン・タケシ	学部必修
経 営 の 英 語	秋	2	3	小 林 正 佳	学部必修
経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修

f. 昼間主コース 学科共通科目（※は非常勤講師）

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名
法律関係 【注1】	憲 法	春	2	2	御 幸 聖 樹
	行 政 法	春	2	3	※友 岡 史 仁
	民 法 I	春	2	2	宮 澤 俊 昭
	民 法 II	秋	2	2	高 橋 寿 一
	民 法 III	秋	2	2	今 村 与 一
	民 法 IV	春	2	3	常 岡 史 子
	商 法 I	春	2	3	※竹 内 明 世
	商 法 II	秋	2	3	※竹 内 明 世
	商 法 III	秋	2	3	笹 岡 愛 実
	裁 判 法		2	3	休 講
	基 本 租 税 法 研 究		2	3	休 講
インターンシップ	インターンシップ	【100ページを参照してください】			
特殊講義	特 グローバルビジネス実践論	秋	2	2	※関 仁
	特 ホスピタリティ・マネジメント	秋	2	3	森 田 洋
	特 実務家が説く会計・監査・税務の最新事情	秋	2	2	木 村 晃 久
	特 税理士が説く租税法概論 (日本税理士会連合会寄付講座)	春	2	2	大 雄 智
	特 実践から学ぶキャリア・マネジメント		2	2	休 講
	特 マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1	井 上 徹 司 ※伊 藤 淳
	特 マーケティング・プラクティス	春	2	2	※伊 藤 淳 司
	特 社会における実践体験 －富丘会メッセージ－	春	2	2	※石 原 健 一
	特 金融システムと金融機関 (ニッセイアセットマネジメント寄付講座)	秋	2	2	伊 藤 有 希 ※小 田 圭 一 郎
	特 アジアグローバル経営基礎	秋	2	1	ソーントン・タケシ
	特 Electric Vehicles and Corporate Strategy	秋	2	2	※ミハイル マリノフ
	特 The Business of Mobility	春	2	2	ヘラー・ダニエル
	特 City Marketing and Tourism	秋	2	2	ソーントン・タケシ
	特 横浜DeNAベイスターズスポーツ経営論	集中	2	2	森 田 洋 ※木 村 洋 太
	特 Basics of Business Accounting【注1】	春	2	1	※Stuart Brison
	特 Vietnam-Japan English Dialogue	秋	2	1	ソーントン・タケシ
	特 ビジネス慣行に学ぶ東南アジア諸国の本質	秋	2	2	森 田 洋

【注1】旧授業科目名は「企業会計」「企業会計入門」です。重複履修はできません。

【注1】2013年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

区分	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名
法 律	企業組織法Ⅰ	春	2	2	※竹内明世
	企業組織法Ⅱ	秋	2	2	※竹内明世
	有価証券法	秋	2	3	笹岡愛実

③ 専門（学部）教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。下記の「専門（学部）教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済の場合は、新授業科目を履修できません。

2009年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営システム科	経営情報論ⅠA	2	経営情報論	4
	経営情報論ⅡA	2		

【注】2008年以前入学生は上記2科目4単位をセットで修得しなければ、卒業資格にかかわる単位となりません。必ず2科目セットで履修し、単位を修得してください。

2013年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営システム科	マーケティング戦略論	2	マーケティング論Ⅰ	2
	消費者行動論	2	マーケティング論Ⅱ	2
	マーケティング・サイエンス【注1】	2	マーケティング論Ⅲ【注1】	2
	インターネット・ビジネス・プランニング	2	インターネットコミュニティとEコマース	2

2014年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営	産業分析	2	公的規制論	2
経営システム科	経営財務論	2	財務論Ⅰ	2
	ファイナンシャルリスクマネジメント	2	財務論Ⅱ	2

【注1】マーケティング論Ⅲ、マーケティング・サイエンス、流通論の取り扱いについて、履修・単位取得状況によって履修制限があります。特に再履修をする際は注意するようにしてください。

マーケティング論Ⅲ (2012年度以前)	マーケティング・サイエンス (2013年度)		流 通 論	マーケティング・サイエンス (2014年度以降)
単位修得	(履修×)	→	履修×	履修○
未履修	単位修得	→	履修○	履修×
未履修	不可	→	履修○	履修○(再履修)
不可	単位修得(再履修)	→	履修○	履修×
不可	不可又は未履修	→	履修○(※再履修)	履修○(※再履修)

※マーケティング論Ⅲを不可となり、かつ2013年度にマーケティング・サイエンスを不可又は未履修の場合は、流通論かマーケティング・サイエンスのどちらでも再履修することが出来ます。また、再履修科目として申請しなかった方の科目は通常通り履修することが出来ますが、経営学務係への申請が必要となりますので注意してください。

④ 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

科 目 名	教 員 名
簿記原理Ⅱ	原 俊 雄
会計監査論Ⅱ	前 山 政 之
管理会計論Ⅱ	中 村 博 之

⑤ 夜間主コースとの相互履修（※2016年度以前入学者のみ適用）

「相互履修」とは、昼間主コースの学生が、夜間主コースのために開講されている授業科目を、履修時間帯を超えて履修することです。なお、相互履修については以下の制限があるので留意してください。

- ① 相互履修できるのは2年次生からです。
- ② 夜間主コース開講科目のうち、次の授業科目は相互履修できません。
 - ・夜間主教養科目（3から始まる時間割コードの科目）
 - ・外国語科目
 - ・専門（学部）教育科目のうち下記に含まれる科目
→経営の英語、基本科目群、ゼミナール、夜間主開講法律関係科目、学部必修科目及び所属学科の学科必修科目と同一名称の科目
- ③ 相互履修により修得した専門（学部）教育科目の単位は、30単位まで卒業に関する単位数に算入することができます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。
- ④ 昼間主コース及び夜間主コース両方に開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑤ 夜間主コースのみに開設されている授業を昼間主コースの学生が履修する場合の区分は、「自由選択科目」となります。
- ⑥ 昼夜同時開講科目

「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、5時限に開講される科目です。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は該当科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって、単位数についての上述③の制限を受けません。

なお、今年度開講の昼夜同時開講科目は以下の通りです。5時限に開講される科目が全て昼夜同時開講科目ではないので、注意して下さい。

【昼夜同時開講科目】

学 科 名	科 目 名	学 期	単 位	履修年次
特 殊 講 義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1
経 営 学 科	人的資源管理論Ⅱ	春	2	2
会 計・情 報 学 科	国民会計論Ⅰ	春	2	2
特 殊 講 義	ビジネス慣行に学ぶ 東南アジア諸国の本質	秋	2	2

(4) 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目で修得した単位は、最大30単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ①経済学部学部（専門）教育科目 ≤ 8 単位
- ②経済学部法律関係授業科目 ≤ 6 単位
- ③国際社会科学府博士課程前期経営学専攻開講科目 ≤ 8 単位
- ④横浜市内大学間（放送大学含む） ≤ 8 単位
- ⑤国際交流科目 ≤ 8 単位
- ⑥短期派遣留学・休学中の留学による単位認定 ≤ 30 単位
- ①+②+③+④+⑤+⑥ ≤ 30 単位

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

a. 経済学部開講科目

- ① 経済学部の学部（専門）教育科目は、8 単位まで卒業に必要な学部（専門）教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。
- ② 下記の授業科目は履修の対象から除外します。
 - ・履修学年に1年次が含まれている授業科目
 - ・集中講義の形式で実施される授業科目
 - ・インターンシップ
 - ・ゼミナール
 - ・教職に関する授業科目
- ③ 成績はGPAに算定します。
- ④ 法律関係授業科目の単位の取り扱い（昼間主コースのみ）

昼間主コースの学生は経済学部の法律関係授業科目を履修することができます。修得した単位のうち6単位までは上記①の8単位とは別に経営学部学部（専門）教育科目履修基準表に規定する法律関係授業科目の単位数に算入します。法律関係授業科目の修得単数が6単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。

ア. 2014年度以降入学生

経営学部開講の全ての法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講しています。（同一科目）どちらの学部の科目も同一名称なので、経営学部の科目（時間割コードが3で始まる）で履修登録するよう注意してください。

イ. 2013年度以前入学生

下記の法律関係授業科目について、経済学部と共同で開講している同一科目です。経営学部生は経営学部開講の科目名で履修登録してください。

経営学部開講	経済学部開講
企業組織法Ⅰ	⇔ 商法1
企業組織法Ⅱ	⇔ 商法2
企業取引法	⇔ 商法3
有価証券法	⇔ 商法4

- ⑤ 経営学部生が履修できる経済専門科目（法律含む）は配布する時間割表に記載しています。

b. 教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目

教育学部、理工学部及び都市科学部で開講される学部（専門）教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、それらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績もGPAに算入しません。履修希望者は社会科学系経営学務係へ相談してください。

c. 地域交流科目

地域の課題解決を担う人材を実践的に育てることを目的として開設しています。「副専攻プログラム」のひとつです。詳細は、『平成29年度地域交流科目履修案内』を参照してください。

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に社会科学系経営学務係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、社会人専修コース（ビジネス・スクール）を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は4年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、8単位まで卒業に必要な単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績はGPAに算入しません。
- ⑥ 学部の卒業に必要な単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、8単位まで修了に必要な単位数に算入することができます。

e. 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある12の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、学部（専門）教育科目のみです。（社会人教育プログラム学生を除く）
- ② 8単位まで卒業に必要な単位数に算入します。
- ③ 成績はGPAに算入しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容及び成績に基づいて、経営学部で行います。

※全ての科目が認定されるわけではありません。不安な方は社会科学系経営学務係までお問い合わせ下さい。

- ⑥ 履修希望者は学務部教育企画課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務部教育企画課へ申請してください。

※放送大学の申請手続きは横浜市内大学間の手続きとは異なります。掲示で確認して下さい。

- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、4月下旬に学務部教育企画課より履修希望者に通知します。

f. 国際交流科目

国際交流科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録をしますが、単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績はGPAには算入しないので気を付けてください。

ただし、経営学部学部（専門）教育科目として認定する科目は8単位を上限として卒業に必要な単位数に算入しますが、その成績はGPAには算入しません。

2017年度の単位認定科目は下記の通りです。

科目名	学期	単 位	履修年次	担当教員
日 本 の 経 営	春	2	1	横 澤 公 道
日 本 型 生 産 管 理	春	2	1	松 井 美 樹
日本の企業システム【注1】	春	2	1	長谷川 健 治

【注1】「日本事情 日本の企業システム」との重複履修はできません。

g. 留学による単位認定

交換留学（派遣）制度および休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位を認定します。

単位の認定方法はP103を参照してください。

(5) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも指導教員の承認を得ること。ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時 期

ゼミの選考は原則として2年次春学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。（ただし、交換留学決定者は定員外とすることができる。）

④ 単 位 数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位（計8単位）です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を専門（学部）教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、ゼミナールから除名されることがあります。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることがあります。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(6) 卒業論文試験

① 時 期

4年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3年を超えて在学（休学や3ヶ月を超える停学期間等は除く）し、ゼミナールの単位を除く、卒業資格にかかわる専門（学部）教育科目の単位を48単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年（4年次に受験の場合は3年次）秋学期までの成績で資格が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門（学部）教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や昼間主開講科目等卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

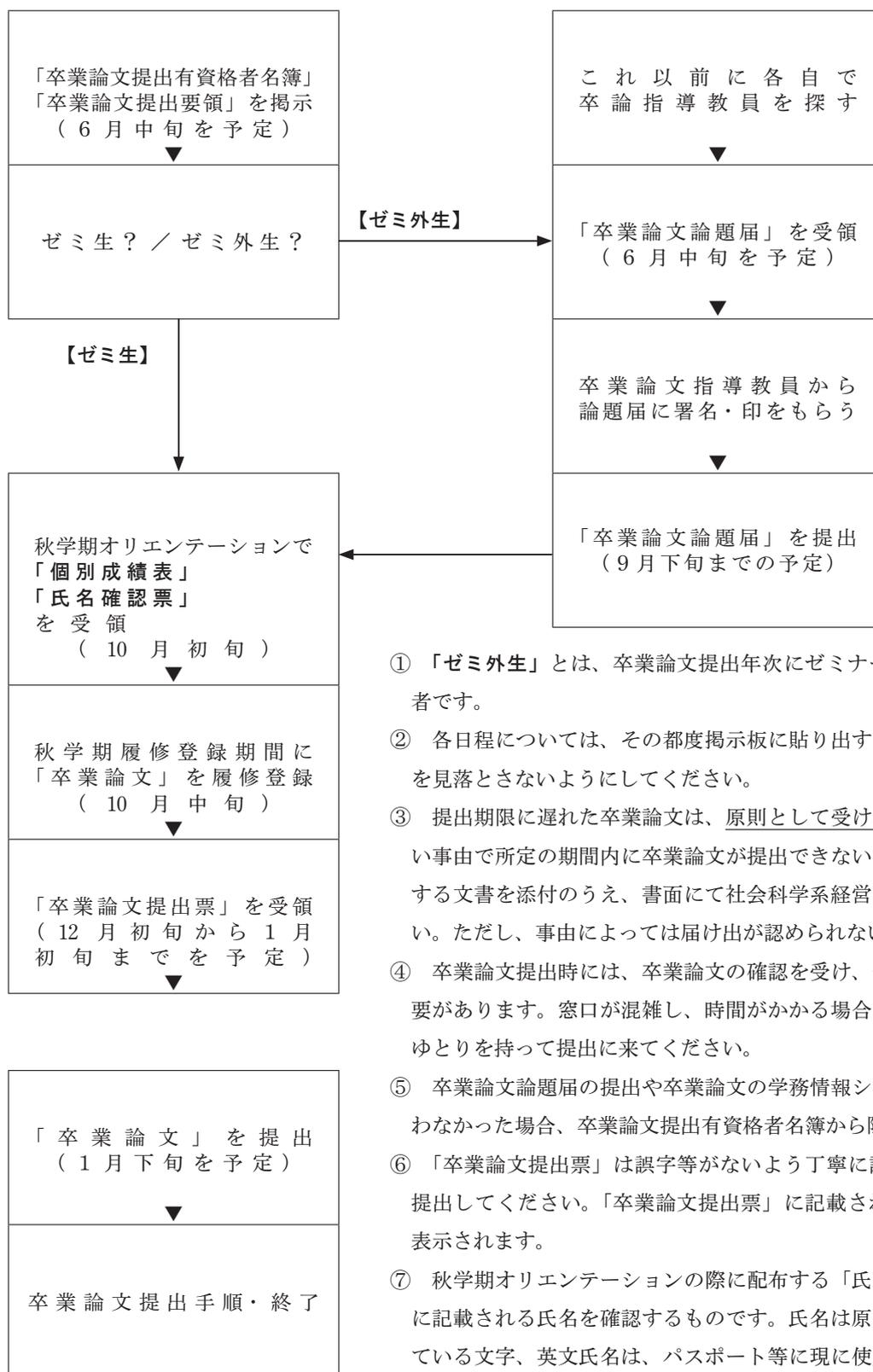
③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の9月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系経営学務係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」を社会科学系経営学務係へ届け出てください（詳細は6月中旬に掲示します）。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

次ページ図を参照

卒業論文提出手順の流れ図



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次にゼミナールⅡを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示板に貼り出すので、特に秋からの掲示を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒業論文は、原則として受け取りません。やむをえない事由で所定の期間内に卒業論文が提出できない場合は、その理由を証明する文書を添付のうえ、書面にて社会科学系経営学務係へ届け出てください。ただし、事由によっては届け出が認められないことがあります。
- ④ 卒業論文提出時には、卒業論文の確認を受け、進路調査票を提出する必要があります。窓口が混雑し、時間がかかる場合がありますので、時間にゆとりを持って提出に来てください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の学務情報システムでの履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 「卒業論文提出票」は誤字等がないよう丁寧に記入して卒業論文と共に提出してください。「卒業論文提出票」に記載された論題は成績証明書に表示されます。
- ⑦ 秋学期オリエンテーションの際に配布する「氏名確認票」は、「学位記」に記載される氏名を確認するものです。氏名は原則として戸籍上使用されている文字、英文氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、また使用予定のものを記入してください。

2011～2016 年度入学生用(昼間主コース) 修得単位確認表

(2010 年度以前入学生は経営学務係で配布する卒業要件チェック表を使用してください)

[教養教育科目]

項目・科目名等				チェック欄	修得単位数	必要・上限 単位数
教 養 コ ア 科 目	基礎科目:人文社会系					4単位以上
	基礎科目:自然科学系	経営学科	統計学Ⅰ-A			8単位
			統計学Ⅱ-A			
		会計・情報学科	統計学Ⅰ-A			12単位
			統計学Ⅱ-A			
	経営システム科学科	統計学Ⅰ-A			12単位	
		統計学Ⅱ-A				
	国際経営学科	統計学Ⅰ-A			4単位	
	その他自然科学系科目				-	
	現代科目					2単位以上
総合科目					2単位以上	
基礎演習科目(選択科目)					2単位	
教養コア科目+基礎演習科目(選択科目)					24単位以上	
外 国 語 科 目	英語 ※英語 Advanced での代替可	英語実習1S 英語実習1W 英語実習1LR春学期 英語実習1LR秋学期 英語実習2SW 英語実習2LR 英語演習				8単位
		1カ国語の場合	実習1			6単位
	実習2					
	英語以外の外国語 ※言語によって要件が存在 することがあります。不安な 方は経営学務係までご相談 ください。	2カ国語の場合	実習1	言語A		
実習2						
		実習1	言語B			
		実習2				
健康スポーツ科目(選択科目)					2単位まで	
合計1					38単位以上	

[専門教育科目]

項目・科目名等		チェック欄	修得単位数	必要・上限 単位数
学部必修科目	簿記原理Ⅰ 簿記原理Ⅱ 経営の英語			6単位
	経営学科			4単位
学科必修科目	経営学総論Ⅰ 経営学総論Ⅱ			4単位
	会計・情報学科			8単位
	経営システム科学科			6単位
	国際経営学科			8単位
選択必修科目	経営学科			12単位以上
	会計・情報学科			12単位以上
	経営システム科学科			12単位以上
	国際経営学科			8単位以上
法律関係科目	経営学部昼間主コース開講法律科目			6単位以上
自由・特殊科目				夜間主開講科 目は30単位まで
ゼミナール(選択科目)	ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ			各4単位
その他 ※2	経済学部開講法律科目 ※1			6単位まで
	経済学部開講専門教育科目 ※1			8単位まで
	国際社会科学府 経営学専攻博士課程前期開講科目			8単位まで
	横浜市内大学間単位互換 (放送大学含む)			8単位まで
	国際交流科目			8単位まで
	インターンシップ			6単位まで
合計2				76 単位以上
合計1 + 合計2				128 単位以上

※1 経済学部開講法律関係科目について
この科目の単位数は、6 単位まで法律関係授業科目として算入できます。6 単位を超えて修得した単位数は、経済学部専門教育科目として算入することができます。ただし、経済学部専門教育科目には上限が設定されていますので、8 単位を超えて算入することができません。
(例)法律関係科目 8 単位 + 専門教育科目 6 単位 → 法律関係科目として 6 単位、専門教育科目として 8 単位を卒業に必要な単位数に算入できる
(例)法律関係科目 8 単位 + 専門教育科目 8 単位 → 法律関係科目として 6 単位、専門教育科目として 8 単位を卒業に必要な単位数に算入し、法律関係科目として修得した残り 2 単位は卒業要件外とする

※2 その他科目について
経済学部開講法律関係科目 + 経済学部専門教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) + 国際交流科目 + 交換留学認定科目 ≤ 30 単位
という上限があります。合計 30 単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することができませんのでご注意ください。

2016年度以前入学者用
(夜間主コース)

5 平成28（2016）年度以前入学者（夜間主コース）

（1）卒業要件

- ① 経営学部にて4年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算GPA（Grade Point Average）が2.0以上あること
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（経営学）」の学位を授与します。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかる授業科目は、教養教育科目及び専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」とおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数を定めており、卒業までに、これら全ての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

教養教育科目	夜間主教養科目【注1】		24単位以上
	外国語科目	英語	8単位
		英語以外の外国語（1ヶ国語）【注2】	4単位
	健康スポーツ科目【注3】		2単位まで
	計		36単位以上
専門教育科目	基本科目群		8単位以上
	法律関係授業科目		6単位以上
	ゼミナール【注4】		8単位
	自由選択科目		—
	計		76単位以上
合		計【注5】	124単位以上

【注1】 昼間主コースの教養教育科目（全学教育科目）のうち、インターンシップ前提科目、地域交流科目、グローバル副専攻プログラム「グローバルPlus One」科目群に含まれる科目において修得した単位は卒業資格に関する夜間主教養教育科目の単位数に算入する。

【注2】 英語以外の外国語は「ドイツ語」又は「フランス語」から1ヶ国語を選択履修してください。

【注3】 昼間主コースで開設している健康スポーツ科目を履修することができます。修得した単位は2単位まで卒業資格に関わる教養教育科目の単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業時に減算するので注意してください。

【注4】 ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は専門教育科目から単位を修得してください。

【注5】 合計124単位のうち、教養教育科目36単位及び専門教育科目76単位を除いた12単位分は、教養教育科目または経営学部専門教育科目のどちらから修得しても構いません。

② 1単位当たりの授業時間

昼間主コースと同様です（60ページを参照）。

③ 9月卒業について

昼間主コースと同様です（60ページを参照）。

(2) 教養教育科目

① 必修科目

教養教育科目の必修科目は次の表の通りです。

区分	学科	経営学科
教養教育科目		数学Ⅰ・Ⅱ 統計学Ⅰ-B・Ⅱ-B
英語		「英語」の1-1-I、1-1-II、1-2-I、1-2-II 2-1-I、2-1-II、2-2-I、2-2-II
英語以外の外国語		「ドイツ語」又は「フランス語」の1-I、1-II、2-I、2-II

② 夜間主教養教育科目一覧表（※は非常勤講師）

教養教育科目						分野	
授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員			
哲学	Ⅰ	春秋	2	1	※野村 智清		人文分野
	Ⅱ	春秋	2	1	※野村 智清		
論理・倫理	Ⅰ	秋	2	1	※松浦 和也		
	Ⅱ	秋	2	1	※松浦 和也		
国語・国文学	Ⅰ	春秋	2	1	※伊藤 高雄		
	Ⅱ	春秋	2	1	※伊藤 高雄		
歴史	Ⅰ	春秋	2	1	※穴山 朝子		
	Ⅱ	春秋	2	1	※穴山 朝子		
美学及び美術史	Ⅰ	春秋	2	1	※森山 緑		
	Ⅱ	春秋	2	1	※森山 緑		
心理学		春	2	1	※山田 一子		
社会学	Ⅰ	春秋	2	1	※小林 由里子		社会分野
	Ⅱ	春秋	2	1	※小林 由里子		
社会科学概論	Ⅰ	春秋	2	1	※飛田 綾子		
	Ⅱ	春秋	2	1	※飛田 綾子		
経済	Ⅰ	春秋	2	1	※中田 大悟		
	Ⅱ	春秋	2	1	※中田 大悟		
法学		春	2	1	※御手洗 大輔		
日本国憲法		秋	2	1	※御手洗 大輔		
数学	Ⅰ	春秋	2	1	鈴木 香織		自然分野
	Ⅱ	春秋	2	1	鈴木 香織		
統計学	Ⅰ-B	春秋	2	1	※坂原 樹麗		
	Ⅱ-B	春秋	2	1	※坂原 樹麗		
化学	Ⅰ	春秋	2	1	※矢ヶ部 重隆		
	Ⅱ	春秋	2	1	※矢ヶ部 重隆		
物理学	Ⅰ	春秋	2	1	※渋谷 一夫		
	Ⅱ	春秋	2	1	※渋谷 一夫		

③ 外国語科目（※は非常勤講師）

科目区分	授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員名
英 語	英 語 1 - 1 - I	春	1	1	※木 村 聡 雄
	英 語 1 - 1 - II	秋	1	1	※木 村 聡 雄
	英 語 1 - 2 - I	春	1	1	※南 谷 奉 良
	英 語 1 - 2 - II	秋	1	1	※南 谷 奉 良
	英 語 2 - 1 - I	春	1	2	※木 村 聡 雄
	英 語 2 - 1 - II	秋	1	2	※木 村 聡 雄
	英 語 2 - 2 - I	春	1	2	※南 谷 奉 良
	英 語 2 - 2 - II	秋	1	2	※南 谷 奉 良
英 語 以 外 の 外 国 語	ド イ ツ 語 1 - I	春	1	1	※志 田 慎
	ド イ ツ 語 1 - II	秋	1	1	※志 田 慎
	ド イ ツ 語 2 - I	春	1	2	※志 田 慎
	ド イ ツ 語 2 - II	秋	1	2	※志 田 慎
	フ ラ ン ス 語 1 - I	春	1	1	※平 岡 敦
	フ ラ ン ス 語 1 - II	秋	1	1	※平 岡 敦
	フ ラ ン ス 語 2 - I	春	1	2	※平 岡 敦
	フ ラ ン ス 語 2 - II	秋	1	2	※平 岡 敦

TOEFL、IELTSスコアによる単位認定

TOEFLまたはIELTSにおいて、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。ただし、単位認定は1回限りとします。スコアは申請月から遡って12か月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を取得した科目がある場合は認定できません。

ア. 基準

- ・ TOEFL（英語統一テストを含む）iBT100以上、ITP600以上
- ・ IELTS 7.0以上

イ. 単位認定科目

1年次の科目

「英語」の1-1-I、1-1-II、1-2-I、1-2-II 4科目4単位について「秀」を認定します。

2年次の科目

「英語」の2-1-I、2-1-II、2-2-I、2-2-IIのうち、2科目2単位について「秀」を認定します。

3年次の科目

経営の英語1科目2単位について「秀」を認定します。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

(3) 専門教育科目

① 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、必要な授業科目・単位数を履修してください。基本科目群として履修する科目以外のものについては、「授業科目一覧」(93～94ページを参照)の中から自由に選択できます。

専門教育科目履修基準表

区 分	学 科	経 営 学 科
基 本 科 目 群	経営学総論Ⅰ 簿記原理Ⅰ ビジネス・エコノミクス 国際経営論Ⅰ	経営学総論Ⅱ 簿記原理Ⅱ 経営情報論ⅠB【注1】 国際経営論Ⅱ 上記から8単位以上を履修すること。
法 律 関 係 授 業 科 目	6単位以上（経営学部夜間主コース開講の法律関係科目に限ります。）	
ゼ ミ ナ ー ル	8単位 (ゼミナールⅠ4単位・ゼミナールⅡ4単位) { ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を、 専門教育科目から修得してください。	
自 由 選 択 科 目 【注2】	基本科目群以外の専門教育科目、特殊講義、インターンシップ等から選択できます。	
計	76 単 位 以 上	

【注1】旧授業科目名は「経営情報リテラシー」

【注2】昼間主コース開講の専門教育科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位数に算入できます。(詳細は95ページ参照) 30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

② 専門教育科目一覧表

専門教育科目では各授業ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。

また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意してください。

以下の「授業科目一覧」の中で「休講」となっている科目は2017年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、上述の「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

夜間主コース 経営学科

経営関係授業科目（※は非常勤講師）

授業科目	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分
経営学総論 I	春	2	1	高井文子	基本科目群 基本科目群
経営学総論 II		2	1	休講	
経営学原理 I		2	2	休講	
経営学原理 II		2	2	休講	
経営組織論		2	2	休講	
経営戦略論		2	2	休講	
経営史		2	3	休講	
人的資源管理論 I		2	2	休講	
人的資源管理論 II	春	2	2	二神枝保	
行動科学		2	2	休講	
産業社会学 I		2	2	休講	
産業社会学 II		2	2	休講	
人間科学 I	春	2	2	※小嶋正敏	
人間科学 II	春秋	2	2	※小嶋正敏	
産業組織論	春	2	2	小貴志奈央子	

会計・情報関係授業科目（※は非常勤講師）

授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分
簿記原論 I	春	2	1	※吉田智也	基本科目群 基本科目群
簿記原論 II	秋	2	1	※吉田智也	
会計学原論 I	春秋	2	2	大雄智	
会計学原論 II		2	2	大雄智	
公会計論 I		2	2	休講	
公会計論 II		2	2	休講	
原価会計論		2	2	休講	
管理会計論 I	春	2	2	君島美葵子	
管理会計論 II	秋	2	2	君島美葵子	
生態会計論 I		2	2	休講	
生態会計論 II		2	2	休講	
国民会計論 I	春	2	2	大森明	
国民会計論 II	秋	2	2	大森明	

経営システム科学関係授業科目（※は非常勤講師）

授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分
経営学総論		2	1	休講	基本科目群
ビジネス・エコノミクス		2	1	休講	
意思決定論		2	2	休講	
生産システム論	秋	2	3	松井美樹	
経営情報論 IB	春	2	1	※杉村倫代	基本科目群
経営情報論 IIB	秋	2	1	※杉村倫代	
マーケティング戦略論		2	2	鶴見裕之	
消費者行動論		2	2	休講	
経営財務論		2	2	休講	
ファイナンスリスクマネジメント	秋	2	2	伊藤有希	

夜間主コース

国際経営関係授業科目（※は非常勤講師）

授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員	科目区分
国際経営論Ⅰ	春	2	2	河野英子	基本科目群 基本科目群
国際経営論Ⅱ	秋	2	2	河野英子	
国際人事管理論Ⅰ	春	2	3	柴田裕通	
国際人事管理論Ⅱ	秋	2	3	柴田裕通	
比較経営史Ⅰ	春	2	2	青木洋	
比較経営史Ⅱ	秋	2	2	青木洋	
言語コミュニケーション論		2	2	休講	
比較技術経営論Ⅰ		2	2	休講	
比較技術経営論Ⅱ		2	2	休講	
経営の英語【注1】	秋	2	3	小林正佳	

【注1】 TOEFLまたはIELTSのスコアによる単位認定が可能です。詳細はP91で確認してください。「経営の英語」は平成31年度より廃止となります。

法律関係授業科目及びインターンシップ（※は非常勤講師）

区分	授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
法律関係【注1】	民法 1	春 春 秋 春	2	2	休講 休講 ※長 友 昭 ※西 村 将 樹 ※西 村 将 樹 ※西 村 将 樹
	民法 2		2	2	
	民法 3		2	2	
	商法 1		2	3	
	商法 2		2	3	
	商法 3		2	3	
インターンシップ	インターンシップ				[100ページを参照して下さい]
特殊講義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1	ソートン・タケン
	ビジネス慣行に学ぶ 東南アジア諸国の本質	秋	2	2	森 田 洋

【注1】 2013年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

区分	授業科目名	学 期	単 位	履修学年	担当教員
法律関係	企業組織法Ⅰ	春 秋 春 春	2	2	※西 村 将 樹 ※西 村 将 樹 ※西 村 将 樹 ※長 友 昭 休講 休講
	企業組織法Ⅱ		2	2	
	有価証券法		2	3	
	企業活動と法		2	2	
	民法Ⅰ		2	2	
	民法Ⅱ		2	2	

③ 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。下記の「専門教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済の場合は、新授業科目を履修できません。

2013年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
マーケティング戦略論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅰ	2
消費者行動論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅱ	2

2014年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
経営財務論〈科目名変更〉	2	財務論Ⅰ	2
ファイナンシャルリスクマネジメント〈科目名変更〉	2	財務論Ⅱ	2

④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

2017年度

科目名	教員名
簿記原理Ⅱ	吉田智也
管理会計論Ⅱ	君島美葵子

⑤ 昼間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、夜間主コースの学生が、昼間主コースの学生のために開講されている授業科目を、履修時間帯を越えて履修することです。

① 教養教育科目

A 1年次から相互履修することができます。

B 全学教育科目（教養教育科目）のうち履修できる科目

- ・インターンシップ前提科目（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理念」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」
- ・地域交流科目（教養教育のみ）
- ・「グローバルPLUS ONE」副専攻プログラムの科目群に含まれる科目の一部（詳細は経営学務係で確認してください。）

以上の科目を修得した場合は、卒業資格にかかわる夜間主教養教育科目の単位に算入されます。

- ・健康スポーツ科目

修得した場合、2単位まで卒業にかかわる教養教育科目の単位数に算入されます。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ・英語による授業科目の一部

履修できる科目については掲示及び窓口にて一覧を配布しますので、確認してください。単位を修得した場合は、卒業資格外の単位となります。

② 専門教育科目

- A 相互履修できるのは2年次生からです。
- B 次の授業科目は相互履修できません。

専門教育科目のうち下記に含まれる科目

→基本科目群と同一名称の科目、経営の英語、法律関係科目、ゼミナール

- C 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで、卒業資格にかかる単位数に算入できます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。
- D 夜間主及び昼間主コースの両方で開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- E 昼間主コースのみに開講されている授業科目を、夜間主コースの学生が履修登録する場合の授業区分は「特殊講義」となります。
- F 昼夜同時開講科目

「昼夜同時開講科目」とは、昼間主コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、昼夜相互時間帯（5限：5ページ、（6）「授業時間」を参照）に開講される授業科目のことです。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開設されており、学生は当該科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって、単位数について上述Cの制限を受けません。

なお、本年度開講の昼夜同時開講科目は以下のとおりです。5時限に開講される科目全てが昼夜同時開講ではないので、注意してください。

【昼夜同時開講科目】

学 科 名	科 目 名	学 期	単 位	履修年次
特 殊 講 義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1
経 営 学 科	人的資源管理論Ⅱ	春	2	2
会 計・情 報 学 科	国民会計論Ⅰ	春	2	2
特 殊 講 義	ビジネス慣行に学ぶ 東南アジア諸国の本質	秋	2	2

（４）経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目で修得した単位は、最大30単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄に表示されますが、卒業論文資格認定時及び、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ①経済学部学部（専門）教育科目 ≤ 8単位
- ②国際社会科学府博士課程前期経営学専攻開講科目 ≤ 8単位
- ③横浜市内大学間（放送大学含む） ≤ 8単位
- ④国際交流科目 ≤ 8単位
- ⑤交換遣留学・休学中の留学による単位認定 ≤ 30単位
- ①+②+③+④+⑤ ≤ 30単位

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

a. 経済学部開講科目

- ① 経済学部の学部（専門）教育科目は、8単位まで卒業に必要な学部（専門）教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。
- ② 下記の授業科目は履修の対象から除外します。
 - ・履修学年に1年次が含まれている授業科目
 - ・集中講義の形式で実施される授業科目
 - ・インターンシップ
 - ・ゼミナール
 - ・教職に関する授業科目
 - ・法律関係授業科目
- ③ 成績はGPAに算定します。

b. 教育学部、理工学部及び都市科学部開講科目

昼間主コースと同様です。(84ページを参照)

c. 地域交流科目

昼間主コースと同様です。(84ページを参照)

d. 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

昼間主コースと同様です。(84ページを参照)

e. 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）

昼間主コースと同様です。(84ページを参照)

f. 国際交流科目

昼間主コースと同様です (84ページを参照)

g. 留学による単位認定

交換留学（派遣）制度および休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位を認定します。

単位の認定方法はP103を参照してください。

(5) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも教員の承認を得ること。ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時 期

ゼミの選考は原則として2年次秋学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。(ただし、交換留学決定者は定員外とすることができる。)

④ 単 位 数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位(計8単位)です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を専門教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、該当指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(6) 卒業論文試験

① 時 期

4年次秋学期

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、3年を超えて在学(休学や3ヶ月を超える停学期間等は除く)し、ゼミナールの単位を除く、卒業資格にかかわる専門教育科目の単位を40単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年(4年次に受験の場合は3年次)秋学期までの成績で資格が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や昼間主開講科目等卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の9月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し(社会科学系経営学務係では斡旋しません)、「卒業論文論題届」を社会科学系経営学務係へ届け出てください(詳細は6月中旬に掲示します)。届け出なかった場合は、卒業論文有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

昼間主コース、87ページを参照

2011～2016 年度入学生用(夜間主コース) 修得単位確認表
 (2010 年度以前入学生は経営学務係で配布する卒業要件チェック表を使用してください)

[教養教育科目]

項目・科目名等		チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
教養教育科目	夜間主教養科目	必修科目 数学Ⅰ 数学Ⅱ 統計学Ⅰ－B 統計学Ⅱ－B		24単位以上
	その他夜間主教養教育科目			
昼間主教養教育科目(選択科目) ※1				
外国語科目	英語	英語1－1－Ⅰ 英語1－1－Ⅱ 英語1－2－Ⅰ 英語1－2－Ⅱ 英語2－1－Ⅰ 英語2－1－Ⅱ 英語2－2－Ⅰ 英語2－2－Ⅱ		8単位
	英語以外の外国語	1－Ⅰ 1－Ⅱ 2－Ⅰ 2－Ⅱ		4単位
健康スポーツ科目(選択科目) ※2				2単位まで
合計1				36 単位以上

※1 昼間主教養教育科目は、インターンシップ前提科目(「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」「ベンチャーから学ぶマネジメント」)、及び地域交流科目を指します。

※2 健康スポーツ科目は、昼間主コースの科目を履修することができます。修得した単位は2単位まで卒業資格に関わる単位数に算入することができます。

[専門教育科目]

項目・科目名等		チェック欄	修得単位数	必要・上限単位数
基本科目群				8単位以上
夜間主自由・特殊科目				—
昼間主自由・特殊科目(選択科目)				30単位まで
法律関係科目	経営学部夜間主コース開講法律科目			6単位以上
ゼミナール(選択科目)	ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ			各4単位
その他 ※3	経済学部開講専門教育科目			8単位まで ※3
	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目			8単位まで ※3
	横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)			8単位まで ※3
	国際交流科目			8単位まで ※3
	インターンシップ			6単位まで
合計2				76 単位以上
合計1 + 合計2				124 単位以上

※3 その他科目について

経済学部開講専門教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換(放送大学含む) + 国際交流科目 + 交換留学認定科目 ≤ 30 単位という上限があります。合計 30 単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することができませんのでご注意ください。

6 YCCS特別プログラムによる開講科目

YCCS特別プログラムによる開講科目は、科目によって履修方法・単位の取り扱いが異なりますので気を付けてください。
YCCS特別プログラムによる開講科目の種類は大きく分けて3種類ありますが、どの科目が該当するかについては掲示等でお知らせします。

① 全学（教養）教育科目として開講されている科目

YCCS特別プログラムによる開講科目のうち全学（教養）教育科目として開講されている科目があります。この科目は全学（教養）教育科目の時間割コードを用いて履修登録し、単位を修得すると科目ごとに定められた科目区分に従い卒業に関わる単位に算入されます。（英語演習の取り扱いについては70ページも参照してください）

夜間主コースの学生も履修することができ、副専攻プログラム「グローバルPlus One」に定められた科目群に含まれる科目（一部を除く）は卒業に関わる夜間主教養科目の単位に、その他の科目については卒業要件外の単位となります。

② 経営学部が学部（専門）教育科目として開講している科目

下記の科目は経営学部が昼間主コースの学部（専門）教育科目として開講しています。経営学部生は経営学部の時間割コードを用いて履修登録し、単位を修得し、単位を修得すると学部（専門）教育科目として卒業に関わる単位に算入されます。

夜間主コースの学生は昼間主コースの相互履修制度を利用して履修することができます。

科 目 名	学 期	単 位	履修年次	担当教員
Electric Vehicles and Corporate Strategy【注1】	秋	2	2	※マリノフ・ミハイル
アジアグローバル経営基礎【注1】	秋	2	1	ソートン・タケシ
The Business of Mobility【注1】	春	2	2	ヘラー・ダニエル
City Marketing and Tourism【注1】	秋	2	2	ソートン・タケシ
Basics of Business Accounting【注1】	春	2	2	※Stuart Brison

【注1】GBEEPの学生が単位を修得した場合は、GBE科目として卒業に必要な単位数に算定します。

③ 国際交流科目

YCCS特別プログラムによる開講科目のうち国際交流科目として開講されている科目があります。この科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録しますが、単位を修得しても卒業要件外の単位となり、その成績はGPAには算定しないので気を付けてください。

ただし、経営学部学部（専門）教育科目として認定する科目は、8単位を上限として、卒業に必要な単位数に算入しますが、その成績はGPAには算定しません。

2017年度の単位認定科目は下記の通りです。

科 目 名	学 期	単 位	履修年次	担当教員
日 本 の 経 営	春	2	1	横 澤 公 道
日 本 型 生 産 管 理	春	2	1	松 井 美 樹
日本の企業システム【注1】	春	2	1	長谷川 健 治

単位認定申請は必要ありません。そのまま履修登録してください。

修得単位数が8単位を超えた場合は、卒業論文資格認定、卒業判定の際に単位を減算しますので、注意してください。

【注1】「日本事情 日本の企業システム」との重複履修はできません。

7 キャリア教育

キャリア教育とは就業への意識と適応能力を高め、将来の職業選択に資するための教育です。経営学部では、キャリア教育の一環として、以下の制度を設けています。

(1) インターンシップ

インターンシップでは学生が一定期間企業で研修生として働き、自分の将来に関連する就業を体験できる制度です。経営学部ではインターンシップを専門教育科目として開設しています。同科目を履修した場合は最大6単位まで卒業に必要な単位数に算入します。なお、成績はGPAに算定しません。

① 対象となるインターンシップ

国内の企業等で1ヶ月以上の業務を行う中長期・実践型のものに限りです。

② インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践前に、経営学部が毎年度開講する全学（教養）教育科目、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目のうち1科目以上を履修登録済であること。

※夜間主コース生の学生も、上記のインターンシップ前提科目を履修できます。修得した単位は、夜間主教養科目の単位となります。

③ インターンシップ受入れ企業等の決定

学生本人が行うこと。ただし、特定の受入れ可能な企業の紹介とマッチングは経営学部が支援します。支援内容等は掲示板で確認してください。

④ 提出書類

インターンシップ受入れ企業等が決定後、速やかに「インターンシップ単位認定申請書」を社会科学系経営学務係に提出してください。

また、インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業が作成した「評価書」を社会科学系経営学務係に提出してください。なお、提出に必要な用紙は社会科学系経営学務係にあります。

⑤ 履修登録

上記④をすべて終えた次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。書類提出締切を設けていますので、掲示で確認してください。また、インターンシップを継続中の場合は、社会科学系経営学務係に報告してください。

⑥ その他

- a. インターンシップは、休業期間に行うことが原則です。授業への出席に支障があると判断される場合は、履修できないので注意してください。
- b. 認定単位数は、「インターンシップ成果報告書」とインターンシップ受入れ企業等作成の「評価書」を基に、就業90時間1単位を目安として経営学部教授会で決定します。

- c. インターンシップ実践において、交通費及びそれに代わる報酬等が支払われない場合には、実習定期乗車券を申請することができます。申請者は、インターンシップ受入れ決定後、直ちに「インターンシップ実習用定期乗車券申請書・交通費無支給証明書」を提出してください。用紙は社会科学系経営学務係にあります。
- d. 学外でのインターンシップ実践に際しては、受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において傷害保険及び賠償責任保険に加入してください。

(2) 海外インターンシップ

下記条件1)、2)、3)を満たし、経営学部が認定したインターンシップを、経営学部専門科目「海外インターンシップ」として6単位を上限として単位認定する。実践時間60時間で1単位を目安とする。

① 条件

- 1) 海外で、英語等の日本語以外の言語による業務を、一定期間以上行う実践型インターンシップであること。実践型インターンシップの内容は「経営学部インターンシップ (P100)」に準ずる。
- 2) 経営学部が認定する組織が実施・仲介するもので、1)を満たすもの。もしくは、本学が他の組織と連携して行うもので、1)を満たすもの。
- 3) 原則として、春期、夏期の休業期間中に行うものとし、各学期の授業開始日の前日までに帰国するものとする。【注1】

② インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践前に、経営学部が毎年度開講する全学教育科目「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目のうち1科目以上を履修登録済であること。

③ 単位認定について

- ・帰国後の国際交流委員会等が開催する説明会・報告会での報告により「海外学修 (インターンシップ)」として2単位を与える。
- ・上記の「海外学修 (インターンシップ)」2単位の他に、6単位まで「海外インターンシップ」の単位として認定する。

④ 提出書類

インターンシップ受入れ企業等が決定後、速やかに「インターンシップ単位認定申請書」を社会科学系経営学務係に提出してください。

また、インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業が作成した「インターンシップ評価書 (英語版)」もしくは、それに代わる証明書等を社会科学系経営学務係に提出してください。

⑤ 履修登録

上記④をすべて終えた次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。書類提出締切を設けていますので、掲示で確認してください。

⑥ その他

受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において傷害保険及び賠償責任保険に加入してください。

【注1】 本学が他の組織と連携して行う海外インターンシップにおいては、内容を勘案した上で、必要があれば特例措置を講じる。

(3) 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス

ビジネス・プラクティスは、所属する専攻（課程・学科）以外の分野を系統的に学習する「副専攻プログラム」の一つです。

ビジネスにおける実践性を重視した下記の「ビジネス・プラクティス科目群」の修得と、現実的な課題への対応能力を養う「ビジネス・プラクティス修了課題」への取り組みによって、企画力・発信力・実現力を養い、ビジネス人材としての価値を高めることを意図しています。

① ビジネス・プラクティス科目群

コア科目	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論（必修）
	ベンチャーから学ぶマネジメント（必修）
選択科目	経営学部インターンシップ
	マイ・プロジェクト・ランチャー
	マーケティング・プラクティス
	現代の物流経営
	インターネット・ビジネス・プランニング
	ビジネスゲーム
	特定の産業を取り上げ、経営者・実務家から経営ノウハウを学ぶ授業 （「実践から学ぶキャリア・マネジメント」など）
	社会における実践体験 ー富丘会メッセージー

② 修了要件

下記の3つの要件をすべて満たした者を修了とします。

- コア科目:計4単位（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」及び「ベンチャーから学ぶマネジメント」）を修得。
- 選択科目:「ビジネス・プラクティス科目群」から8単位以上を修得。
- 経営学部キャリア教育委員会が課す「ビジネス・プラクティス修了課題」の合格。

③ ビジネス・プラクティス修了課題と申請手続き

ビジネス・プラクティス修了課題は、年1回秋学期に行います。上記の修了要件のa、bを満たしているか、または当該年度の秋学期に単位を修得見込みで、ビジネス・プラクティスの修了を希望する者は、秋学期の履修登録期間中に、ビジネス・プラクティス修了課題受験申請書を、社会科学系経営学務係に提出してください。申請者にはビジネス・プラクティス修了課題の実施について別途連絡します。

④ 修了証

ビジネス・プラクティス修了課題に合格し、②の修了要件をすべて満たした者には、当該年度末に副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」修了証を発行します。

8 海外での学修

(1) 交換留学（派遣）、私費留学（大学・短期大学）

交換留学（派遣）について

① 概要

本学部では、イギリス、アメリカ、オーストラリア、フランス、中国、韓国、ベトナム、スイス、チェコ、インド等120校以上の協定校と学生交流の覚書を交わしており、1年あるいは半年の期間、本学に在学したまま各協定大学へ留学することができます。留学中、授業料は本学で納入し、相手大学の検定料、入学料、授業料は免除されます。また、留学中に修得した単位は、教授会の議を得て認定の可否が決定されます。

ただし、派遣留学生となるためには、GPAの数値等いくつかの条件を満たさなければなりません。大学ごとに応募資格や派遣定員が決まっていますので、あらかじめ確認し、十分に準備をするようにしてください。

語学面では、英語圏の大学及び非英語圏の大学の英語によるコースへの留学希望者の場合には、学内基準として、TOEFL iBT80が必要です。非英語圏の大学への留学希望者の場合にも、各種語学テストのスコアや初修外国語の履修証明（成績）等が必要になります。

各大学への応募資格、派遣定員、就学期間等の詳細については、学務部・留学交流係または社会科学系経営学務係窓口で確認してください。また、経営学部では、留学説明会を実施していますので、積極的に参加するようにしてください。

② 単位の認定について

- a. 留学先大学での履修科目の内容が、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合に60単位を上限に単位を認定します。（2016年度以前入学者は30単位を上限に単位を認定します。）
- b. 対象となる科目は、全学（教養）教育科目と学部（専門）教育科目の全てです。
- c. 留学先履修科目1科目に対して、経営学部開講科目1科目が対応します。ただし、履修科目の単位が4単位以上の場合、経営学部開講科目2科目で認定することや、異なる2科目以上の単位として認定することがあります。また、異なる履修科目の単位を合算して、1科目分の単位として認定することがあります。
- d. 対応する科目がない場合（単位修得済みを含む）は、原則として卒業資格外の増加単位となります。ただし、経営学部の学部教育科目に相当すると判断される科目について、特殊講義として認定することがあります。また、全学教育科目（外国語科目を含む）について、授業で使用された言語に相当する外国語科目として認定することがあります。
- e. 成績はGPAに算定しません。
- f. 帰国後1ヶ月以内に社会科学系経営学務係まで申請してください。

③ 私費留学について

休学期間中に外国の大学または短期大学において履修した授業科目について、教育上有益と認められ経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位の認定することがあります。

単位の認定方法は上記②を参照すること。留学前に経営学務係までお問い合わせください。

(2) 海外学修科目について (2017年度以降入学者適用)

【交換留学・私費留学共通】

・ 毎月の報告書の提出および帰国後の留学報告会での報告により「海外学修科目」として2単位を与える。

【海外学修科目に該当する科目】

- ① 英語討論
- ② Applied Economics Intensive
- ③ 海外インターンシップ (詳細は101ページを参照)

9 教育職員免許状（2016年度以前入学者のみ）

経営学部では教育職員免許状を取得することができます。（平成28年度以前の入学者のみ）

取得できる免許状の種類は「高等学校教諭1種普通免許状」、教科は「商業」です。

（1）必要な資格と単位

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び同法施行規則に規定された以下の資格と科目の単位を修得する必要があります。

基礎資格	学士の学位を有すること。	
教科に関する科目	2010年度入学生以降：44単位（「職業指導」4単位を必ず含めること） 2009年度入学生以前：42単位（「職業指導」4単位を必ず含めること）	
教職に関する科目	教職論	2単位
	人間形成論【2010年度以前入学生】	} 2単位
	教育基礎論【2011年度以降入学生】	
	教育の心理学	2単位
	商業科教育法	2単位
	生徒理解【2010年度以前入学生】	} 2単位
	生徒・進路指導論【2011年度以降入学生対象】	
	教育実習	3単位
特に必要なものとして文部科学省令で定める科目	日本国憲法	2単位
	体育	2単位
	外国語コミュニケーション	2単位
	情報機器の操作	2単位

（2）履修方法

① 教科に関する科目

教科に関する科目44単位（2009年度入学生以前は42単位）は、本学部専門教育科目のうち、商業関係科目の単位で充当します。

商業関係科目については、必要に応じて社会科学系経営学務係で確認してください。なお、「職業指導」（4単位）は「人間科学Ⅰ」「人間科学Ⅱ」（計4単位）または「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」（計4単位）を代替科目として指定しているので、いずれかの組み合わせを必ず履修してください。

② 教職に関する科目

教職に関する科目は開講されない年度があるので、履修については特に注意してください。詳細については、後日学生用掲示板にて別途掲示します。なお、教育学部で開講する教職科目の履修を希望する場合は、社会科学系経営学務係に事前に相談してください。

③ 特に必要なものとして文部科学省令で定める科目

特に必要なものとして文部科学省令で定める科目は、次の本学部開講科目で履修してください。「体育」は「健康スポーツ演習B」（2単位）、「外国語コミュニケーション」は本学部卒業資格にかかわる外国語科目、「情報機器の操作」は「経営情報論ⅠA」「経営情報論ⅡA」「経営情報論ⅠB」「経営情報論ⅡB」（各2単位）のいずれか1科目です。

(3) 教育実習

① 概要

教育実習は事前指導・本実習・事後指導からなり、以下の手順で実施します。なお、いずれの事項も必須です。

教育実習参加前年度	4月 「教育実習参加仮申込書」を提出。
	4月～ 教育実習の受け入れ先を自ら探し、受け入れを依頼。
	12月 教育実習終了者の「事後指導」を見学し、来年度教育実習参加者オリエンテーションに参加。
教育実習参加年度 (卒業年度)	4月 「事前指導」を受講。 「教育実習申込書」を提出。 「教育実習」を履修登録。
	6月または11月 本実習を実施(2週間)。 (終了後2週間以内に教育実習記録をまとめ、経営学務係に提出)
	12月 「事後指導」を受講。 (前日までに本実習レポートを社会科学系経営学務係に提出)

② 履修要件

教育実習は卒業年次に、卒業見込みの者に限り履修できます。

卒業の前年度までに次の科目及び単位を修得していることが必要です。

専門教育科目	昼間主コース 48単位以上 夜間主コース 40単位以上	{ 「職業指導」 4単位を含む。 } { ゼミナールの単位は除く }
教職に関する科目	12単位 (2010年度以降入学生) (商業科教育法4単位、生徒・進路指導論2単位を含む)	

※実習に参加する前に傷害保険及び賠償責任保険に加入し、教育実習中の事故等が給付の対象となるか必ず確認してください。

(4) 免許状授与申請

教育職員免許状取得希望者は、申請に必要な証明書を社会科学系経営学務係に請求し、その証明書を持って自ら各都道府県教育委員会に免許状授与申請を行ってください。なお、申請方法、申請受付期間等の詳細については、申請先の教育委員会に照会してください。

10 学務関係諸手続き

(1) 休学、退学、除籍

① 休学

休学を希望する学生は、本学所定の「休学願」に必要な事項を記載し、事由に応じた証明書類を添付して、社会科学系経営学務係に申請してください。休学には学長の許可を得なければなりません。

a. 休学

休学の対象となる事由	必要証明書類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書（様式随意） ※加療に必要な期間（＝休学期間）の記載が必要
本人の出産又は親として3歳未満の育児に従事	出産に関する医師の診断書等（様式随意）
学資の支弁が困難	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
家族の看病又は介護	看病については、父母等の「理由書」（様式随意）及び医師の診断書（様式随意）、介護については父母等の「理由書」及び事実を証明する書類
勤務の都合	勤務先の証明書（様式随意） 主に社会人教育プログラム、夜間主コース学生が対象。 一般プログラム、昼間主コース学生は自ら起業する場合のみ。（起業の場合、「登記を証明する書類」を提出）
語学研修及び語学研修に伴って特定の専門領域を研修	・受け入れ先の学校の「入学許可書」（本紙を持参のこと。） ・本学所定の「計画書」（社会科学系経営学務係窓口で受領してください。）
ワーキングホリデー	・ビザ（コピー不可） ・ワーキングホリデー制度の説明書又はパンフレット（コピー可） ・本学所定の「計画書」（社会科学系経営学務係窓口で受領してください。）

b. 休学申請の時期は、原則として春学期または秋学期の開始する1ヶ月以上前までです。なお、学期の開始後に休学の事由が発生した場合は、速やかに証明書類（前述）を添付して社会科学系経営学務係に申請してください。

c. 休学中の学生が、休学期間の延長を願い出る場合は、休学期間満了の1ヶ月前までに社会科学系経営学務係へ願い出てください。

d. 休学期間が満了しないうちに休学事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができます。

e. 休学の許可を受けようとする場合は、休学期間開始前の学期の授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

② 退学

a. 退学を希望する学生は、本学所定の「退学願」を社会科学系経営学務係に提出してください。退学には、学長の許可を得なければなりません。

b. 退学の許可を受けようとする場合は、あらかじめ、退学を希望する学期（春学期または秋学期）までの授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

③ 除籍

授業料を納付期限までに納めなかった者、在学期間を超えた者、休学期間を超えた者は、除籍されます。

(2) 住所変更等の届け出

下記の変更があった場合は、学務部 教育企画課窓口へ届け出てください。

変 更 事 項	届 け 出 る 文 書
本人の住所変更	学生住所変更届
本人の本籍の変更	本籍変更届
父母等連絡人の住所変更	父母等連絡人住所変更届
父母等連絡人の変更	父母等連絡人変更届
本人及び父母等の転籍、改姓、改名	本学所定の「転籍（改姓・改名）届」及び戸籍謄本または戸籍抄本

(3) 学生証の携帯

学生証は常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行の手続きをしてください。学生証の提示がない場合、学期末試験が受験できないほか、本学部生としてのサービスが受けられないので、十分に注意してください。

なお、学生証発行の申請窓口及び再発行までに要する日数は下記のとおりです。

受 付 窓 口	発 行 日 数
学 務 部 教 育 企 画 課	7 日 後 (土日・祝日を除く)

(4) 在学中の証明書の発行

学生はあらかじめ提出先・必要な理由・必要部数を確認し、日程に余裕を持って申し込んでください。また、証明書の書類によって申込み窓口が異なるので注意してください。なお、証明書発行の申込み並びに受領の際は必ず「学生証」を提示してください。

① 受付窓口、証明書の種類、発行日数（※土日・祝日を除いた日数）

受 付 窓 口 等	証 明 書 の 書 類		発 行 日 数
証 明 書 自 動 発 行 機 (学生センター・経営) (学部1号館ロビー)	和 文 英 文	在学証明書	即 日
		成績証明書	即 日
		卒業見込証明書	即 日
	和 文	健康診断書	即 日
社 会 科 学 系 経 営 学 務 係	和 文	調 査 書	3 日 後

※申し込み、受領の際は直接窓口に来てください。郵便等には応じません。

② 申込方法

社会科学系経営学務係受付の証明書

社会科学系経営学務係備え付けの「証明書交付願」及び封筒に必要事項（氏名等）を記入の上、申し込んでください。

(5) 卒業後の証明書の発行

下記の方法により、本人が社会科学系経営学務係に申し込んでください。本人以外には原則として交付しません。

やむを得ず本人以外の者が交付を希望する場合は、本人からの「委任状」(様式随意)及び代理人の身分証明できるものを持参(または写しを同封)してください。

① 郵送による申込方法

- a. 証明書交付願及び返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付、郵送時折曲可)を社会科学系経営学務係宛に郵送してください。

入学年月及び卒業年月
所属学科名
氏名・フリガナ(英文証明書の場合はアルファベットでも記入のこと)
必要な証明書の種類
必要部数
請求理由
提出先
連絡先住所・電話番号

- b. 証明書の交付までにかかる日数

ア. 和文: 申請書受領の翌日から数えて3日後に発送(土日・祝日を除く)

(大学院受験用の「調査書」については、指導教員が記入する事項があるため、あらかじめ電話により社会科学系経営学務係へ連絡してください。)

イ. 英文: 申請書受領の翌日から数えて7日後に発送(土日・祝日を除く)

(「英文成績証明書」については、発行までに相当の日数を要するため、あらかじめ電話により社会科学系経営学務係へ連絡を取ってください。)

② 窓口での申込方法

社会科学系経営学務係窓口へ直接本人が出向き、証明書交付願に必要事項を記入の上、申し込んでください。

後日再度お越しいただくか、郵送での受取りを希望される場合は返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付)を持参してください。

③ 証明書の種類、発行日数(※土日・休日を除いた日数)

発行対象者	証明書の種類	発行日数
卒業生	卒業証明書(和文)	3日後
	卒業証明書(英文)	7日後
	成績証明書(和文)	3日後
	成績証明書(英文)	7日後

(6) 社会科学系経営学務係窓口受付時間帯

① 社会科学系経営学務係の窓口時間帯

月 曜 日	昼間：8時30分～12時45分	13時45分～17時00分
金 曜 日	夜間：17時00分～20時00分	【ただし授業期間中のみ】

※昼休み時間（12時45分～13時45分）は窓口が閉まりますので注意してください。

※休業期間中の窓口業務は17時00分までとなるので注意してください。

※その他臨時に休業期間中と同じ扱いとすることがあるので掲示に注意してください。

② 提出物（レポート等）の提出時間帯

授業期間中 月～金（祝日を除く）	8時30分～12時45分、13時45分～20時00分
授業期間外 月～金（祝日を除く）	8時30分～12時45分、13時45分～17時00分

締切時間については、掲示等による特別の掲示がない限りは、以下のとおりです。授業科目の開講時間帯により締切時間が異なるので注意してください。締切時間が過ぎたものについては、理由（レポートBOX前の混雑、コピー機の故障等）を問わず、社会科学系経営学務係では受理しません。

1限～4限の授業科目	<u>17時00分</u>
5限～7限の授業科目	<u>20時00分</u>

(7) ゼミ室の使用

ゼミ室の鍵を借りるときは、学生証を必ず社会科学系経営学務係に提出してください。鍵は学生証と引き換えて貸し出します。なお、鍵の持ち出しあるいは返却する際には、窓口を用意されている「貸出簿」に必要事項を記入してください。

(8) 進路調査票の提出（4年次生）

4年次生は、卒業論文提出時に「進路調査票」（社会科学系経営学務係にて配布）を提出してください。なお、この「進路調査票」は経営学部での進路状況調査及び卒業生名簿作成のために使用するものです。

(9) 住所・勤務等届の提出（社会人教育プログラム学生・夜間主コースのみ）

社会人教育プログラム学生及び夜間主コースの学生は、年度初めのオリエンテーション時に配布する「住所・勤務等届」を期日までに社会科学系経営学務係窓口へ提出してください。

(10) 駐車許可証交付（社会人教育プログラム学生・夜間主コースのみ）

社会人教育プログラム学生及び夜間主コースの学生は、次のいずれかに該当するものについては、学部審議の上、車での通学を許可し駐車許可証を交付します。

- ① 勤務の都合上、車を使用しなければ講義開始時刻に間に合わない。
- ② 自宅が遠く、授業終了後の帰宅の際に交通機関がなくなるため、車を使用しないと帰宅できない。
- ③ 身体に障害があり、車を使用しないと通学が困難である（この場合は、一般プログラム学生、GBEEP学生、夜間主コースの学生を含む）

申請書類の配布及び受付は、毎年4月上旬から中旬に行います。日程等の詳細については別途通知するので掲示に注意してください。

(11) 経営学部コンタクト教員制度（担任制度・2013年度以降入学生対象）

経営学部では、特に新入学生に対する就学ケアサポートを充実させるために、経営学部コンタクト教員制度（担任制）を設けています。特に新入生は、担任教員と「face to face」の関係を築いてください。

【2017年度以降入学者】

一般プログラム及びGBEEP

1年～2年春学期終了まで	……	経営学リテラシー担当教員（掲示板に掲示します）
2年秋学期～（ゼミ生）	……	ゼミ教員
（ゼミ外生）	……	教務・厚生委員長

社会人教育プログラム

1年～	……	演習担当教員（掲示板に掲示します）
-----	----	-------------------

【2016年度以前入学者】

昼間主コース

1年～2年春学期終了まで	……	担任教員（教員名は、掲示板に掲示します）
2年秋学期～（ゼミ生）	……	ゼミ教員
（ゼミ外生）	……	教務・厚生委員長

夜間主コース

1年～2年まで	……	教務・厚生委員
3年～（ゼミ生）	……	ゼミ教員
（ゼミ外生）	……	教務・厚生委員長

(12) 留学生支援制度

本学には、留学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるように、留学生のための様々な支援制度があります。

① チューター制度

1年生・2年生の留学生に、原則として日本人学生が1名ずつチューターとしてつき、勉学上、生活上の個別の課外指導を行い、学習効果の向上の手助けをします。

② 日本語・日本事情に関する指導

留学生担当の指導のもと、定期的集い、時事問題・日本の習慣など身近な話題についての意見交換を行いながら、日本語による表現能力を養います。なお、日本人学生がゲスト・スピーカーとして参加することもあります。

日程は別途掲示します。（希望者のみの受講で、単位は与えられません。）

③ カウンセリング

留学生担当教員が、勉学上、生活上の個別相談に応じます。相談日（オフィス・アワー）は別途掲示します。

④ 留学生関連事項専門掲示板

留学生関連の連絡事項（奨学金・量の案内・イベント等）を掲示する専用掲示板がありますので、経営学部の一般学生掲示板、国際教育センター掲示板と同様に、常時確認するようにしてください。

⑤ 各種イベント

留学生による日本語スピーチコンテストや実地見学旅行等、留学生対象の各種イベントがあります。

(13) その他

- ① 学生に対する通知・諸連絡等は、全て「掲示」により行います。1日1回は必ず学生掲示板等を見て確認するよう習慣づけてください。他人まかせではなく、自分の目で確認し、主体的かつ計画的に物事を進められるよう努めてください。

横浜国立大学ホームページの学生情報システムからも、休講・補講等の情報を見ることができます。ただし連絡事項全てがみられるわけではないので注意してください。

大学のホームページ : <http://www.ynu.ac.jp/>

学生情報システム : <http://siss.jmk.ynu.ac.jp/>

- ② 休講・成績確認・試験日程その他学務関係の事項について、電話やEメールでの問い合わせには一切応じません。
- ③ 「横浜国立大学学則」、「横浜国立大学経営学部規則」等は大学ホームページに掲載されています。これらの規則は大學生活に関する重要事項を規定していますので、適宜参照してください。
- ④ 学生に対する個別の連絡等を、Eメールで行うことがありますので、YNUネットアドレスで確認してください。携帯電話や別のメールアドレスを使っている場合は、メールを転送する設定を行ってください。
- また、メールアドレスを変更したときは、必ず転送先を変更してください。

11 横浜国立大学経営学部規則

(平成16年4月1日 規則第701号)

改正 平成17年1月13日規則第478号 平成18年3月9日規則第35号

平成19年3月15日規則第16号 平成20年3月14日規則第25号

平成29年3月9日規則第43号

第1章 学科、履修コース及び授業

第1条 経営学部（以下「本学部」という。）に経営学科を置く。

第1条の2 経営学科にGlobal Business and Economics 教育プログラム（以下「GBEEP」という。）及び社会人教育プログラムを置く。

第2条 本学部の授業科目は、専門基礎科目、専門基幹科目、専門応用科目、実践科目及び演習科目並びに基礎科目、イノベーション教育科目、グローバル教育科目、外国語科目及び健康スポーツ科目とする。

2 授業は、講義、演習、実験、実習、実技及び研究指導とする。

3 学則第44条の規定に基づき、本学部における授業科目の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して、本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

4 授業科目及び履修の方法に関する細目は、別に定める。

第3条 学生は、年度ごとに履修しようとする授業科目を定め、所定期間内に経営学部長（以下「学部長」という。）に届出なければならない。

第4条 学生は、第3年次（社会人教育プログラムに所属する学生においては第1年次）から研究指導を受けなければならない。ただし、GBEEPに所属する学生である場合又は特別の理由があると認められた場合は、この限りでない。

第5条 研究指導を受けない学生は、これに代えて所定の単位数に相当する授業科目を履修しなければならない。

第2章 入学

第6条 学則第24条の規定による本学部入学者の選考は、学力検査及び出身学校長の調査書に基づいて行う。ただし、必要な場合は面接を行う。

第7条 学則第27条第1項第2号から第8号までの規定による編入学者は、本学部と同等とみなすことができる学部等からの者に限り、前条の規定に準じて別に選考する。

第3章 認定

第8条 学則第58条に規定する認定は、授業科目試験、別に定めるGPA（Grade Point Average。以下「GPA」という。）の基準及び卒業論文試験により行う。ただし、GBEEPに所属する学生及び社会人教育プログラムに所属する学生の学則第58条に規定する認定は、授業科目試験及びGPAの基準により行う。

第9条 授業科目試験は、履修を届出、かつ授業時数の2分の1以上出席した授業科目について行う。

第10条 授業科目試験は、その授業が終了する学期末に行う。ただし、担当教員が必要と認める場合は、臨時に行うことができる。

第11条 卒業論文試験は、3年を超えて在学し、専門教育科目に関して別に定める単位数以上を修得し、かつGPAが2.0以上である者について行う。ただし、編入学等による者の在学年数については、この限りではない。

第12条 卒業論文試験は、担当の指導教員が行う。ただし、研究指導を受けない学生は、学部長に願い出て特定の教員

の審査を受けなければならない。

第13条 授業科目の成績は、学則第47条第3項及び第4項に基づき、評価を行う。

2 卒業論文試験の結果は、秀、優、良、可及び不可とし、可以上を合格とする。

第14条 学則第58条第3項ただし書に規定する者のうち特別の事情があると認められる場合には、授業科目試験及び卒業論文試験を特別な時期に行うことができる。

第4章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、内地留学生及び外国人留学生

第14条の2 学則第64条第1項の規定による科目等履修生として入学を許可されることのできる者は、本学部の選考において特定の授業科目を履修する能力を有すると認められる者とする。

第15条 学則第65条第1項の規定による研究生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に該当する者で本学部の選考において特定の専門事項についての研究能力を有すると認められる者とする。

第16条 科目等履修生及び研究生の選考は、第6条の規定を準用する。

第17条 学則第67条の規定による特別聴講学生、同第68条の規定による内地留学生等、同第69条の規定による外国人留学生についての選考は、出願に要する書類の審査及び面接により行う。ただし、必要な場合には、学力検査を課するものとする。

第5章 留 学

第18条 学生が学則第55条の規定に基づき、大学（学部）間協定による留学の許可を受けようとするときは、必要書類を添えて学部長に願い出て、教授会の議を経なければならない。

2 学則第42条第3項の規定は、前項の規定により留学する場合にこれを準用する。

3 前2項に規定するもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行の際、平成16年3月31日に現に本学部に在籍する者については、なお従前の規則のとおりとする。

附 則（平成17年1月13日規則第478号）

この規則は、平成17年1月13日から施行し、平成16年7月8日から適用する。

附 則（平成18年3月9日規則第35号）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日以前に本学部に入学し、在学する者（以下「在学者」という。）及び平成18年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者（以下「再入学者等」という。）に係る教養教育科目については、改正後の経営学部規則第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 本学部が必要と認めるときは、在学者及び再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成18年度以降の入学者（再入学者等を除く。）のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

附 則（平成19年3月15日規則第16号）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成19年3月31日に現に本学部に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者に係る授業科目試験の結果及び卒業論文試験の結果については、改正後の経営学部規則第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年3月14日規則第25号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月9日規則第43号）

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に現に本学部に在学する者（以下この附則において「在学者」という。）及び平成29年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者（以下この附則において「再入学者等」という。）に係る所属学科及びコース並びに授業科目の区分については、改正後の経営学部規則第1条、第1条の2、第2条、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 本学部が必要と認めるときは、在学者及び再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成29年度以降の入学者（再入学者等を除く。）のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

12 教員一覧

専任教員

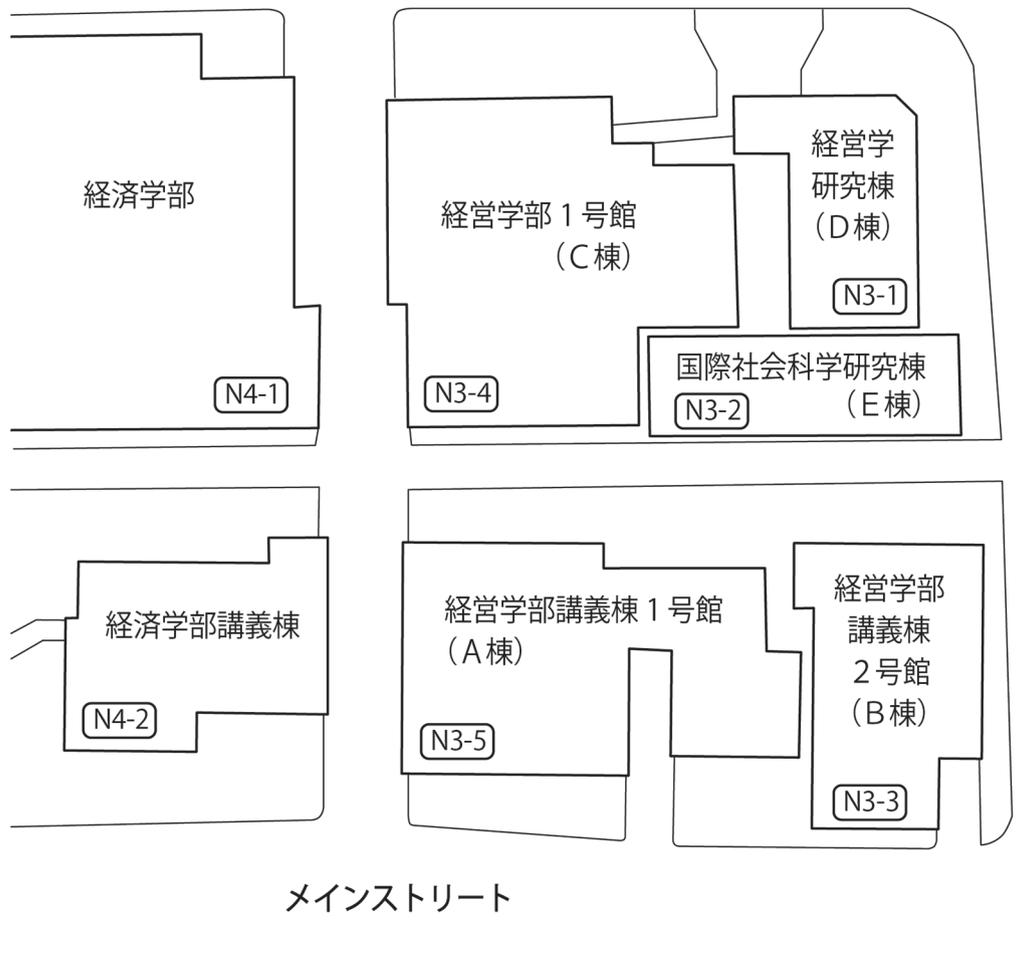
分野	氏名	主要担当科目	連絡先
マネジメント分野	小川 慎一	産業社会学Ⅰ・Ⅱ	ogawa-shinichi-nf@ynu.ac.jp
	貴志 奈央子	産業組織論、産業分析	kishi-naoko-kn@ynu.ac.jp
	公文 蔵人	経営史	kumon-kurato-ny@ynu.ac.jp
	孫 穎	環境マネジメント論、環境計画学	sun-ying-bd@ynu.ac.jp
	高井 文子	経営戦略論	takai-ayako-pr@ynu.ac.jp
	中野 弘美	現代コミュニケーション論、経営の英語	nakano-hiromi-dy@ynu.ac.jp
	服部 泰宏	行動科学、グループ・ダイナミクス	hattori-yasuhiro-kp@ynu.ac.jp
	二神 枝保	人的資源管理論・キャリア・マネジメント	futagami-shiho-hv@ynu.ac.jp
	ヘラー ダニエル	経営学総論Ⅰ・Ⅱ	daniel-heller-bs@ynu.ac.jp
	山岡 徹	経営管理論Ⅰ・Ⅱ、経営学総論Ⅰ	yamaoka-toru-zy@ynu.ac.jp
アカウンティング分野	泉 宏之	簿記論Ⅰ	izumi-hiroyuki-xm@ynu.ac.jp
	大雄 智	会計学原理Ⅰ・Ⅱ	otaka-satoru-fk@ynu.ac.jp
	大森 明	国民会計論Ⅰ・Ⅱ	omori-akira-kc@ynu.ac.jp
	君島 美葵子	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	kimijima-mikiko-bt@ynu.ac.jp
	木村 晃久	制度会計論、現代社会と会計	kimura-akihisa-zj@ynu.ac.jp
	齋藤 真哉	公会計論Ⅰ・Ⅱ	saito-shinya-xw@ynu.ac.jp
	高橋 賢	原価会計論、戦略会計論	takahashi-masaru-vhp@ynu.ac.jp
	中村 博之	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	nakamura-hiroyuki-tf@ynu.ac.jp
	原 俊雄	簿記論Ⅱ	hara-toshio-vd@ynu.ac.jp
	前山 政之	会計監査論Ⅰ・Ⅱ	maeyama-nobuyuki-fd@ynu.ac.jp
	八木 裕之	生態会計論Ⅰ・Ⅱ	yagi-hiroyuki-kd@ynu.ac.jp
マネジメント・サイエンス分野	伊藤 有希	ビジネス・エコノミクス、統計学Ⅰ-A	itoh-yuki-tp@ynu.ac.jp
	井上 徹	マイ・プロジェクトランチャー、統計学Ⅱ-A	inoue-tohru-sf@ynu.ac.jp
	郭 沛俊	意思決定論、経営科学総論	guo-peijun-cv@ynu.ac.jp
	佐藤 亮	経営情報論ⅠA・ⅡA	sato-ryo-cs@ynu.ac.jp
	鈴木 香織	数学Ⅰ・Ⅱ	suzuki-kaori-pr@ynu.ac.jp
	田名部 元成	グループ思考システム論、情報システム論	tanabu-motonari-dz@ynu.ac.jp
	鶴見 裕之	流通論、マーケティング戦略論	tsurumi-hiroyuki-md@ynu.ac.jp
	寺本 高	消費者行動論、データ解析論	teramoto-takashi-yg@ynu.ac.jp
	成島 康史	オペレーションズ・リサーチⅠ・Ⅱ	narushima-yasushi-nv@ynu.ac.jp
	松井 美樹	現代の物流経営、生産システム論	matsui-yoshiki-kj@ynu.ac.jp
	本橋 永至	統計学Ⅱ-A、マーケティング・サイエンス	motohashi-eiji-bx@ynu.ac.jp
	森田 洋	フィナンシャル・エコノミクス	morita-hiroshi-vn@ynu.ac.jp
グローバル・ビジネス分野	青木 洋	比較経営史Ⅰ・Ⅱ	aoki-hiroshi-zr@ynu.ac.jp
	大沼 雅也	グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ・Ⅱ	onuma-masaya-fr@ynu.ac.jp
	河野 英子	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	kono-hideko-kh@ynu.ac.jp
	小林 正佳	言語コミュニケーション論、経営の英語	kobayashi-masayoshi-zm@ynu.ac.jp
	柴田 裕通	国際人事管理論Ⅰ・Ⅱ	shibata-hiromichi-jb@ynu.ac.jp
	ソートン 武アーサー	比較社会文化論Ⅱ、経営の英語	takeshi-thornton-tg@ynu.ac.jp
	高須 悠介	国際会計論Ⅰ・Ⅱ	takasu-yusuke-wk@ynu.ac.jp
	高橋 正彦	比較金融制度論Ⅰ・Ⅱ	takahashi-masahiko-pr@ynu.ac.jp
	竹内 竜介	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	takeuchi-ryosuke-py@ynu.ac.jp
	曹 斗 燮	比較経営論Ⅰ・Ⅱ	cho-du-sop-fk@ynu.ac.jp
	真鍋 誠司	比較技術経営論Ⅰ・Ⅱ	manabe-seiji-vx@ynu.ac.jp
	谷地 弘安	国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	yachi-hiroyasu-dv@ynu.ac.jp
	横澤 公道	日本の経営	yokozawa-kodo-px@ynu.ac.jp

非常勤講師

氏 名	主 要 担 当 科 目	連 絡 先
穴 山 朝 子	歴史Ⅰ・Ⅱ	anayama@ynu.ac.jp
石 原 健 一	社会における実践体験 ー富丘会メッセージー	
伊 藤 淳 司	マーケティング・プラクティス、マイ・プロジェクト・ランチャー	junji@etic.or.jp
伊 藤 高 雄	国語・国文学Ⅰ・Ⅱ	
大 沢 裕	教育基礎論	
掛 川 啓 子	英語演習	
勝 部 伸 夫	企業と社会、現代企業論	
木 村 聡 雄	英語1-1-Ⅰ・1-1-Ⅱ、2-1-Ⅰ・2-1-Ⅱ	
木 村 洋 太	横浜DeNAベイスターズスポーツ経営論	
樽 沼 秀 夫	教育実習	
小 嶋 正 敏	人間科学Ⅰ・Ⅱ	
小 林 由 里 子	社会学Ⅰ・Ⅱ	qcnkn655@yahoo.co.jp
坂 原 樹 麗	統計学Ⅰ-B・Ⅱ-B	quirit@ynu.ac.jp
佐 藤 秀 典	経営組織論	sato-hidenori-rh@ynu.ac.jp
志 田 慎	ドイツ語1-Ⅰ・1-Ⅱ、2-Ⅰ・2-Ⅱ	
渋 谷 一 夫	物理学Ⅰ・Ⅱ	
白 井 明	英語演習	a-shirai@ynu.ac.jp
杉 村 倫 代	経営情報論ⅠB・ⅡB	msugimura@msnet-sq.com
関 仁	グローバルビジネス実践論	
滝 沢 哲 夫	インターネットビジネスプランニング	takizawa@webproject.com
竹 内 明 世	商法Ⅰ・Ⅱ、法学概論	
田 中 則 仁	国際経営論Ⅰ	
千 島 昭 宏	コンピュータで学ぶ統計学A・B	a-cs@ynu.ac.jp
長 友 昭	民法1・2	haochi@c-off.com
飛 田 綾 子	社会科学概論Ⅰ・Ⅱ	tobita@ynu.ac.jp
中 田 大 悟	経済Ⅰ・Ⅱ	nakata@ynu.ac.jp
西 村 将 樹	商法1・2・3	
野 村 智 清	哲学Ⅰ・Ⅱ	
平 岡 敦	フランス語1-Ⅰ・1-Ⅱ、2-Ⅰ・2-Ⅱ	hira-oka@s5.dion.ne.jp
平 野 嘉 秋	税務会計論Ⅰ・Ⅱ	
福 田 徹	証券市場論	fukuda@jsri.or.jp
松 浦 和 也	論理・倫理Ⅰ・Ⅱ	kazuyamatsuura@hotmail.com
御手洗 大 輔	法学、日本国憲法	
南 谷 奉 良	英語1-2-Ⅰ・1-2-Ⅱ、2-2-Ⅰ・2-2-Ⅱ	
ミハイル マリノフ	Electric Vehicles and Corporate Strategy	
森 山 緑	美術及び美術史Ⅰ・Ⅱ	moriyama@art-c.keio.ac.jp
矢ヶ部 重 隆	化学Ⅰ・Ⅱ	
山 田 一 子	心理学	yamada-kazuko-zc@ynu.jp
吉 田 智 也	簿記原理Ⅰ・Ⅱ	

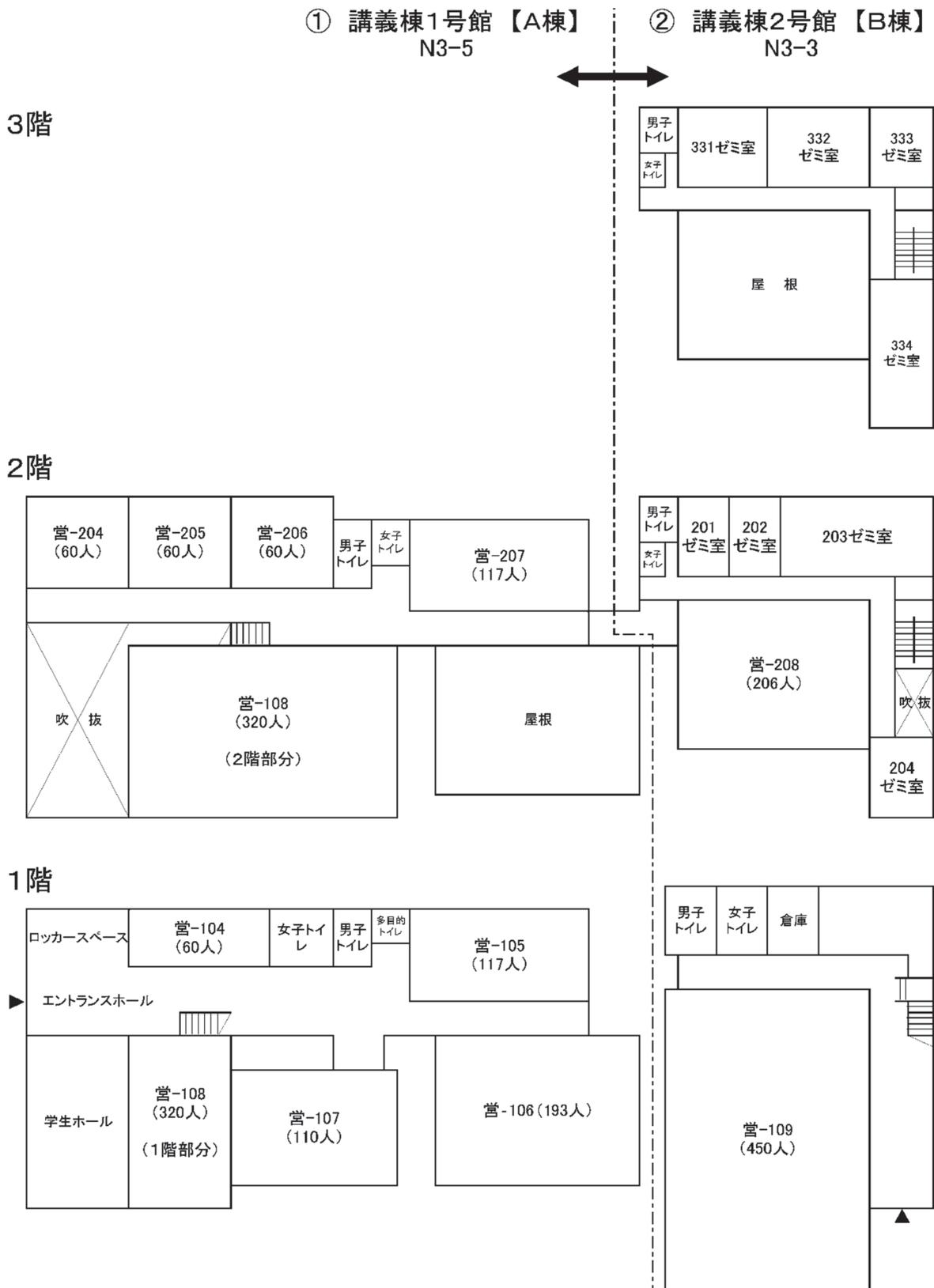
13 経営学部建物及び教室配置図

建物配置図



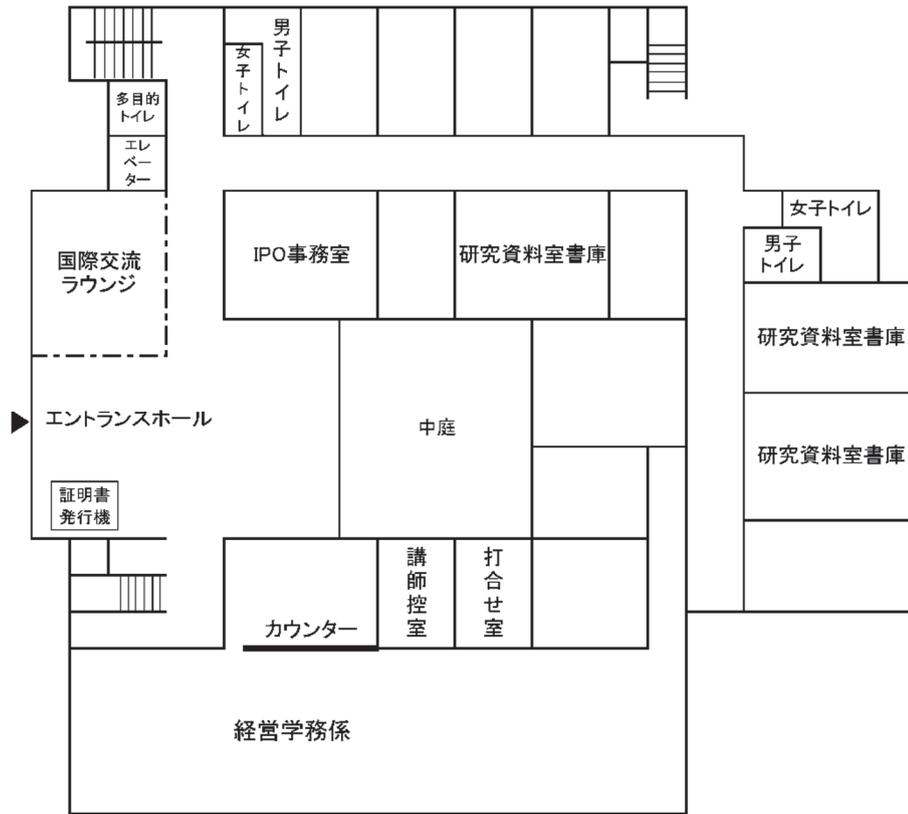
教室配置図

(1) 経営学部講義棟

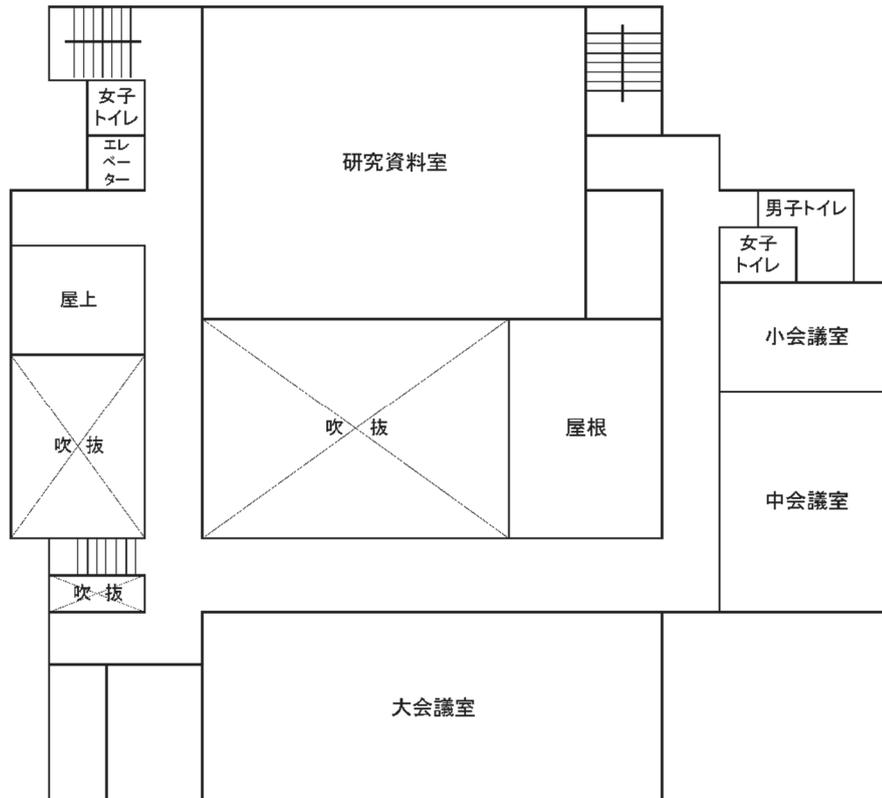


(2) 経営学部1号館〔C棟〕N3-4

1階



2階



3階



4階

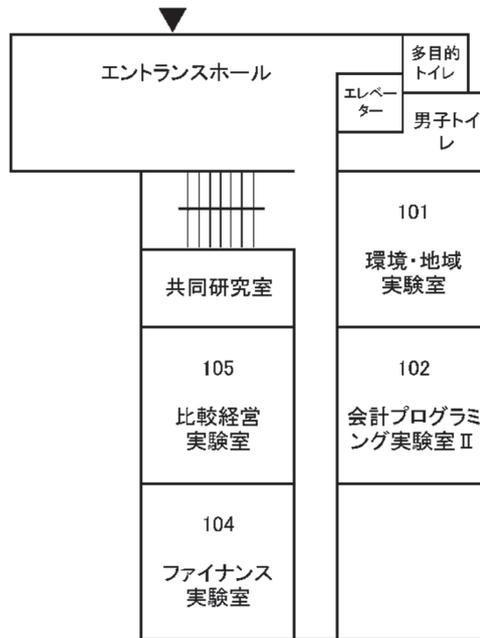


5階

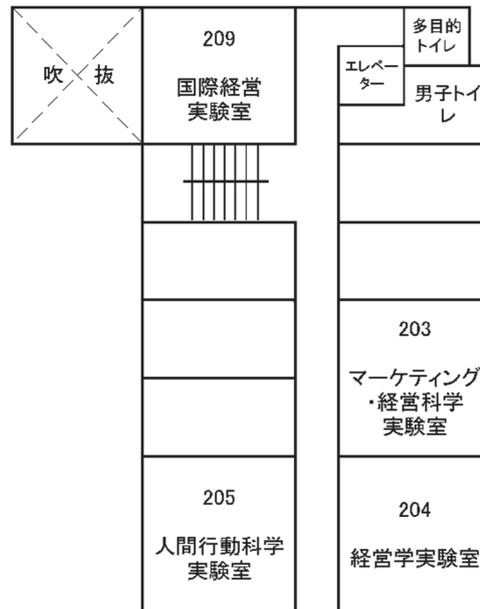


(3) 経営学研究棟〔D棟〕N3-1

1階



2階



3階 情報教育実習室
情報教育教室

4階 研究推進室